

## 2-53 水戸城跡（第7地点第25次）

所在地 水戸市三の丸 1-6-29（特別史跡旧弘道館正庁諸役会所床下）

調査期間 平成 22 年 10 月 4 日～10 月 8 日

調査面積 2 m<sup>2</sup>（陥没した箇所 1.5m 四方）

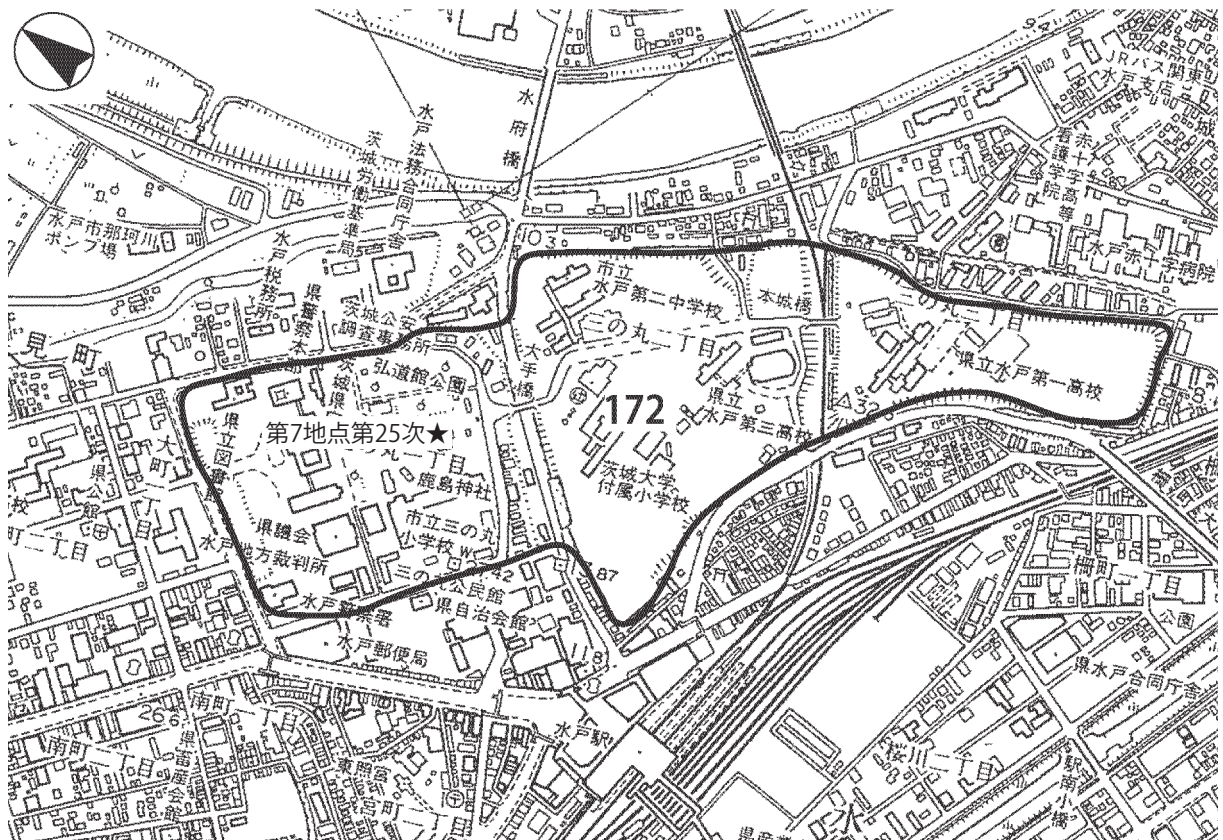
調査原因 史跡の毀損に伴う原状復旧

調査担当 渥美賢吾

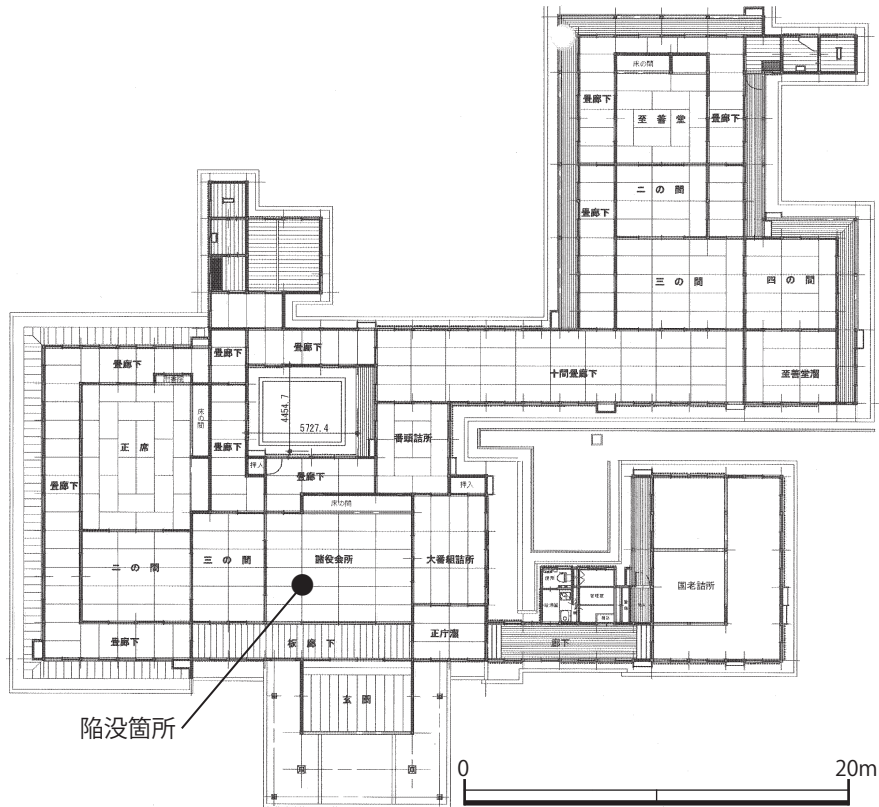
調査経緯 日常行われている重要文化財の見廻りの際、旧弘道館正庁の正面玄関に面した諸役会所の床下において東柱の礎石据え付け部分が大きく陥没し、礎石自体が崩落していたことが発見された事から（第 141 図）、平成 22 年 7 月 13 日付公街第 153-2 号及び 7 月 22 日付公街第 163-2 号にて、重要文化財及び特別史跡の毀損届が提出された。その後、平成 22 年 8 月 4 日付公街第 181-3 号にて特別史跡の現状変更許可申請書が提出され、平成 22 年 9 月 17 日付 22 受庁財第 4 号の 921 にて文化庁長官の現状変更許可を得たことから、陥没の原因と特別史跡旧弘道館の指定地内に包蔵されていると見込まれる重要遺構への影響を明らかにするため、10 月 4 日から諸役会所の南東部（陥没箇所とその周辺）の畳 3 枚分とその直下にある昭和 35 年修補の板材を暫定的に取り外し、投光器 3 基を配置して、調査員及び調査補助員が床下へと潜り込んだ。崩落土層を丁寧に除去した後、重要文化財である正庁を支える整地層のうち崩落の危険性のある部分を土層断面の観察を行いながら掘削し、崩落土層の直下に推定される遺構の検出にあたった。調査終了後、平成 22 年 11 月 18 日付公街第 354-3 号にて現状変更終了届が文化庁長官あて提出された。

(1) 調査の概要 遺構が確認されるまで、土層断面の確認等を行いつつ慎重に掘削を進めていったが、現況地盤から 1m の深度までは、陥没に伴う整地土や地山層の崩落土層が続き、この間多くの石材の出土をみた。それは、折り重なるように出土したことから、崩落に伴い落ち込んだものと推定されるとともに、昭和 34～38 年の修理工事の際に礎石周囲に配置された根固め石と考えられた。また、瓦や土器・陶磁器の破片が大量に出土した。

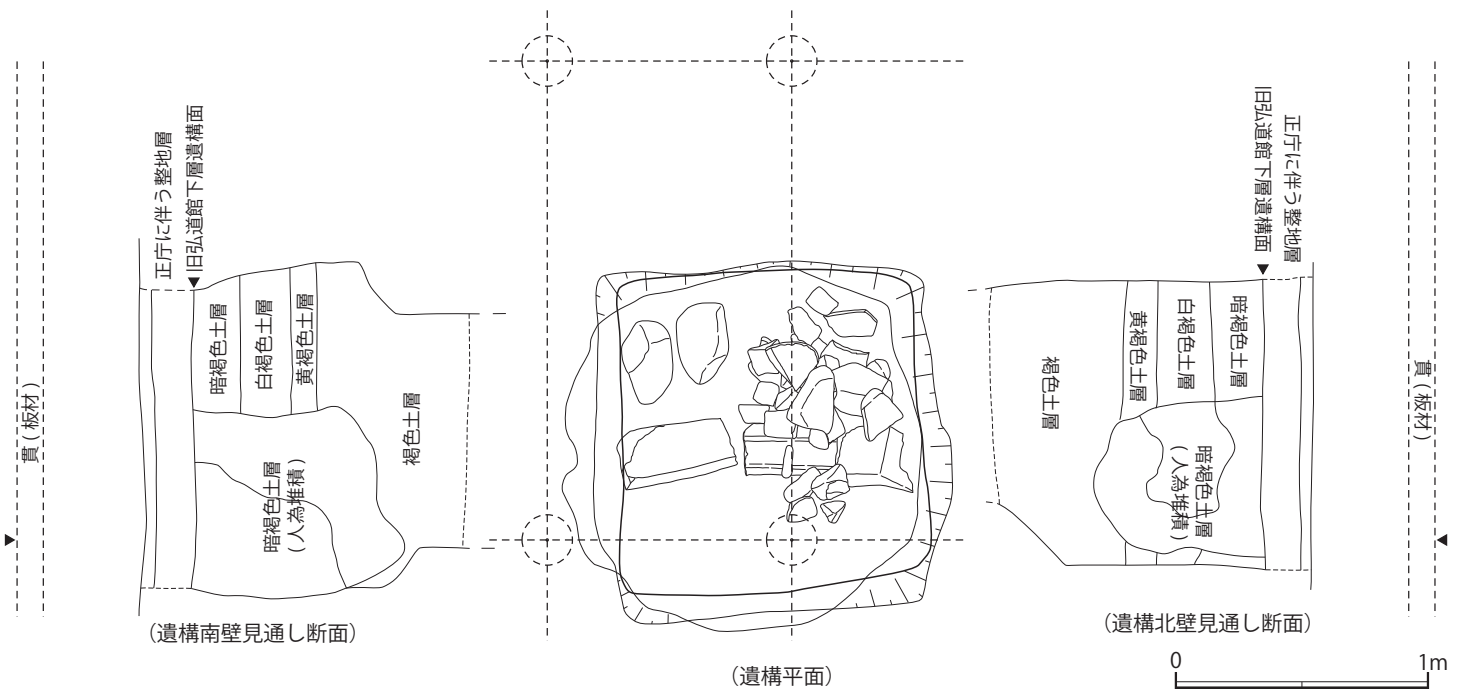
現況地盤から 1m の深度を超えたところで、次第に掘方が方形状になるのがわかったが、出土した石材の下になお空洞があることが確認され、このまま調査を終了したとしても、礎石の復旧が難しいこと、未だ遺構の性格が判然としないことから、さらに 30cm 程度掘り下げを行った。その結果、平面プランが円形的大型土坑となること



第 140 図 水戸城跡（第 7 地点第 25 次）の位置



第 141 図 特別史跡旧弘道館正庁諸役会所床下陥没箇所の位置



第 142 図 特別史跡旧弘道館正庁諸役会所床下陥没箇所の大型円形土坑

が明らかとなった(第 142 図)。ここで遺構の埋土に対して、ピンポールによるボーリングを行ったところ、未掘削深度が 1m 以上の深さを有していることが判明したことから、当該遺構は、弘道館造営以前に廃絶した井戸跡である可能性が高いと判断した。また、現況地盤から 1～1.3m において、前述の石材や瓦、土器・陶磁器のほか多量の焼土が炭化物粒子とともに出土した。それが何に起因するのかを明らかにすることはできないが、近傍に焼成等

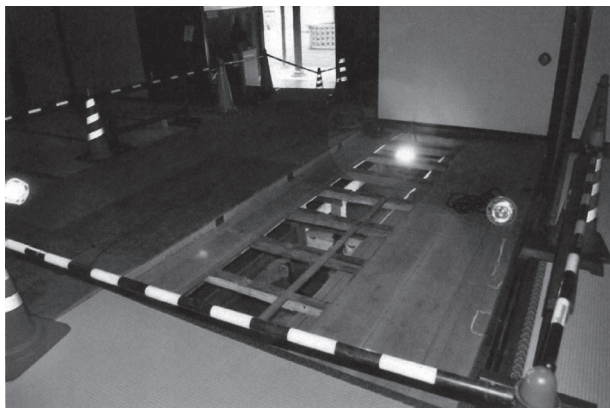


写真 173 諸役会所床下陥没箇所（東から）



写真 174 諸役会所床下陥没箇所（東から）



写真 175 諸役会所床下陥没状況（北から）



写真 176 諸役会所床下陥没箇所掘削状況（東から）



写真 177 諸役会所床下陥没箇所掘削状況（東から）

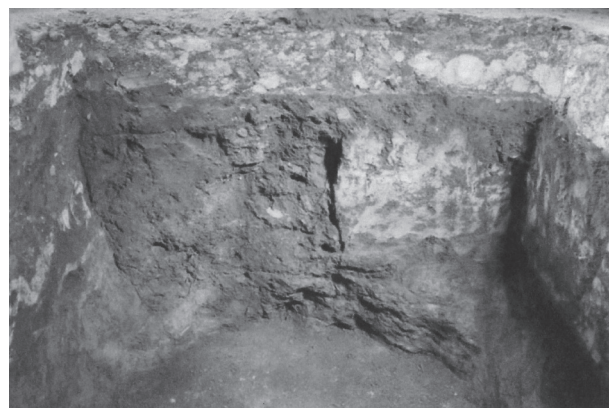
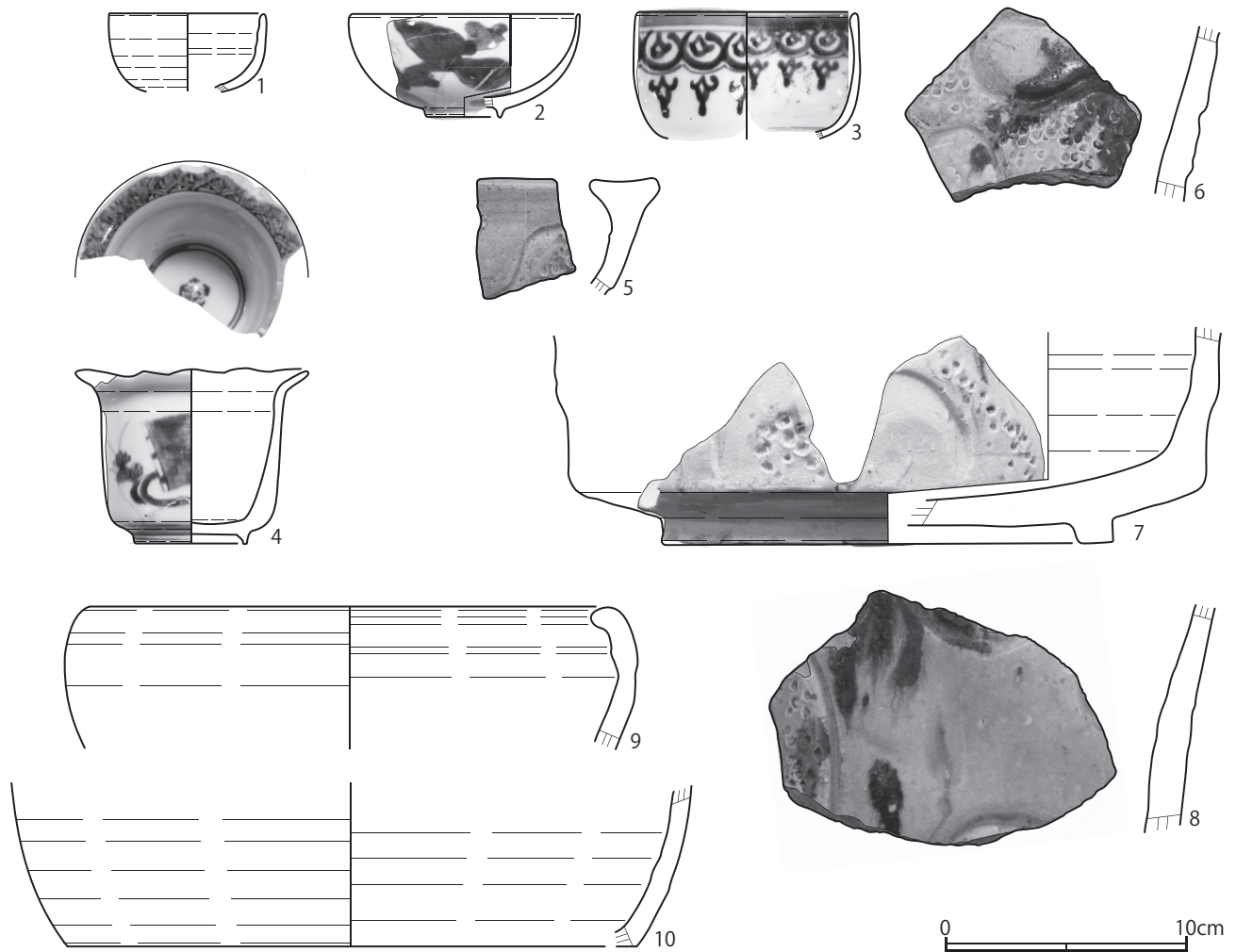


写真 178 諸役会所床下陥没箇所土層断面（東から）

に関する遺構があったか、焼損した建造物等があったことが想起される。

観察した土層断面はほぼ堆積の混乱した崩落土層であり意味をなすものではなかったが、大型円形土坑の壁面の見通し断面において、正庁に伴う整地土層と土坑の関係が明らかであったことから、これを記録に留めた。さらに整地土層の直下で大型円形土坑の埋土を切る溝状遺構の断面が確認されたが、これについては調査面積が限られていることもあり、性格は不明である。なお、陥没の原因については、①大型円形土坑（推定井戸）の埋土が十分に堆積しておらず、弘道館造営当初からある程度の空洞があったこと、②調査における掘削の最中に鼠の巣とおぼしき物体が2基確認されたことから、当初から存在していた空洞がさらに広がっていたと考えられること、以上の2点により、束柱直下に大きな空洞が生じ、これが自然災害等により何らかの大きな力が加わったことで陥没したものと推定される。  
(渥美)

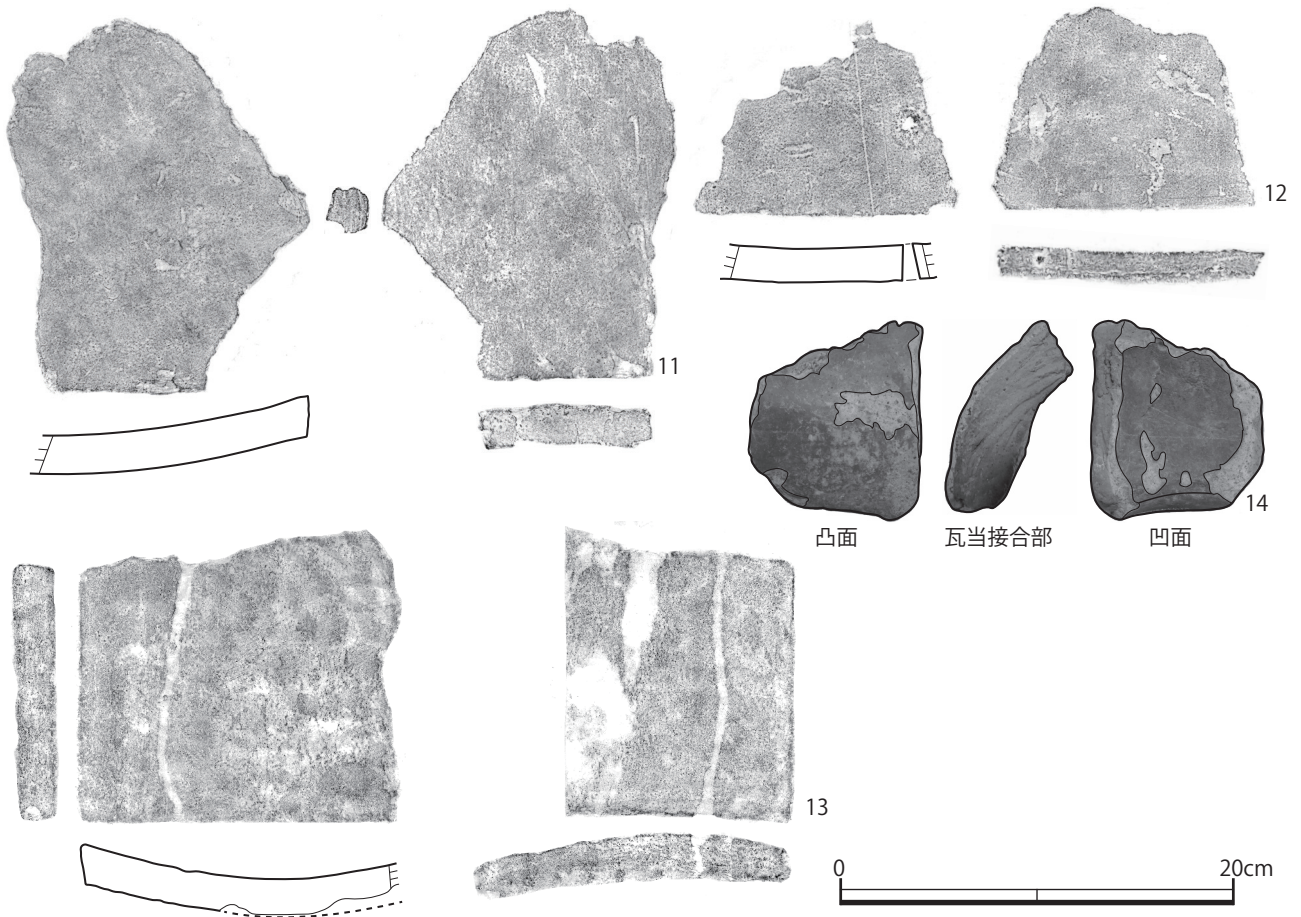
(2) 出土遺物 第143図1は器種不明の陶器であり、仏飯具の可能性もある。外面には灰釉が掛かっており、内



第 143 図 水戸城跡（第 7 地点第 25 次）大形円形土坑出土遺物①

面腰部以下は無釉である。底部（脚部カ）を欠失しており、内外面に貫入がある。生産地は不明だが遺構の検出状況から 18 世紀後半の年代が推定される。2 は磁器の半球碗で、外面は透明釉、豊付は無釉で、外面に染付で花卉文が描かれている。肥前産と推定され、1700 年代～1860 年代の年代が与えられる。3 は磁器の小丸碗で透明釉、外面口縁部の帯線に一重圈線、体部に瓔珞文、高台脇に二重圈線、内面口縁部帯線に瓔珞文、見込みに二重圈線が染付で描かれている。肥前産と推定され、1760～1810 年代の年代が与えられる。4 は磁器の折縁筒型碗で、透明釉が掛けられ、豊付は無釉、外面には花蝶・本・波文、高台脇には一重圈線、高台には二重圈線、折縁上面には四方禪文（輪花）、見込みに二重圈線、見込み中央には五弁花文が染付により描かれている。肥前産と推定され、17 世紀～18 世紀前半の年代が与えられる。5～8 は陶器・水鉢（植木鉢転用）での破片である。いずれも同一個体と考えられ、5 は口縁部、6・8 が胴部、7 が胴部～底部の破片である。紐作り成形で、外面には灰釉と鉄釉が掛けられ、外面には流水文、水飛沫部分を刺突で表現している。高台は削出高台で、内面には目痕が 2 箇所認められる。瀬戸・美濃産と推定され、18 世紀後半以降の年代が与えられる。9・10 は土師質土器の火鉢である。別個体と考えられ、9 は口縁部、10 は底部の破片である。いずれも轆轤成形で、外面にミガキ調整が施され、9 は内面に、10 は内外面に煤が付着している。10 の底部には砂目が認められる。在地産と考えられ、近世以降の製品と考えられる。第 144 図 11～13 は平瓦で、いずれも板作り・型当て成形による。12 は穿孔が 1 箇所認められ、釘孔の可能性が考えられる。いずれも在地産と推定され、17～18 世紀の年代が与えられる。14 は軒丸瓦で、板作り・型巻成形によるもので、凹面には布目痕が認められる。瓦当面を欠失しており、剥落面には瓦当との接着効果を高めるための圆弧状の沈線が施されている。在地産と推定され、17～18 世紀の年代が与えられる。

（渥美・関口）



第144図 水戸城跡（第7地点第25次）大形円形土坑出土遺物②

(3) 確認された埋蔵文化財の取扱い 特別史跡旧弘道館造営以前の遺構であるが、指定地内の遺構であることから、遺構の覆土は完掘せず、空洞部分を山砂により埋め戻し原状復旧することとした。(渥美)

### 第3章 個人住宅建築に伴う本発掘調査

第2章で報告した試掘調査のうち個人住宅建築に伴うもの及び平成20年度・平成21年度試掘調査分の個人住宅建築に伴うもので、記録保存を目的とした本発掘調査を6件実施した。このうち、アラヤ遺跡第3地点（台渡里第73次）については今後刊行を予定している『平成23年度水戸市内遺跡発掘調査報告書』に収録予定である。以下、遺跡毎・地点毎に報告する。

#### 3-1 沓掛遺跡（第4地点第2次）

所在地 見川町2570-1, 2570-4

調査面積 418㎡

調査期間 平成22年4月13日～平成22年6月11日

検出遺構 土坑15（近世1・時期不明14）、ピット10（古墳時代1, 時期不明9）

出土遺物 縄文土器（早期後葉・中期中葉・後期）、土師器（古墳前期）、陶器・土師質土器皿・錢貨（近世）

調査担当 米川暢敬

調査概要 平成21年度の試掘調査で遺構が確認された区域について、個人住宅の建築が予定され、伐根及び切り土が生じるため、申請建物建築部分を中心に伐根・切り土の及ぶ範囲を調査対象とし、発生残土置場の確保の都合上、北区・南区に分割して調査した。

(1) 土坑 計15基を検出した。計測値については、第5表のとおりである。時期については、SK03より近世の土師質土器皿（カワラケ）の底部片が1点出土していることから、近世の所産である可能性が考えられる。他の土坑については時期不明である。

(2) ピット 計10基を検出した。P05からは古墳時代前期の土師器甕片が出土したことから、古墳時代まで遡る可能性があるが、他の9基は出土遺物がないため、時期は不明である。計測値は、第5表のとおりである。（米川）

(3) 出土遺物 第146図1は表土中より出土した縄文土器である。単節LR縄文が立て方向と横方向に分けて回転



写真 179 北区遺構検出状況（南東から）



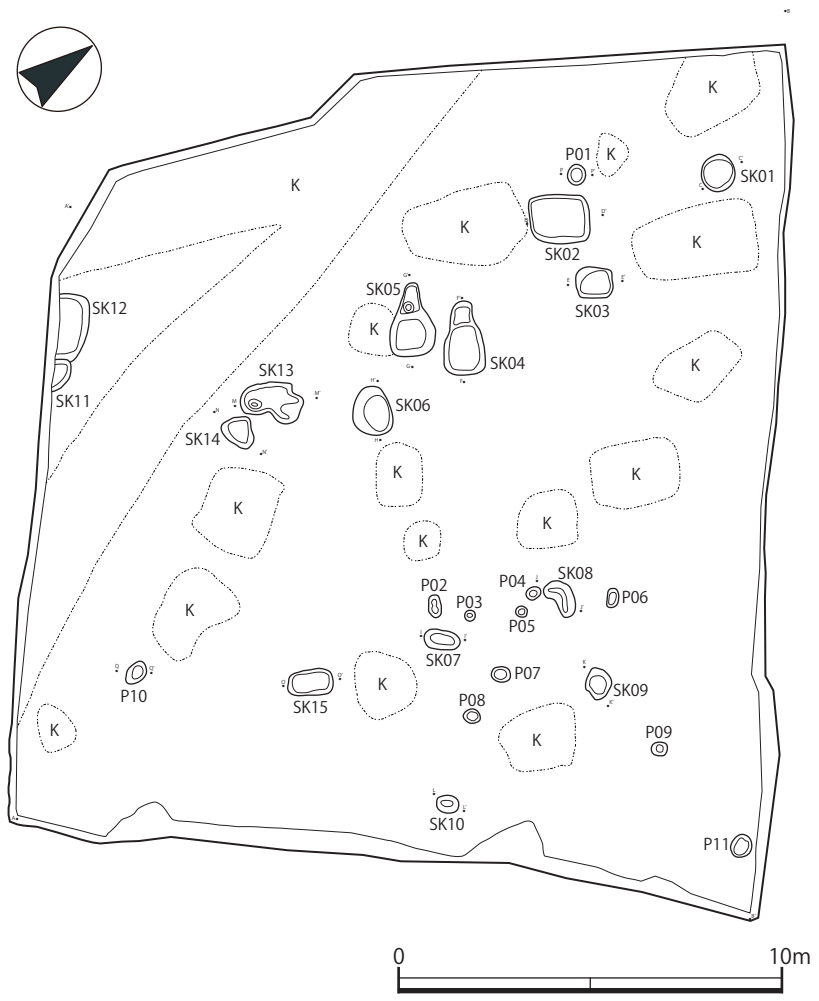
写真 180 北区遺構完掘状況（南東から）



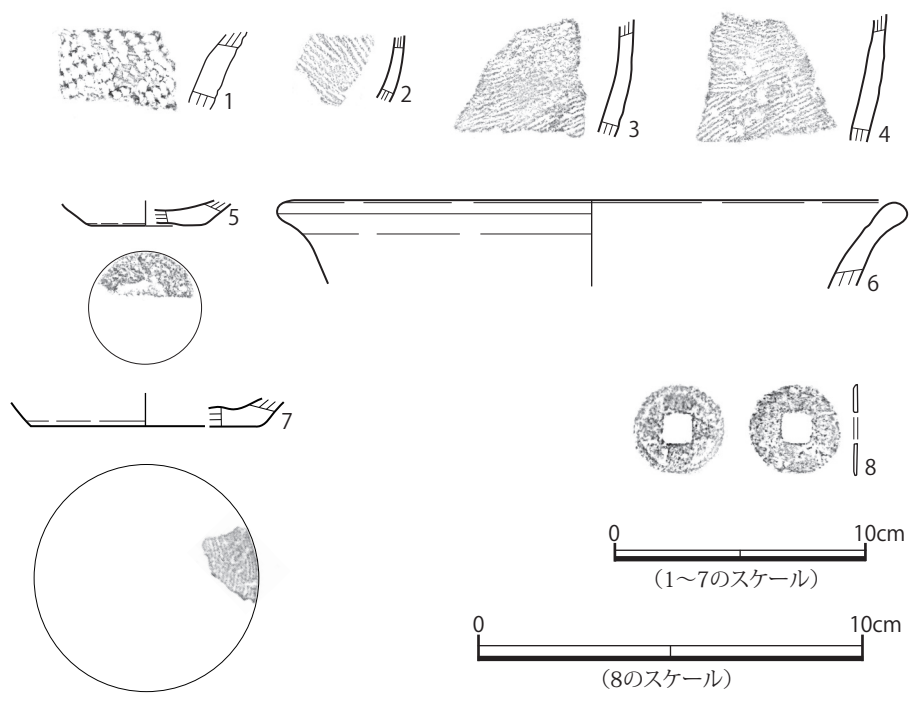
写真 181 南区遺構検出状況（南東から）



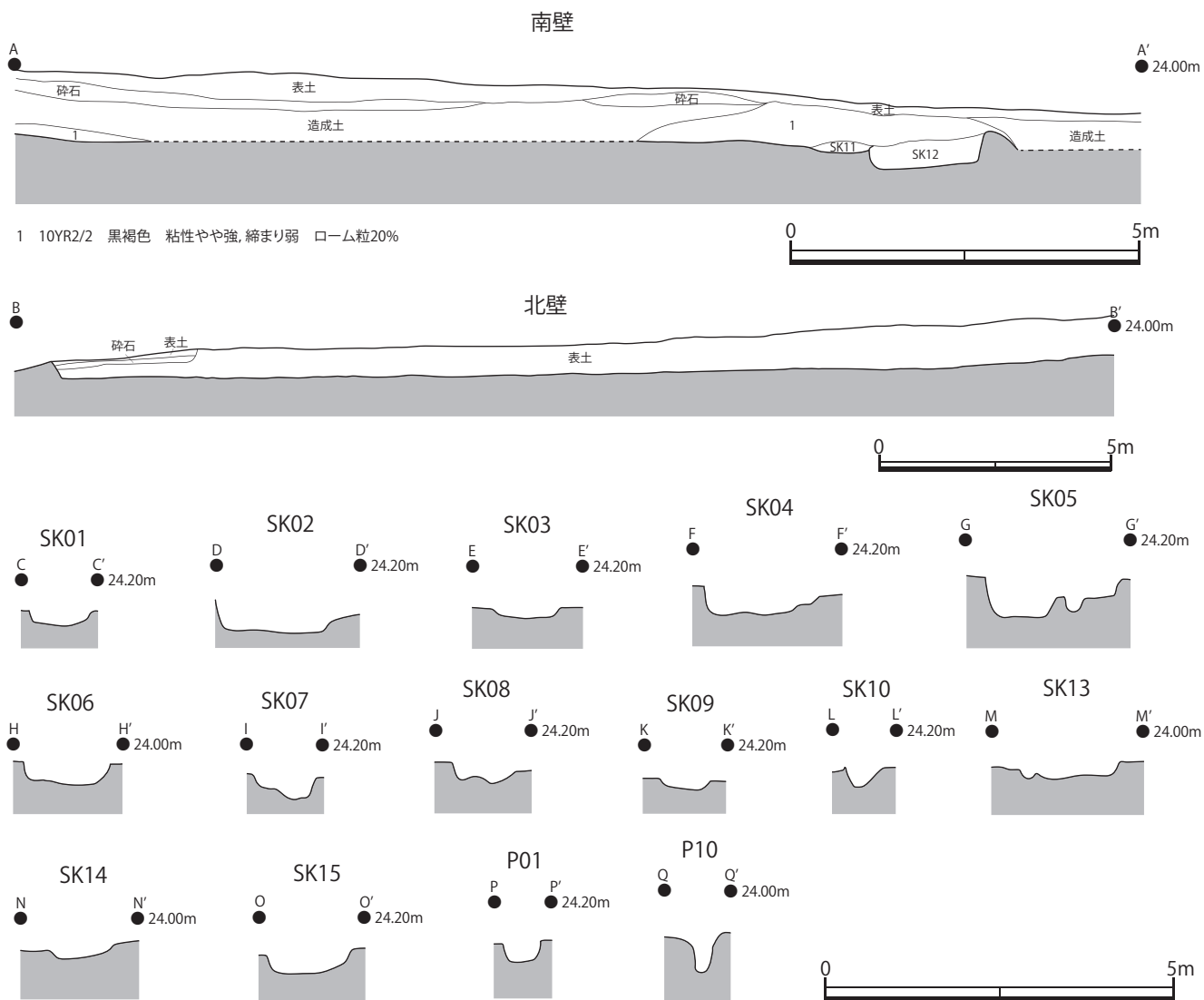
写真 182 南区遺構完掘状況（南東から）



第145図 沓掛遺跡（第4地点第2次）における遺構の配置



第146図 沓掛遺跡（第4地点第2次）出土遺物



第 147 図 沓掛遺跡（第 4 地点第 2 次）の本調査区・遺構土層断面

第 5 表 沓掛遺跡（第 4 地点第 2 次）本発掘調査検出の土坑・ピット一覧

遺構名	規模 (m)	深さ (m)	形状	遺構名	規模 (m)	深さ (m)	形状
SK01	0.8 × 1.0	0.22	円形	P01	0.5 × 0.58	—	円形
SK02	1.7 × 1.3	0.26 ~ 0.42	隅丸長方形	P02	0.35 × 0.6	—	長楕円形
SK03	1.0 × 0.9	0.16	隅丸方形	P03	0.28 × 0.3	—	円形
SK04	1.1 × 1.9	0.1 ~ 0.4	長方形	P04	0.42 × 0.38	—	長楕円形
SK05	1.1 × 2.0	0.25 ~ 0.6	長方形	P05	0.38 × 0.32	—	円形
SK06	1.1 × 1.7	0.3 ~ 0.35	円形	P06	0.34 × 0.5	—	長楕円形
SK07	1.9 × 0.6	0.2 ~ 0.35	長楕円形	P07	0.5 × 0.42	—	長楕円形
SK08	1.9 × 1.0	0.26 ~ 0.28	不整形	P08	0.45 × 0.38	—	円形
SK09	0.7 × 1.1	0.12	不整形	P09	0.4 × 0.4	—	円形
SK10	0.6 × 0.5	0.28	円形	P10	0.55 × 0.6	0.5 ~ 0.6	長楕円形
SK11	(0.7) × 0.9	—	—	P11	0.58 × 0.62	—	円形
SK12	(0.8) × 1.9	—	隅丸長方形				
SK13	1.7 × 1.1	0.26	不整形				
SK14	0.8 × 0.9	0.2	三角形				
SK15	1.2 × 0.75	0.34	隅丸長方形				



施紋されている。器厚や縄文の在り方からみて中期中葉の加曾利 E 式期に帰属するものと考えられる。2 は遺構確認面より出土した縄文土器である。単節 RL 縄文が回転施紋されており、器厚からみて後期以降の所産と理解される。3～6 は古墳時代前期の土師器である。3～5 は表土中、6 は P05 より出土した。3～4 は胴部片で外面に刷毛目調整の痕跡が残されている。5 は底部片である。6 は土師器の壺もしくは甕の口縁部片で、内面には刷毛目調整の痕跡が残されている。7 は SK03 より出土した土師質土器皿の底部片である。糸切りの回転方向については未詳だが、胎土や色調などから近世の所産と理解する。図 8 は銭貨である。腐食が著しく、文字の判別はできなかった。法量と裏面に文字がないことから、銅一文古寛永（寛文 8（1669）年初鑄）の可能性が高い。（川口・関口）

### 3-2 一戦塚遺跡（第 1 地点第 2 次）

所在地 牛伏町 181-1, 182, 185, 186 の一部

調査面積 168.32 m<sup>2</sup>

調査期間 平成 22 年 7 月 13 日～平成 22 年 8 月 13 日

検出遺構 竪穴建物跡 1（古墳前期）、溝跡 1（奈良・平安）、ピット 2（時期不明）

出土遺物 弥生土器（弥生後期）、土師器（古墳前期・古墳終末期・奈良・平安）、須恵器（古墳終末期・奈良・平安）、打製石斧（縄文）、砥石（奈良・平安）、鏡形石製模造品（古墳中期）、炉石（古墳前期）、青銅製品（奈良）

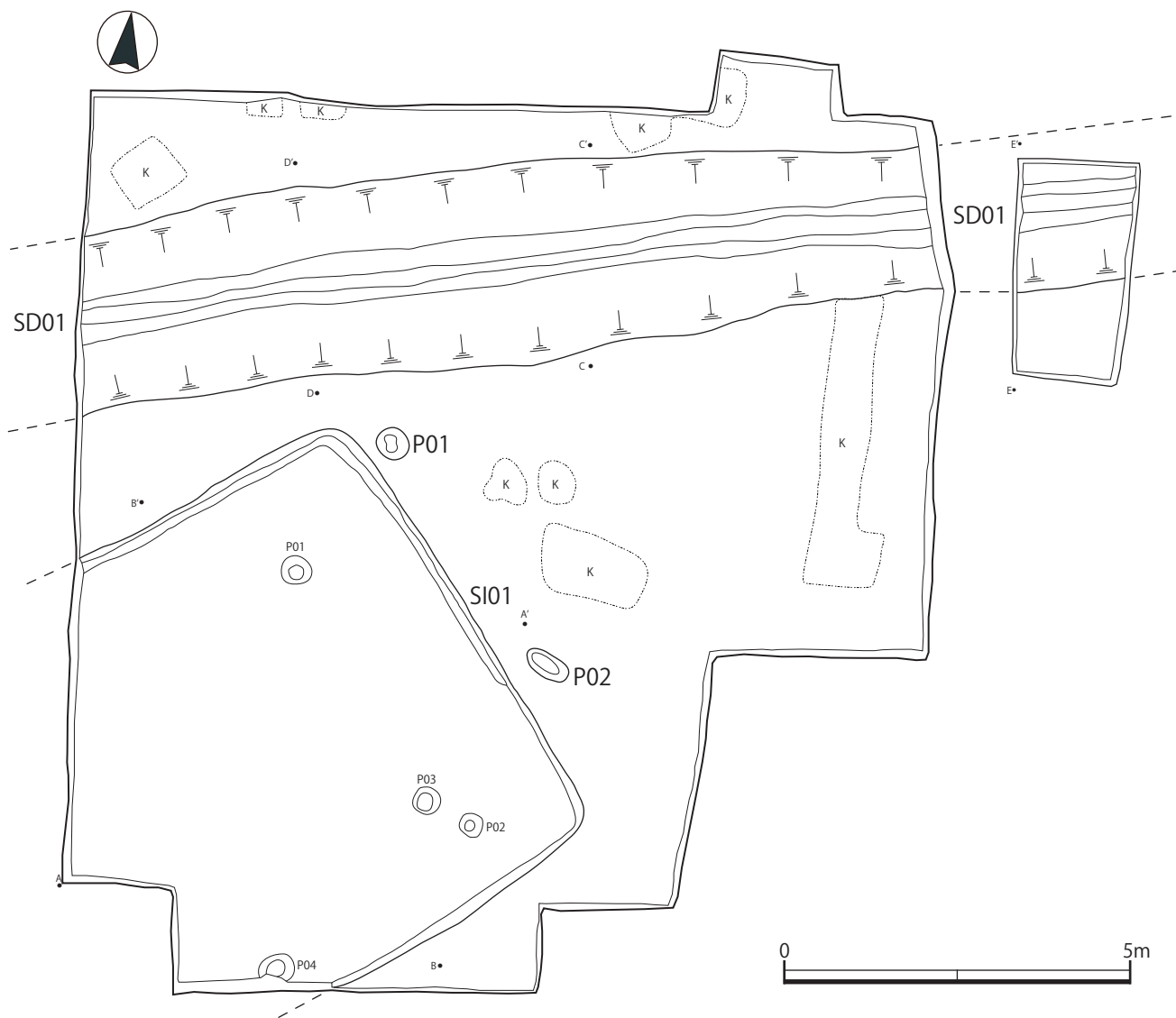
調査担当 米川暢敬・色川順子

調査概要 平成 20 年度に実施した試掘調査の際に竪穴建物跡 3 軒が確認され、西側へ申請建物を移動したが、SIO3 の延長部分が検出されることが予想されたため、申請建物部分を調査範囲とした（第 148 図）。表土を除去した結果、SIO3 の延長部分は検出されず、別の竪穴建物跡 1 軒と溝跡 1 条が検出された（第 149 図）。

(1) 竪穴建物跡 (SI01) 調査区の南側半分で検出された。調査できたのは 2/3 程度で残りは調査区外へ伸びている。主軸方向は N-130° -W で、規模は東西長が 7.0m 以上、南北長は 7.3m である。耕作による攪乱が床面まで到達しており、遺存状況は良くないが 3 層の覆土から成る（第 150 図上段）。壁から床面までの深さは 0.44～0.6m で、北壁～東壁の途中までは壁溝が巡っている。東壁の南側半分～南壁では壁溝は検出されていない。屋根を支える柱を埋設したとみられる支柱穴は 4 基確認されており（P01～P04）、中でも P02 と P03 は近接して構築されている



第 148 図 一戦塚遺跡（第 1 地点第 2 次）の本発掘調査範囲の位置

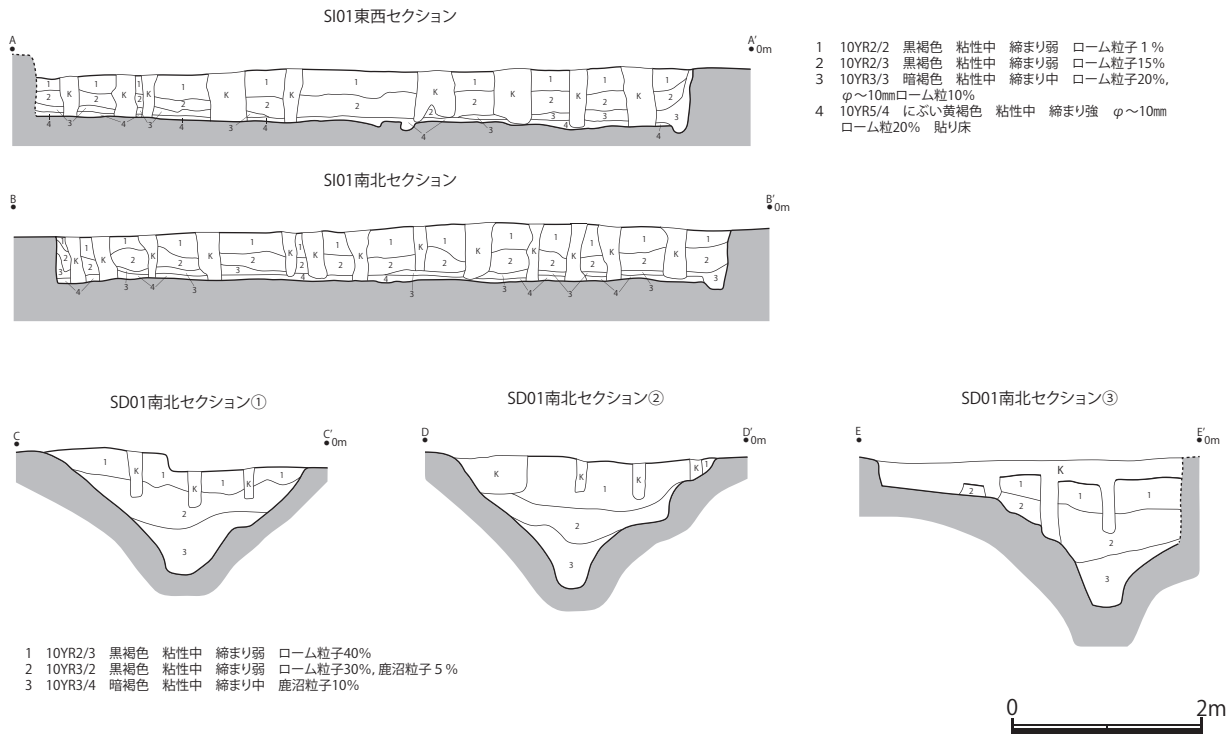


第 149 図 一戦塚遺跡（第 1 地点第 2 次）の本発掘調査の遺構配置

ことから、いずれかが柱の据え替えに伴い新たに構築されたものと理解される。攪乱により検出は困難であったが、炉石とみられる石器が出土していることから床面に炉跡が存在した可能性が高い。遺物は土師器と炉石が出土した。

第 151 図 1～2 は有段口縁壺形土器である。1 は頸部が細いのにに対し、2 はかなり幅広で甕と壺の折衷のような印象を持つ。1 は有段口縁部に刷毛目が僅かに観察され、稜の部分に細かい刻み連続して施されている。2 は刷毛目は持たないが、胴部は板状工具によりナデ調整が施されている。3～14 は甕形土器で、6・7 は口縁部に連続する刻みを有するのに対し、3～4 と 8～10 は口縁部に刻みを持たない。5 は底部～胴部にかけての破片である。10 は他の資料に比べてやや小形で鉢としても分類できるかもしれない。3～5・8～10 は外面に刷毛目調整が施されている。第 152 図 11～13 は底部の破片で 13 はかなり大きく、大形の壺形土器の底部である可能性もある。14 は頸部以上を欠失しているが、小形の壺形土器の可能性もある。15～16 は器台形土器で外面は縦方向のナデもしくはミガキ調整が施されている。15 の脚部が柱実状であるのに対し、16 は中空状となっており、円形の透しを有する。17 は高環形土器の脚部で外面は縦方向のミガキ調整が、内面は横方向の刷毛目調整が施されている。柱実状を呈する。18～20 は小形の埴形土器で 18 は赤色塗彩されている。21～35 はミニチュアの手握ね土器である。36 は被熱によるクレーター状の剥落と赤化が顕著に観察されることから炉石とみられる。以上の遺物の技術的・形態的特徴から、SI01 は古墳時代前期後半～末の竪穴建物跡と考えられる。(米川)

(2) 溝跡 (SD01) 調査区を北東方向から南西方向に横断する溝で他の遺構との重複はない。主軸方向は N-110°-W で、上面幅 2.5～3.0m、中面幅 0.5～0.75m、底面幅 0.15～0.3m で深さは 1.28m～1.4m を測る。断面は

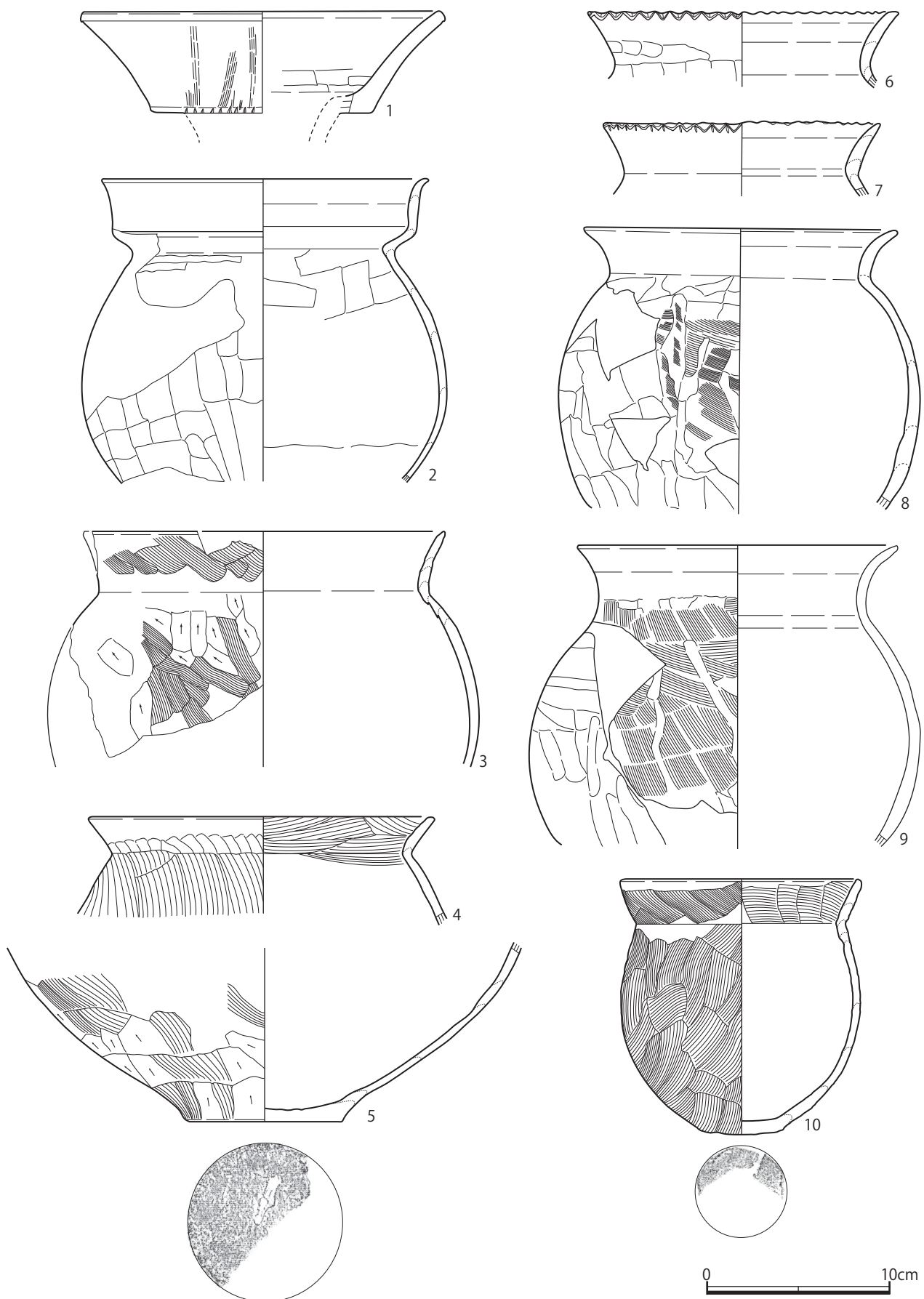


第150図 一戦塚遺跡(第1地点第2次)本発掘調査区の遺構土層断面

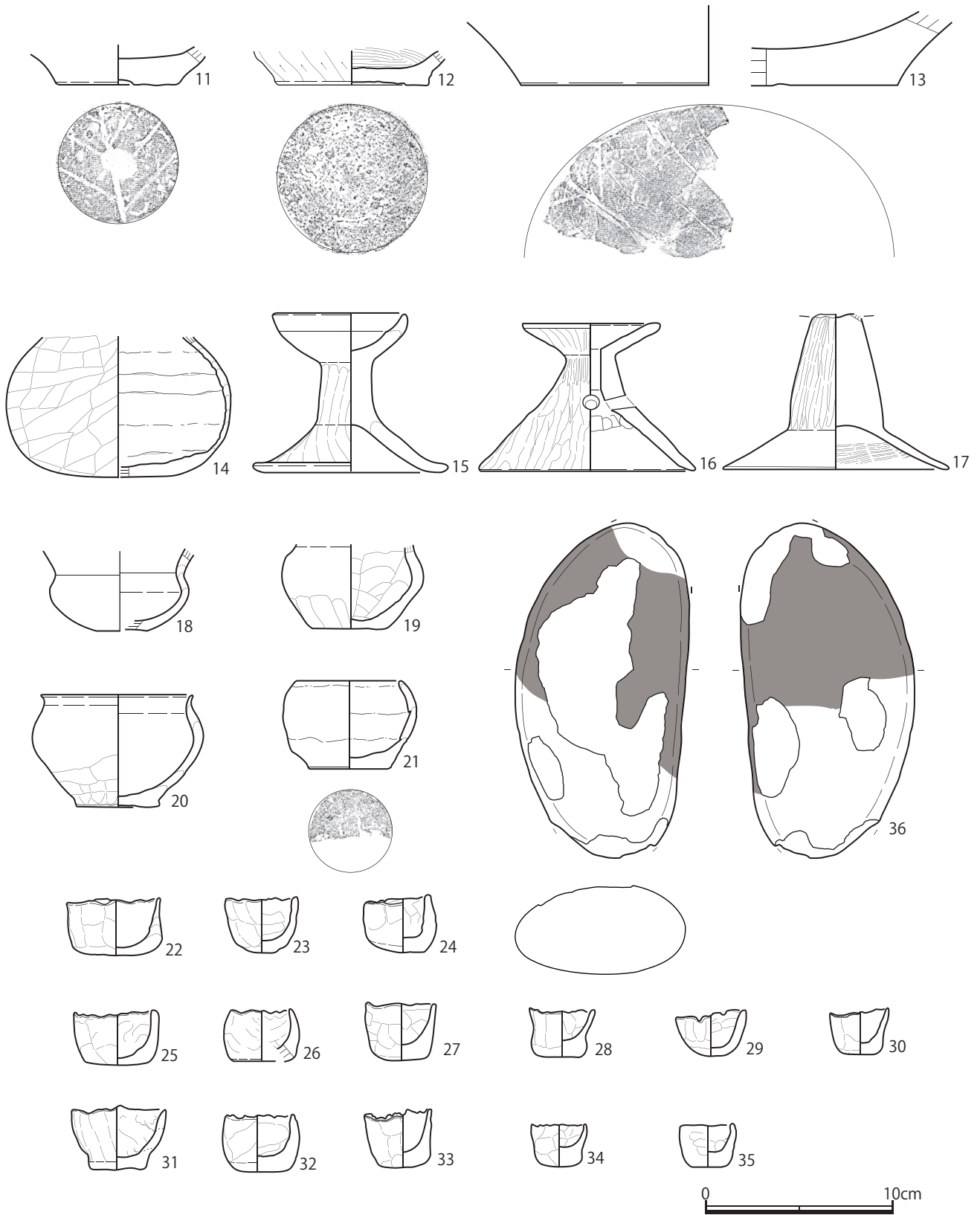
葉研状を呈し、北側に幅の狭いテラス部分が観察できる箇所もある(第150図下段)。上面が攪乱されているが、覆土は3層に分層される。遺物は土師器・須恵器・砥石が出土した。

第153図1は土師器環で体部はヘラ削り、胴部中央の稜から上はミガキ調整が施されている。技術的・形態的特徴から6世紀前葉～中葉に位置づけられる。2・3は須恵器の無台坏である。4は須恵器の有台坏である。5・6は須恵器の坏蓋である。摘まみ部は欠失しているが、端部は折り返しとなっており、技術的・形態的特徴から8世紀第3四半期頃の製品とみられる。7は三方透しを持つ高坏で、8世紀第2四半期頃の製品とみられる。8～10は須恵器甕で、8が口縁部～頸部片、9が頸部～胴部片、10は胴部～底部片である。いずれも内外面に叩きや当て具痕はみられず、9世紀以降の製品と理解される。11は高台が付く須恵器の短頸壺で8世紀第2四半期以降の製品とみられる。12は甕の底部片で外面には平行叩きの痕跡がみられる。9世紀以降の木葉下窯跡群産とみられる甕はいずれも外面に叩きの痕跡が見られないことから8世紀代の製品と理解しておきたい。13は須恵器甕の胴部片である。外面には擬格子状叩きが、内面には同心円文の当て具痕跡が顕著にみられる。こうした特徴を持つ須恵器甕は水戸市山田窯跡群(常陸古代窯業史研究会 1998)で出土していることから、7世紀第4四半期の製品と考えられる。第154図14は須恵器甕の胴部片である。15は砥石である。打撃による剥離面が数カ所に認められ、表裏面・左右両側面には顕著な研磨の痕跡が認められる。以上のようにSD01からは、6世紀前葉～9世紀と幅広い時期の遺物が出土しているが、機能していた時期は8世紀代で9世紀以降に埋没したと理解しておく。(米川)

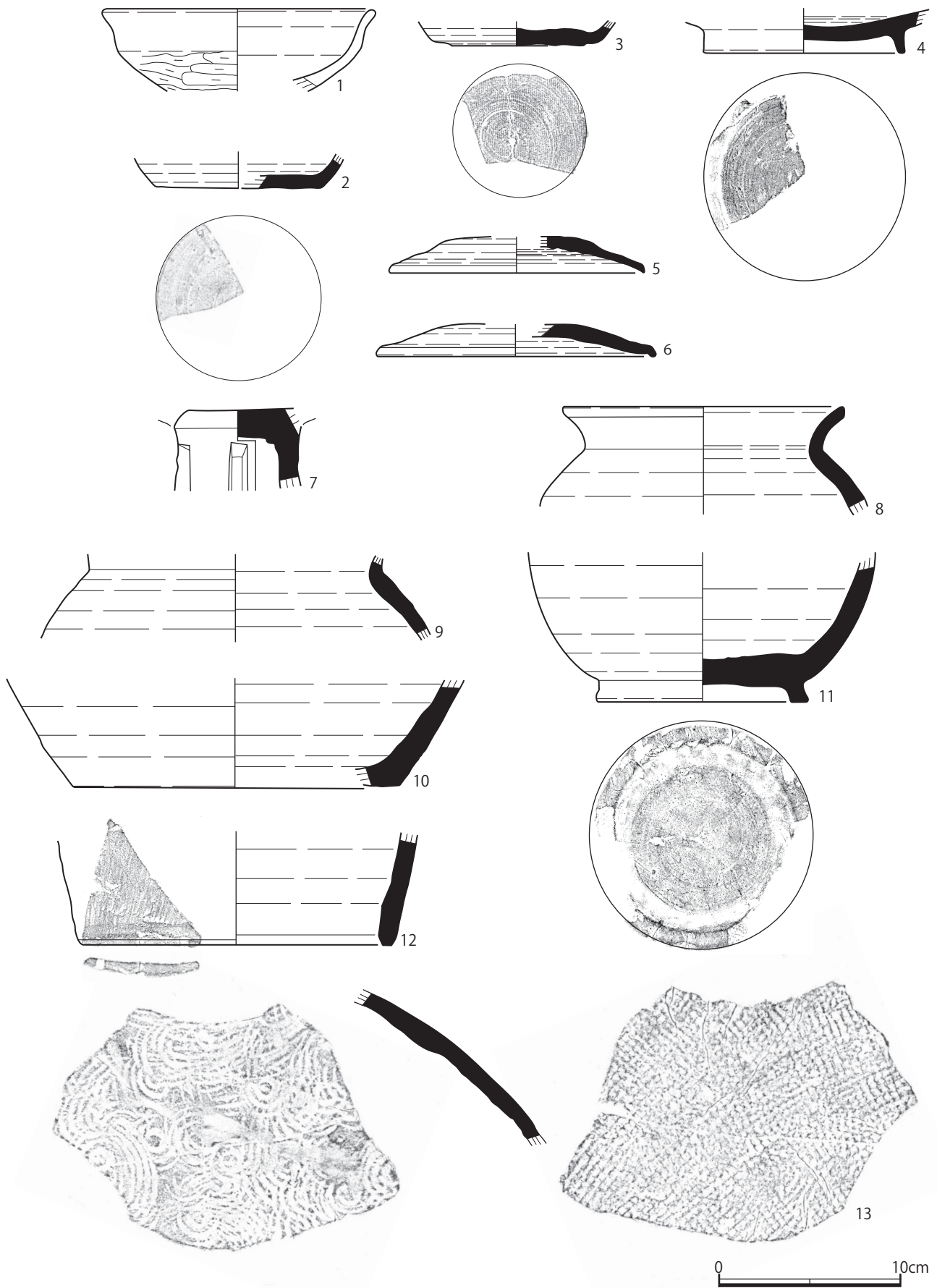
(3) 遺構外出土遺物 第155図1は縄文土器の深鉢形土器の口縁部片で前期後葉浮島式と考えられる。2～4は弥生時代後期の壺形土器である。3は底部片、2・4は胴部片である。いずれも後期十王台式と考えられる。5は打製石斧である。器体中央～刃部を欠失しているが短冊形に分類されるものと考えられる。帰属時期については不明確であるが、縄文時代のものであろうか。同様の製品は南側に接する牛伏古墳群代4号墳の調査(内原町教育委員会 1999)でも出土している。6～8は古墳時代前期の土師器である。6は小型の平底になる埴形土器で、胴部外面はヘラナデ調整が施され、内外面ともに赤彩されている。7は高坏の脚部片で柱実状を呈するものである。8は甕形土器の底部に近い部分で外面はヘラナデ調整、内面は一部に刷毛目とナデ調整が施されている。9は滑石製の双孔円板で古墳時代中期中葉に位置づけられる。10は土師器環で胴部はヘラ削りと一部ミガキ調整が施されている。技術的・形態的特徴から6世紀前葉～中葉に位置づけられる。11は須恵器環で、胎土や色調などから水戸市木葉下窯跡群の製品と考えられ、9世紀以降の製品と考えられる。12は刀装具の鏝である。青銅製で奈良時代～平安時代の製品と理解しておきたい。(川口)



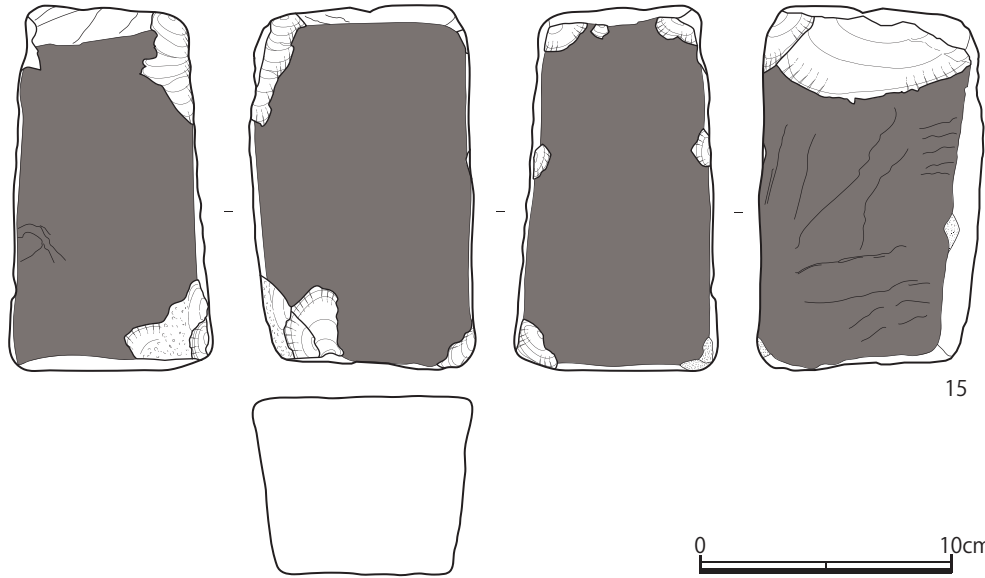
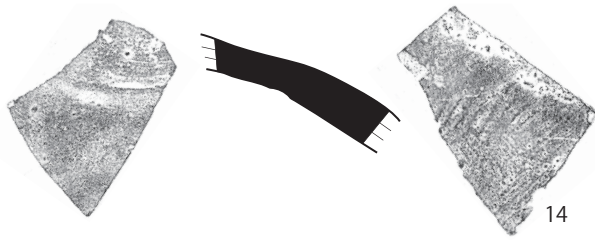
第 151 図 一戦塚遺跡（第 1 地点第 2 次）本発掘調査 SI01 出土遺物①



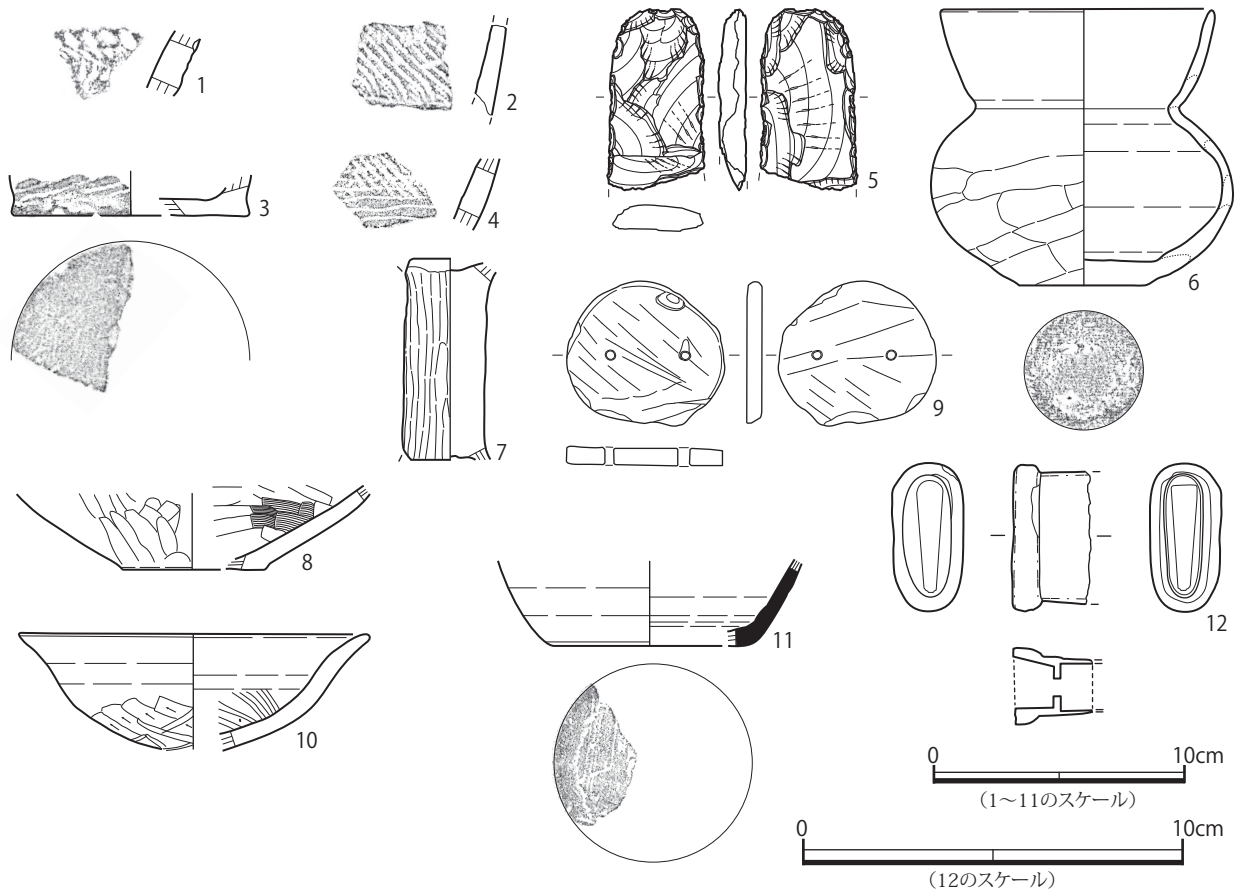
第 152 図 一戦塚遺跡（第 1 地点第 2 次）本発掘調査 SI01 出土遺物②



第153図 一戦塚遺跡（第1地点第2次）本発掘調査SD01出土遺物①



第154図 一戦塚遺跡（第1地点第2次）本発掘調査SD01出土遺物②



第155図 一戦塚遺跡（第1地点第2次）本発掘調査遺構外出土遺物

### 3-3 台渡里官衙遺跡（台渡里第 69 次）

所在地 水戸市渡里町字前原 2865-6 番地

調査面積 67.26 m<sup>2</sup>

調査期間 平成 22 年 10 月 2 日～平成 22 年 10 月 7 日

検出遺構 柵列 1（古墳終末期），井戸跡 1（中世～近世）

出土遺物 土師器・須恵器（古墳時代終末期），瓦（奈良・平安時代），瓦質土器・土師質土器・陶器（中世～近世）

調査担当 川口武彦

調査概要 埋蔵文化財に影響がある申請建物建築部分を調査対象範囲とし，関東ローム層上面を目標に重機を用いて掘削した（第 156 図）。

(1) 柵列 (SA01) 調査区の中央で検出された（第 156 図）。柱穴は計 5 基確認されており，P1 が井戸跡 SE01 により切られている。個々の柱穴の属性は第 6 表に記載のとおりである。P3b を除きいずれも隅丸方形に近い形を呈しており，1 辺が 0.8m～1.3m と規模は大きく，深さも 0.6m～1.0m と深い。一般的な集落遺跡で見られる平面形状が円形のものとは明らかに異なり，官衙的な様相を呈している。埋設されていた柱の直径は柱痕跡の規模から直径 0.25m～0.35m と推定され，柱間

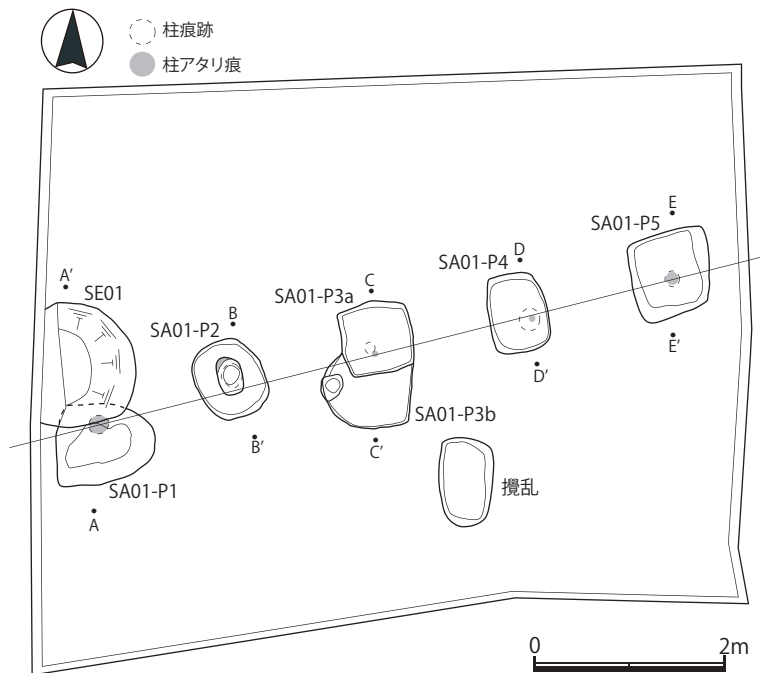
第 6 表 台渡里官衙遺跡（台渡里第 69 次）柵列 SA01 柱穴属性

柱穴名	東西長 (m)	南北長 (m)	深さ (m)	柱痕跡径 (m)	平面形
SA01-P1	1.3	1.2	0.87～0.9	0.25	隅丸方形
SA01-P2	0.9	1.05	0.6～1.0	0.35	隅丸方形
SA01-P3a	0.95	0.95	0.7～0.8	0.25	隅丸方形
SA01-P3b	1.2	1.1	0.15～0.19	—	不整形
SA01-P4	0.8	1.05	0.67～0.73	0.25	隅丸方形
SA01-P5	1.05	1.1	0.77～0.83	0.25	隅丸方形

は P1～P3 が 6 尺 (1.8m) で，P3～P5 は 8 尺 (2.4m) と異なっている。周辺における既往の発掘調査の成果から，これら 5 基の柱穴は掘立柱建物跡を構成するものではなく，一直線に続くことが確認されていること，主軸が周辺で確認されている 7 世紀後半の遺構群と同じであること（第 160 図），柱掘り方埋土に 7 世紀第 4 四半

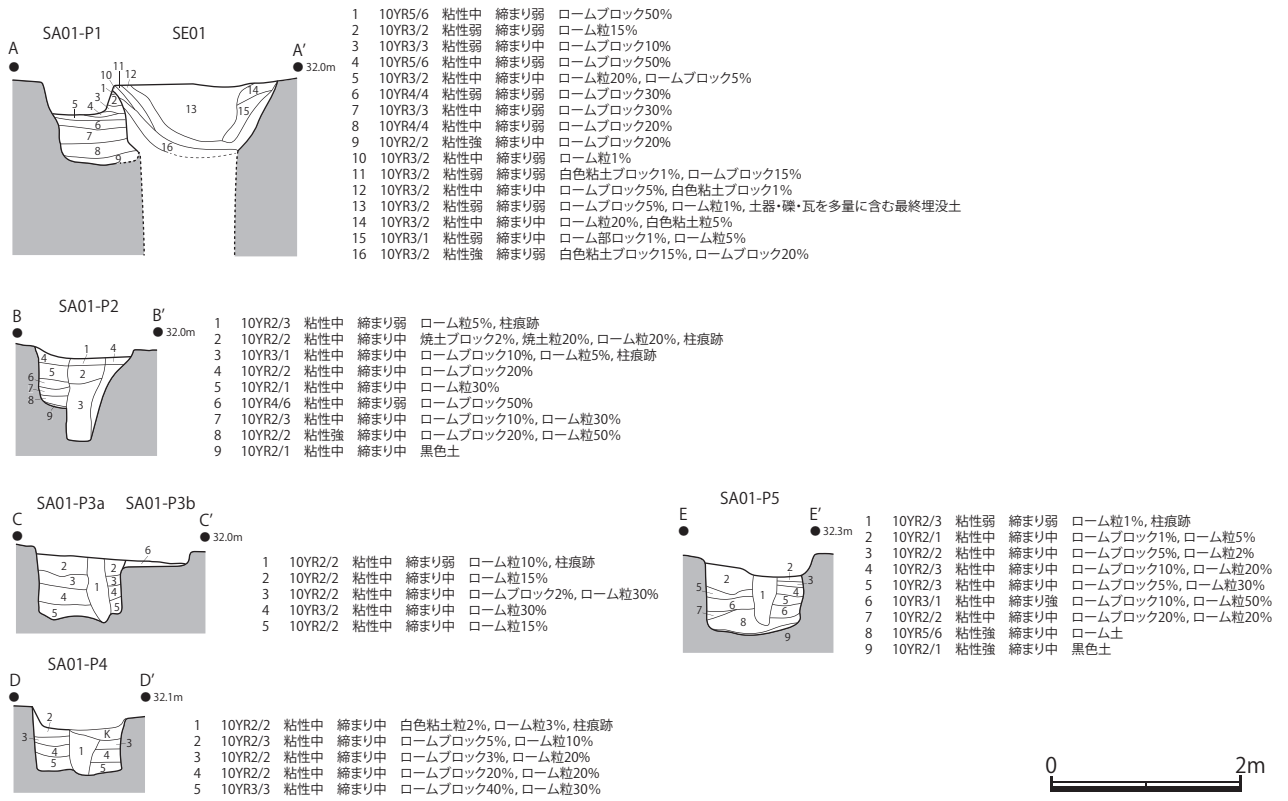
期に操業していた水戸市山田窯跡群の製品とみられる須恵器が含まれていることから，7 世紀後半に造営された柵列であると判断した。

(2) 井戸跡 (SE01) 調査区中央の西端で確認された。南北 1.75m，東西 1.2m 以上で，推定直径 1.75m である。遺構確認面までが深く，安全確保の観点から 0.75m 以上の掘削はできなかった。深さは 1.8m 以上あることをボーリングステッキにより確認している。SA01-P1 を切って構築されている。断面は漏斗状を呈しており，人為的に埋め戻されていた。遺物は最終埋没土である 1 層を中心に覆土上層からまとまって出土した。近世期の遺物が最終埋

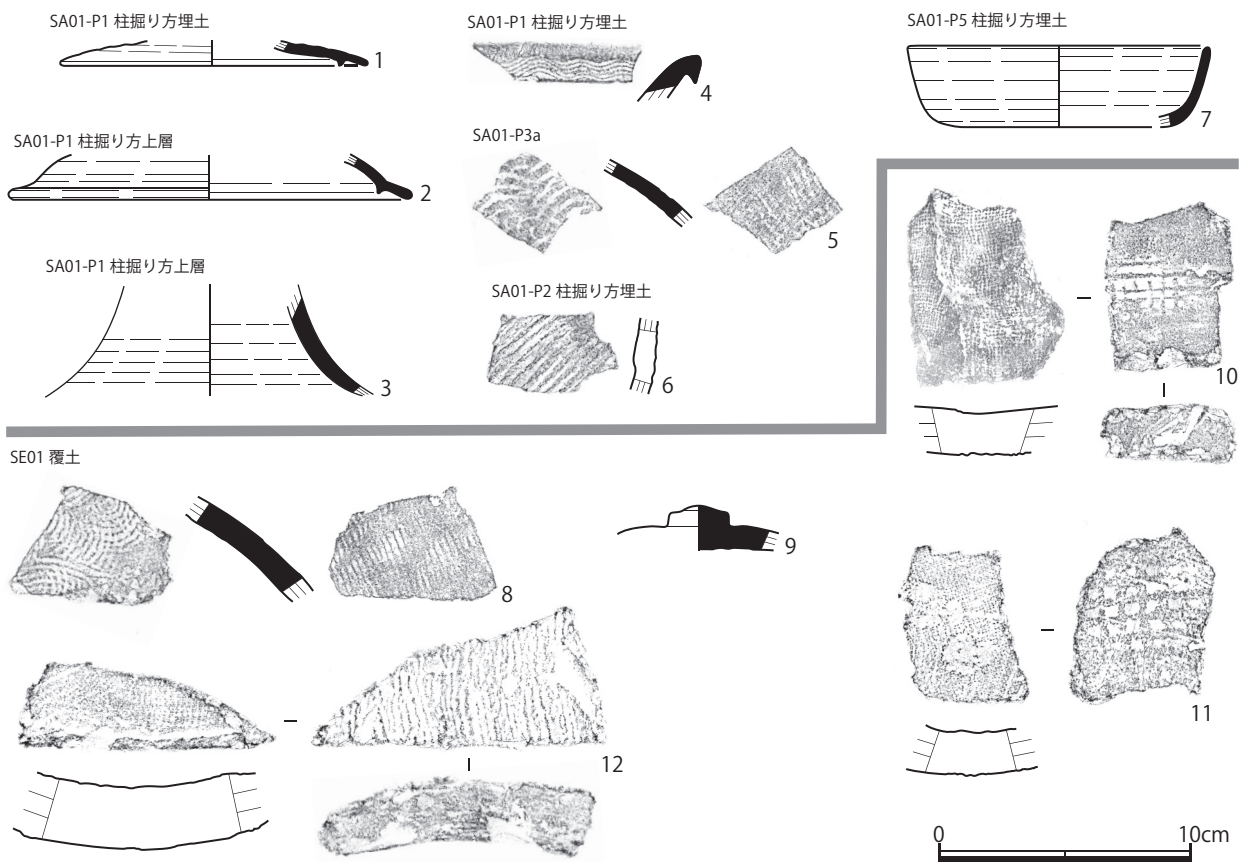


第 156 図 台渡里官衙遺跡（台渡里第 69 次）本発掘調査区遺構配置

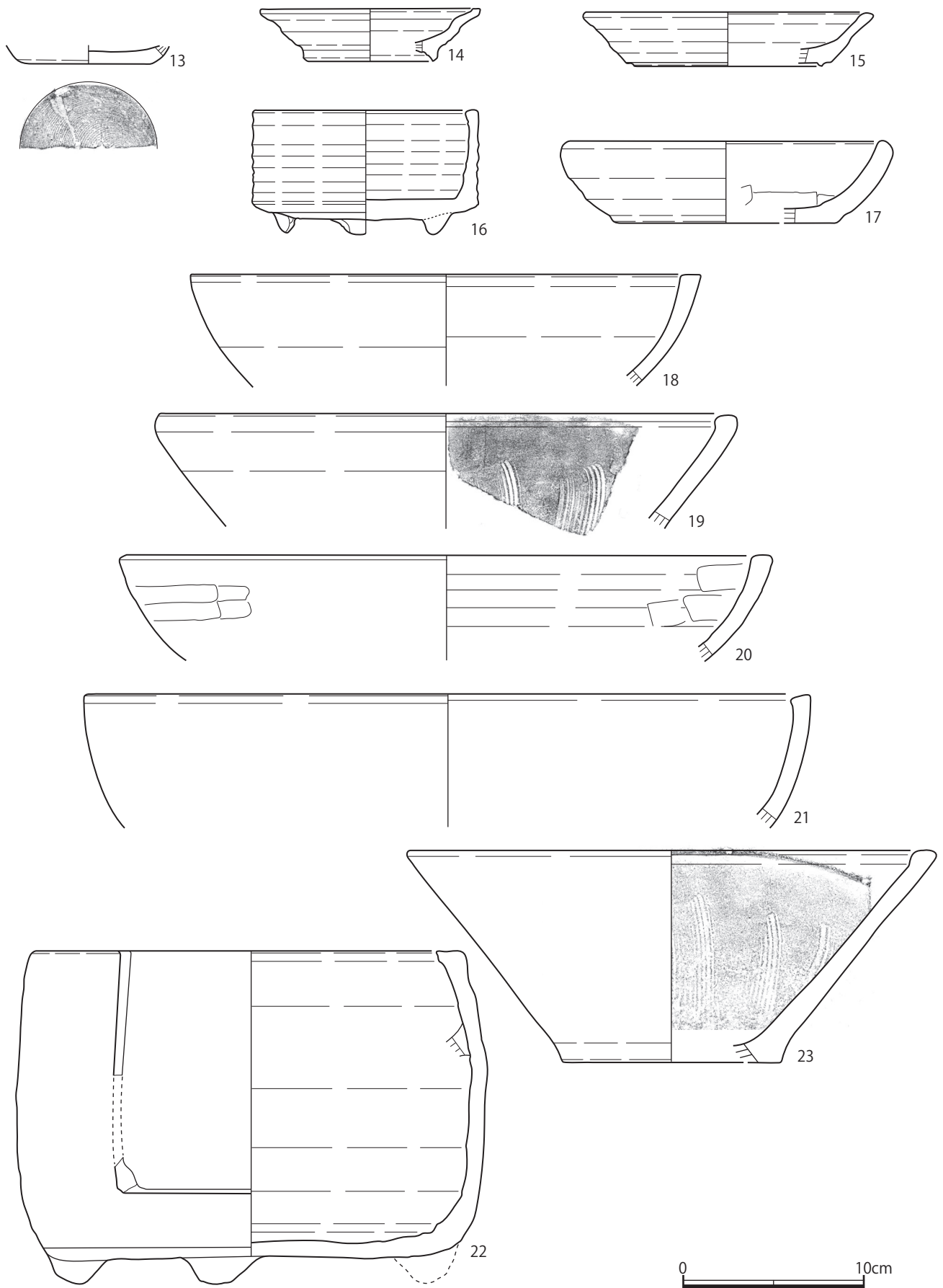




第 157 図 台渡里官衙遺跡（台渡里第 69 次）SA01 柱穴土層断面



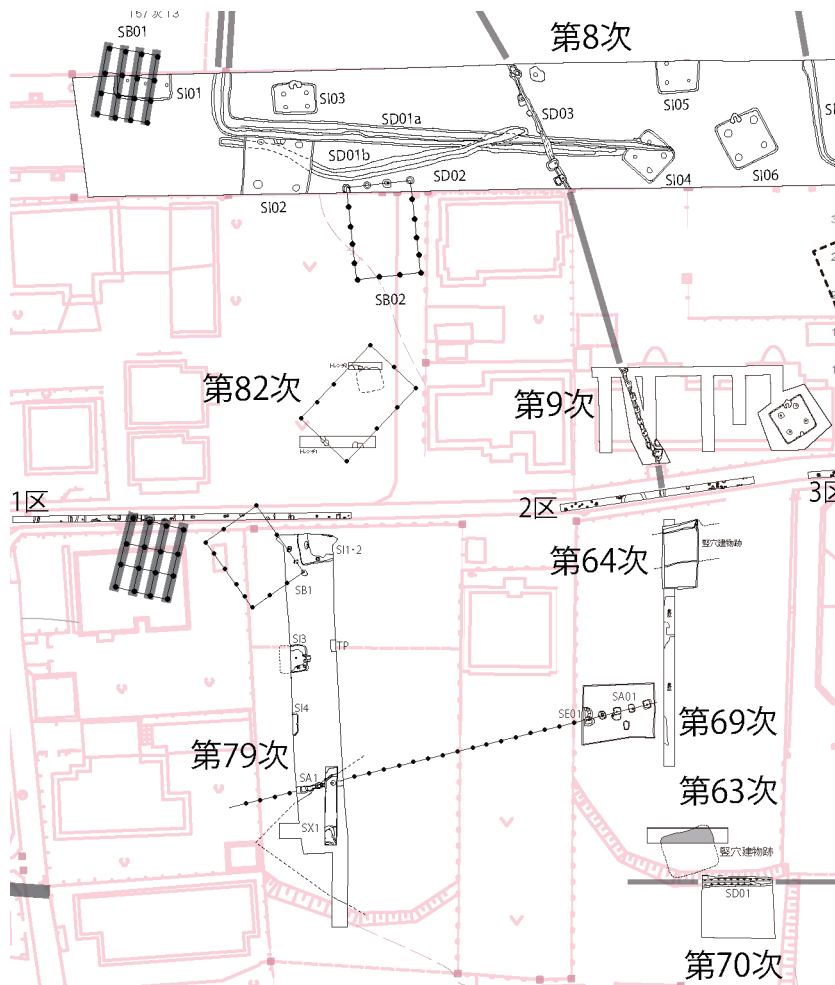
第 158 図 台渡里官衙遺跡（台渡里第 69 次）出土遺物①



第 159 图 台渡里官衙遺跡（台渡里第 69 次）出土遺物②

没土である第13層を中心に覆土上層に含まれていることから、中世の井戸跡と考えられ、近世に至って人為的に埋め戻されたと理解される。

(3) 出土遺物 第158図1～7は柵列SA01を構成する柱穴から出土した遺物である。1はSA01-P1柱掘り方埋土から出土した須恵器坏蓋である。内面にかえりを有しており、7世紀第4四半期に位置づけられる水戸市山田窯跡群の製品とみられる。2はSA01-P1の柱掘り方上層から出土した須恵器坏蓋で、内面にかえりを有しており、7世紀第4四半期に位置づけられるが、胎土に雲母を含んでいることから、新治窯跡群産の製品とみられる。3はSA01-P1の柱掘り方上層から出土した短脚坏盤の脚部の破片とみられ、近隣で実施した第26次調査の際にも7世紀第4四半期に位置づけられるT5-001号遺構(竪穴建物跡)から出土している(川口・渥美編 2007)。4はSA01-P1の柱掘り方埋土から出土した須恵器甕の口縁部片である。折り返し口縁になっており、口唇直下に4条の櫛描き波状文が施紋されている。5はSA-1-P3aから出土した須恵器甕の胴部片で、凸面には擬格子状叩きが、内面には青海波文が施紋されている。同様の製品は水戸市山田窯跡群の須恵器甕にもみられることから、7世紀第4四半期の製品とみられる。6はSA01-P2柱掘り方埋め土から出土した土師器の甕である。外面には粗い平行叩き痕が施されている。7はSA01-P5柱掘り方埋土から出土した須恵器無台坏である。同様の製品は水戸市山田窯跡群第2号窯の須恵器にもみられることから、7世紀第4四半期の製品と考えられるが、山田窯跡群第2号窯の製品には高台が剥落した痕跡があり、有台坏の可能性もある。第158図8～第159図23は井戸跡SE01から出土した遺物である。8は須恵器甕の胴部片である。外面には格子叩き痕、内面には青海波文が施紋されている。同様の特徴を持つ須恵器甕は水戸市山田窯跡群の須恵器甕にもみられることから、7世紀第4四半期の製品とみられる。9は須恵器坏蓋である。胎土は灰黄色を呈しており、薄緑色の自然釉の付着が認められる。こうした特徴は水戸市木葉下窯跡群産の須恵器にはみられず、静岡県湖西市の湖西窯跡群産の製品である可能性が高い。7世紀末～8世紀初頭頃の製品と考えられる。10～12は平瓦である。10と11は凸面に正格子叩き痕が残されているのに対し、12は凸面に長縄叩き痕が残されている。10は凹面に梓板圧痕の一部が見られることから、桶巻き作りによる製品



第160図 台渡里官衙遺跡(台渡里第69次)周辺における遺構の確認状況



写真 183 遺構検出状況 (南西から)

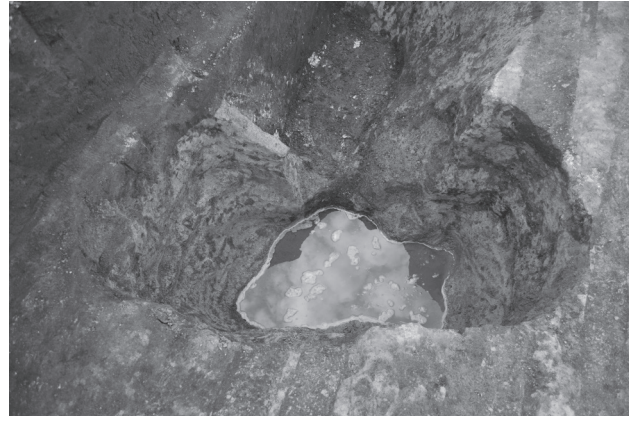


写真 184 SA01-P1 完掘状況 (南から)



写真 185 SA01-P2 土層断面 (西から)



写真 186 SA01-P2 完掘状況 (北から)



写真 187 SA01-P3a・P3b 土層断面 (西から)



写真 188 SA01-P3a・P3b 完掘状況 (北から)

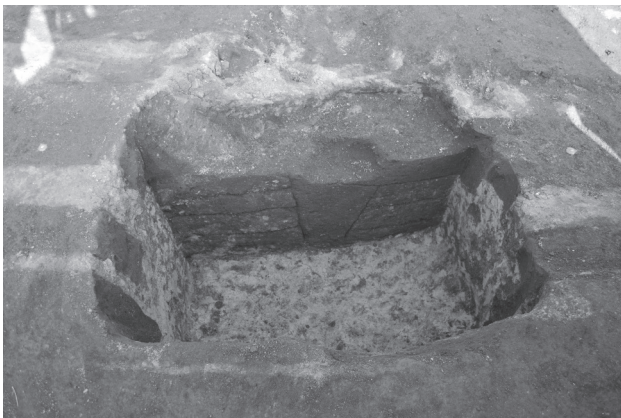


写真 189 SA01-P4 土層断面 (西から)



写真 190 SA01-P4 完掘状況 (北から)



写真 191 SA01-P5 土層断面 (西から)



写真 192 SA01-P5 完掘状況 (北から)



写真 193 SE01 土層断面 (東から)



写真 194 遺構完掘状況 (東から)

と考えられる。12は台渡里官衙遺跡群での出土例から一枚作りによる製品と考えられる。(川口)

今次調査でSE01から出土した中～近世遺物のうち、11点を図示した。詳細は観察表(第7表)を参照されたいが、内耳土鍋の可能性のある土器類(17・18・20・21)、カワラケ(13)、風炉(22)等の土器類が目立つ。また瀬戸・美濃産陶器皿(14・15)や播鉢(19・23)等も出土している。これらの遺物群は、中世末～近世初頭のものと同近世(18世紀以降)のものと同大枠でグループングできる。すなわち前者が14・17～21・23で、後者が13・15・16・22である。おおむね日常雑器に属する器種が多く、中近世農村における遺物組成の一端を窺うことができよう。

(川口・関口)

### 3-4 台渡里官衙遺跡（台渡里第70次）

所在地 水戸市渡里町字前原 2865 番地

調査面積 68.0 m<sup>2</sup>

調査期間 平成 22 年 10 月 2 日～平成 22 年 10 月 15 日

検出遺構 溝跡 1（古墳終末期～奈良時代）

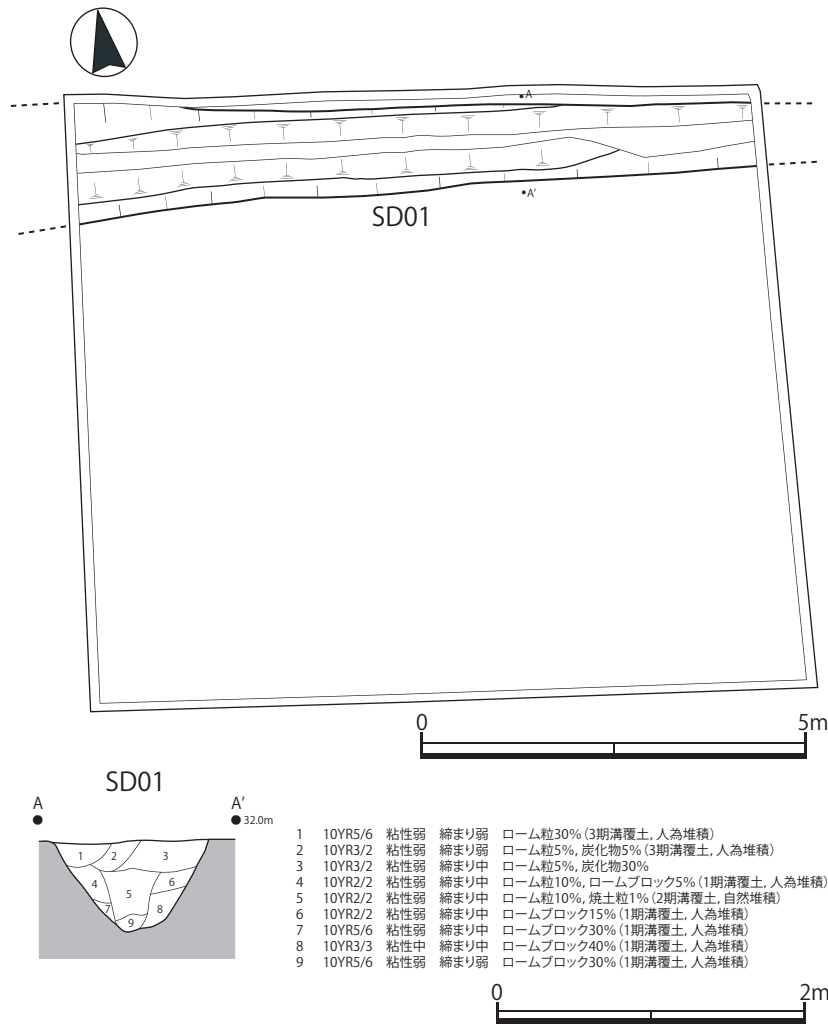
出土遺物 土師器・須恵器（古墳時代終末期～奈良時代）

調査担当 色川順子

調査概要 埋蔵文化財に影響がある申請建物建築部分を調査対象範囲とし、関東ローム層上面を目標に重機を用いて掘削したところ、東西方向に走る溝跡 1 条が検出された（第 161 図）。

(1) 溝跡（SD01） 調査区の北端で検出された（第 161 図）。進行方向は東西を向いており、トレンチャーによる攪乱が著しく及んでおり、遺存状況は良くなかったが、上面幅 1.0m～1.8m、底面幅 0.15m～0.45m、深さ 0.53m～0.69m を計り、断面は逆台形状を呈する。覆土は 9 層に分層され、その埋没状況から少なくとも 3 回の掘り直しが行われていることが想定され、最終埋没土（1 層～3 層）には炭化物が認められることから、周辺に存在した建物等が火災により焼失している可能性が考えられる。遺物は 7 世紀第 4 四半期から 8 世紀初頭頃の遺物が覆土中より出土していることから、7 世紀第 4 四半期に構築され、8 世紀初頭には埋没していると考えられる。現在のところ、この SD01 の延長部は周辺における調査では確認されていない（第 164 図）。（川口）

(2) 出土遺物 第 162 図 1～5 は SD01 の東区上層から出土した須恵器である。1 は須恵器坏蓋の摘み部で、環状鈕に分類されるものである。2～4 は須恵器坏蓋であり、2～3 は内面に短いかえりを持つものでかえりの稜はシャープである。4 は端部を折り返し、外面に面を形成する形状のものである。5 は長頸壺の口縁部と考えられ



第 161 図 台渡里官衙遺跡（台渡里第 70 次）本発掘調査区遺構配置



写真 195 SD01 遺構検出状況 (南から)

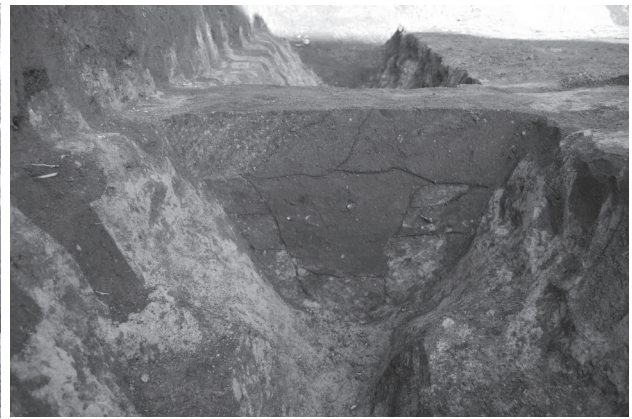
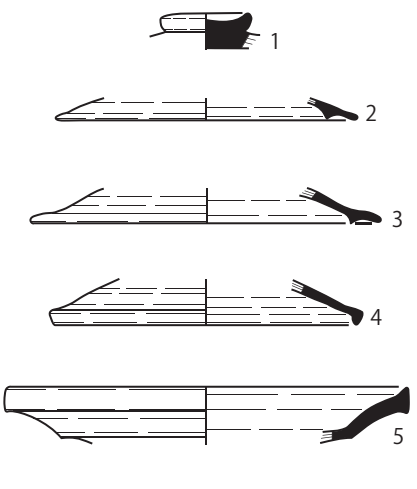
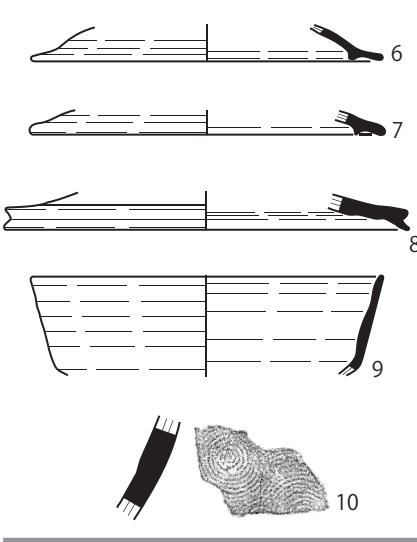


写真 196 SD01 土層断面 (西から)

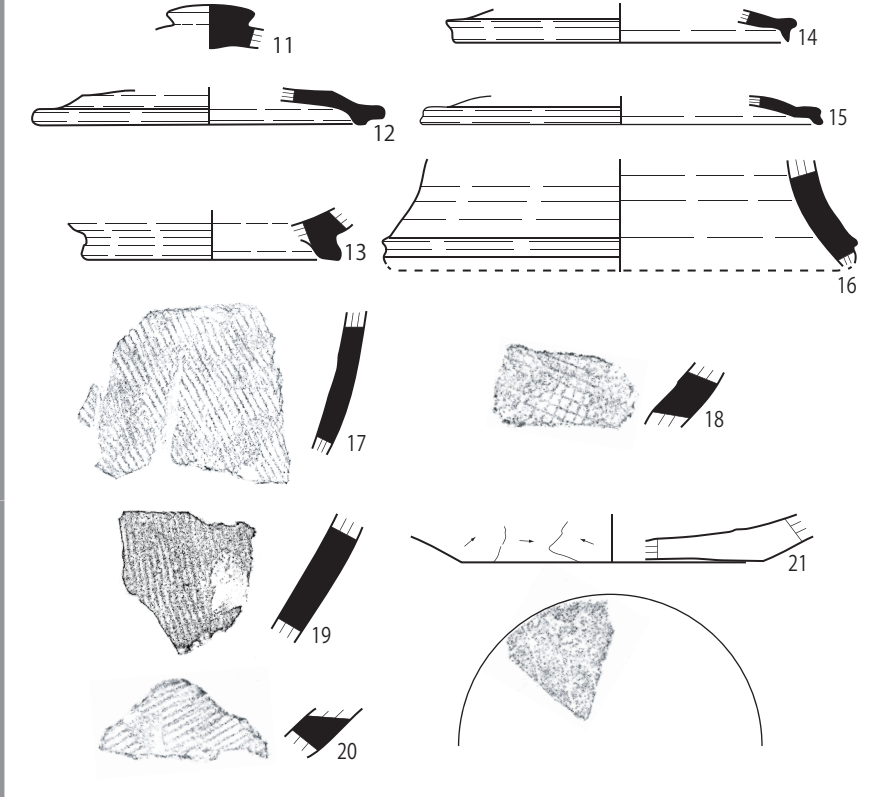
SD01 東区上層出土



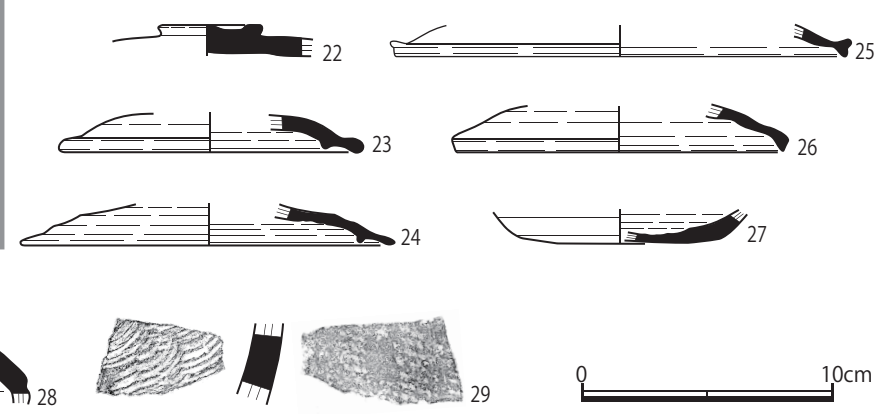
SD01 東区下層出土



SD01 西区上層出土

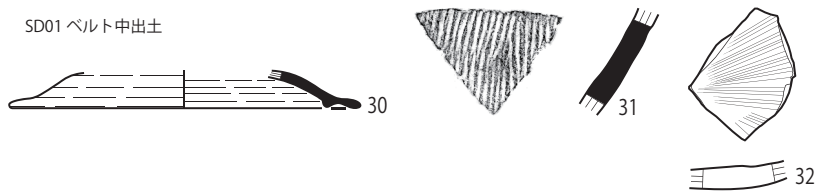


SD01 西区下層出土

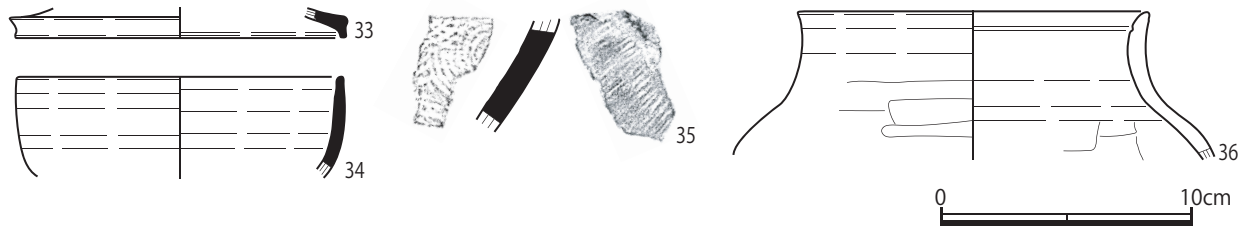


第 162 図 台渡里官衙遺跡 (第 70 次) SD01 出土遺物

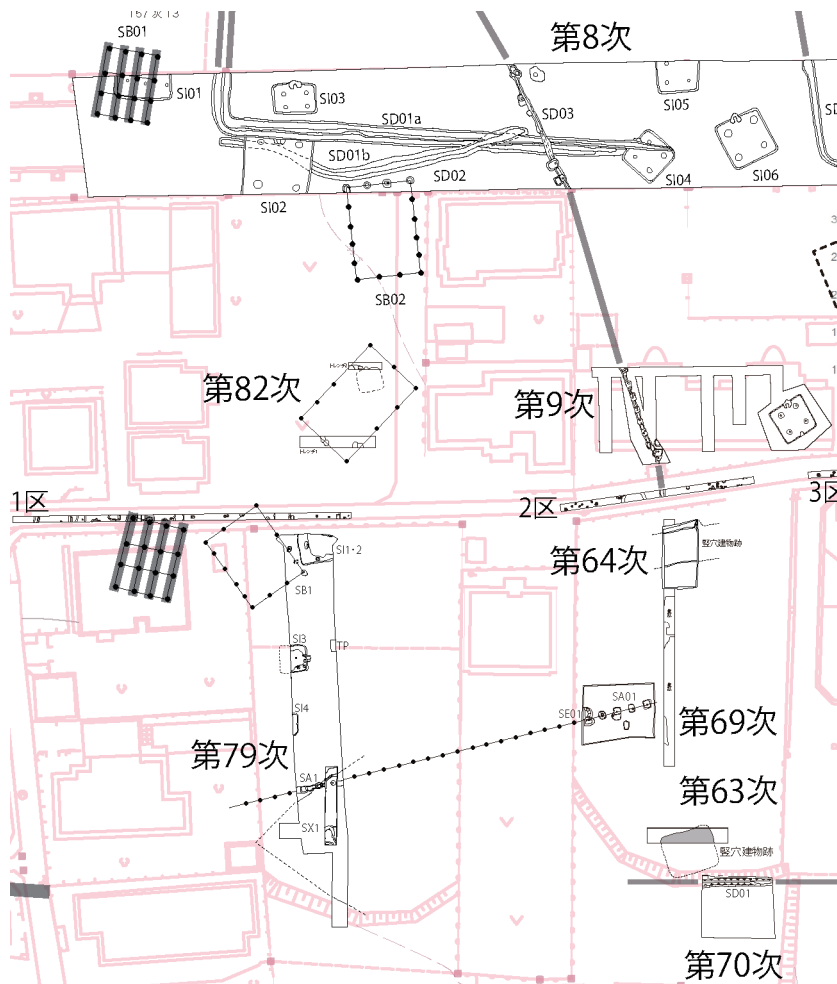
SD01 ベルト中出土



遺構確認面出土



第 163 図 台渡里官衙遺跡（第 70 次）SD01 及び遺構確認面出土遺物



第 164 図 台渡里官衙遺跡（第 70 次）周辺における遺構の確認状況



る破片で湖西窯跡群産の可能性がある。1と3は胎土に雲母を含むことから新治窯跡群の製品とみられ、それ以外は雲母を含まないことから、2は山田窯跡群、4は山田窯跡群もしくは木葉下窯跡群の製品とみられる。

6～10はSD01の東区下層から出土した須恵器で、6～8は須恵器坏蓋で、9は無台坏としたが、低脚もしくは高台が付く有台坏の可能性もある。10は外面に同心円文叩きが施された須恵器甕である6～9は胎土に雲母を含まず、6・7は山田窯跡群、8・9は木葉下窯跡群の製品とみられる。10は胎土に雲母を含むことから新治窯跡群の製品と考えられる。

11～20はSD01西区上層から出土した須恵器と土師器である。11は須恵器坏蓋の摘み部で宝珠状だが、丸みを帯びているうえにかなり扁平に近い形状となっている。12～15は須恵器の坏蓋で、12は内面にかえりを持つが、かえりの稜はシャープさを失い丸みを帯びている。14は端部を下方へ短く屈曲させ、端部外面上部が稜を持って突出する形状であるのに対し、15は外面に面を形成する形状のものである。13は須恵器有台坏の高台部である。16は須恵器円面碗の脚部片と考えられる資料で、刻線や方形透しは見られない。17～20は須恵器甕の胴部片で、17・19・20は外面に擬格子状叩きが、18は正格子叩きが施されている。21は土師器甕の底部片で胴部と底部の境界はへら削り調整が施されている。胎土に雲母を含むことから、12と20は新治窯跡群と筑波山南麓地域の製品とみられ、それ以外は雲母を含まないことから、山田窯跡群もしくは木葉下窯跡群の製品とみられる。22～29はSD01西区下層から出土した須恵器である。22～26は須恵器坏蓋で、22は環状鈕を呈する摘み部である。23・24は内面にかえりを持つが、23は24に比べるとかえりの稜がシャープさを失っており、丸みを帯びている。25は端部を下方へ短く屈曲させ、端部外面上部が稜を持って突出する形状のものであるのに対し、26は外面に面を形成する形状のものである。27は底部がやや突出する須恵器無台坏である。28は脚付長頸壺の胴部から頸部にかけての破片である。29は須恵器甕の胴部片で、内面に同心円文の当て具痕が、外面に擬格子状叩きの痕跡がみられる。胎土に雲母を含むことから、22～27は新治窯跡群の製品とみられ、それ以外は雲母を含まないことから、山田窯跡群もしくは木葉下窯跡群の製品とみられる。

第163図30～32はSD01のセクションベルト中より出土した須恵器と土師器である。30は須恵器坏蓋で、内面にかえりを有するが、かえりの稜はやや丸みを帯びている。胎土に雲母を含むことから新治窯跡群の製品とみられる。31は須恵器甕の胴部片で外面には擬格子状叩きの痕跡がみられるが、胎土に雲母を含まないことから、山田窯跡群もしくは木葉下窯跡群の製品とみられる。32は赤褐色を呈する土師器坏の底部片で、内面にはミガキ調整により放射状の暗文が描かれている。

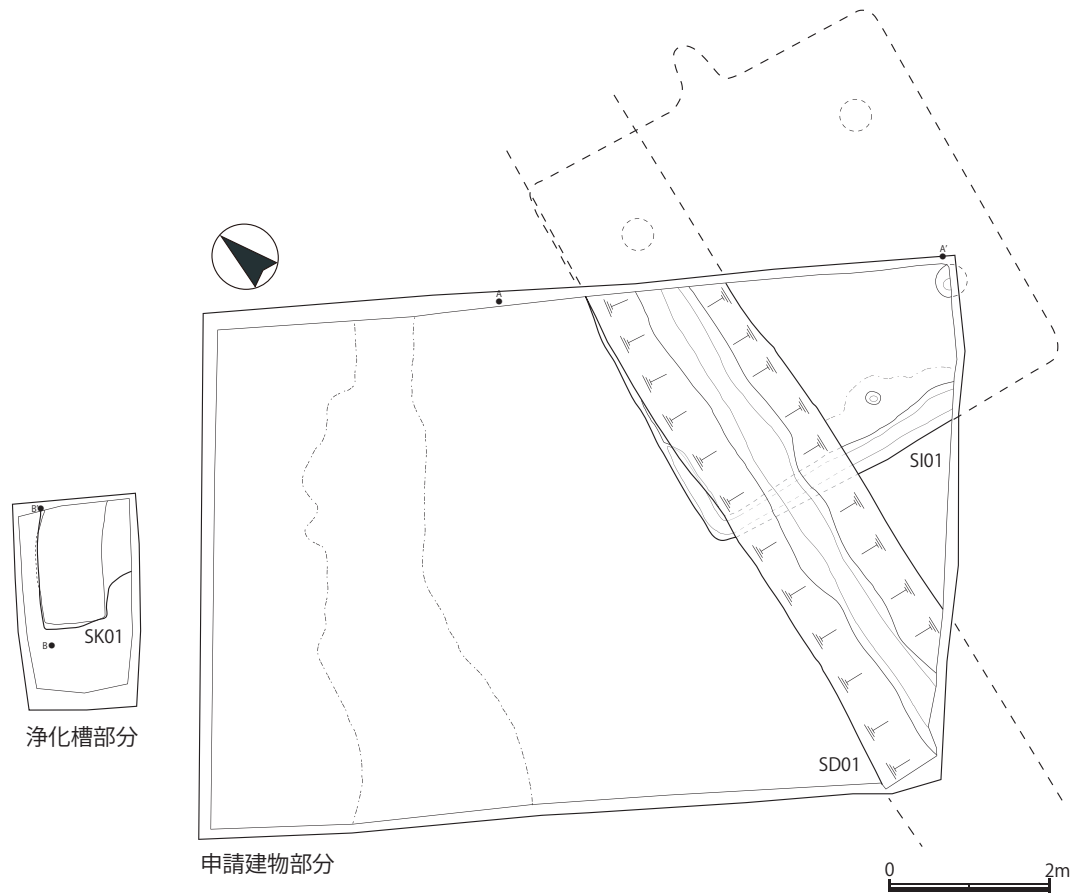
33～36は遺構確認面より出土した須恵器と土師器である。33は須恵器坏蓋で端部を下方へ短く屈曲させ、端部外面上部が稜を持って突出する形状のものである。34は須恵器無台坏もしくは有台坏の口縁部～胴部片である。35は須恵器甕の胴部片で、内面には同心円文の当て具痕が、外面には平行叩きの痕跡がみられる。33～35はいずれも胎土に雲母を含まないことから、山田窯跡群もしくは木葉下窯跡群の製品とみられる。36は土師器の壺の口縁部～胴部上半部の破片である。  
(川口)

### 3-5 堀遺跡 (第22地点第2次)

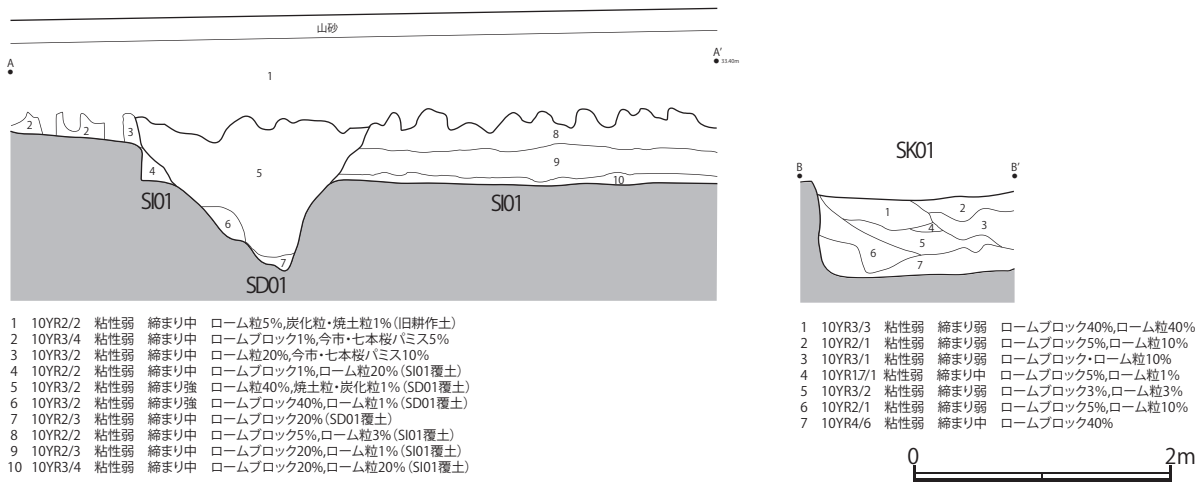
所在地 水戸市渡里町字高野台 3307番 20  
開発面積 65.3㎡  
調査期間 平成22年9月9日～10月2日  
検出遺構 竪穴建物跡1(古墳終末期)、溝跡1(平安時代)、土坑1(時期不明)  
出土遺物 土師器・須恵器(古墳時代終末期～平安時代)、瓦(奈良・平安時代)  
調査担当 川口武彦

調査概要 埋蔵文化財に影響がある申請建物建築部分を調査対象範囲とし、関東ローム層上面を目標に重機を用いて掘削したところ、南北方向に走る溝跡1条とそれに切られる竪穴建物跡1軒、時期不明の土坑1基が検出された(第165図)。

(1) 竪穴建物跡(SI01) 申請建物部分の北東で部分的に検出された。溝跡SD01と重複しており、SD01に切られている。東西5.7m以上、南北4.7m以上と推定され、調査区の北東隅で検出された支柱穴とみられる1基のピットと西壁の位置関係を考慮すると、東西6.6m、南北7.0m程度の規模と推定される。東西の柱間は4.2m(14尺)、南北の柱間は3.3m(11尺)と推定され、南壁に近い位置に出入り口ピットとみられる直径0.2mほどのピットが検出されている。出入り口ピット周辺は硬化しており、一定程度の期間、使用されたとみられる。壁の深さは0.5～0.6mで(第166図)、壁溝が南側から南西部にかけて掘られていた。幅は0.19m～0.28mで深さは0.1mほど



第 165 図 堀遺跡（第 22 地点）本発掘調査区遺構配置

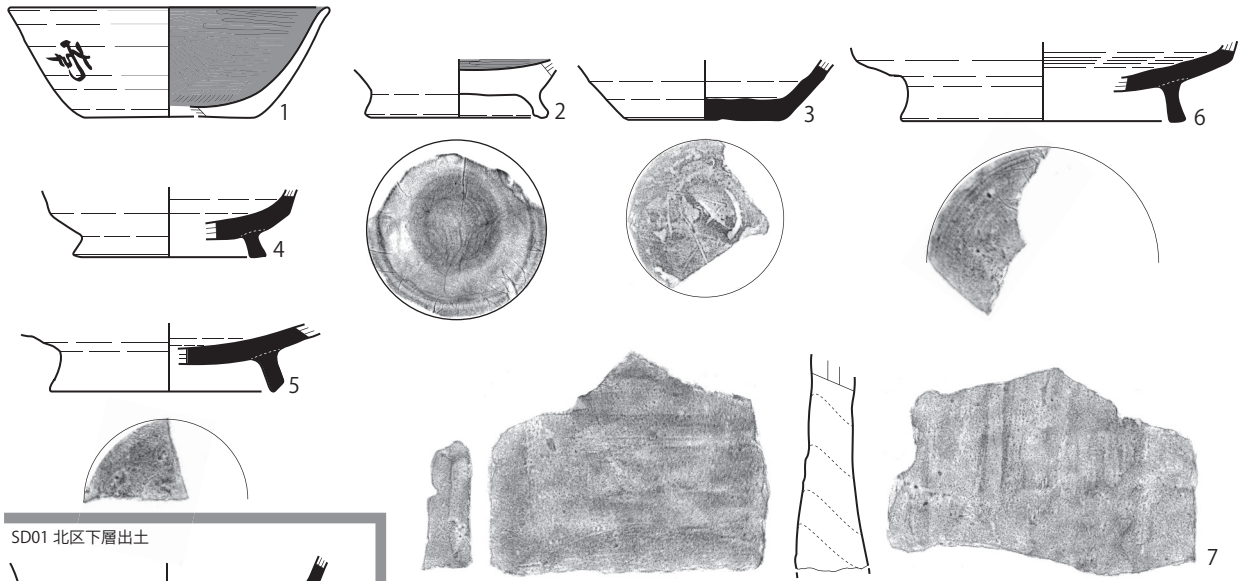


第 166 図 堀遺跡（第 22 地点）本発掘調査区土層断面

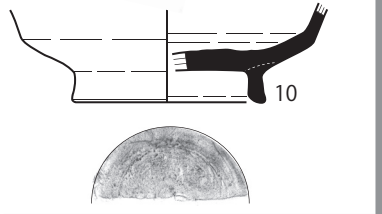
である。覆土は 6 層に区分され、人為堆積である。時期については、出土している土器から 7 世紀後半の竪穴建物跡と推定される。

(2) 溝跡 (SD01) 申請建物部分の東側で検出された。SI01 と重複しており、SI01 の一部を壊して構築されている (第 165 図)。上面幅 1.68m ~ 1.88m, 中面幅 0.44m ~ 0.7m, 底面幅 0.2m ~ 0.4m, 深さ 1m ~ 1.15m を測り、断面は薬研状を呈する (第 166 図)。主軸方位は N-14° -E である。覆土は 3 層に区分され、遺物は下層よりも上層に集中して出土した。出土遺物の技術的・形態的特徴から、9 世紀第 2 四半期以前に構築され、9 世紀第 2 四半期 ~ 第 4 四半期にかけて徐々に埋没していったと考えられる。なお、本遺構については、隣接する堀遺跡 (第 9 地点) における既往の調査成果とも照合し、9 世紀以降に造営された官衙関連施設に伴う区画溝と評価している (川口・米川・

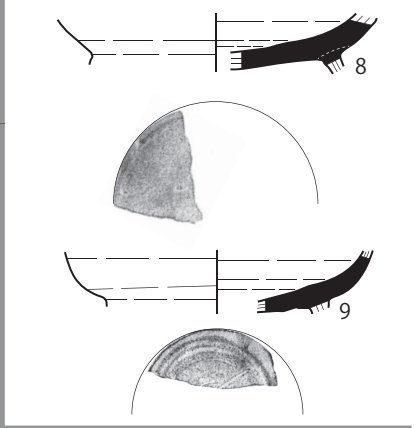
SD01 南区上層出土



SD01 北区下層出土



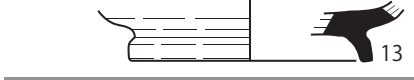
SD01 南区下層出土



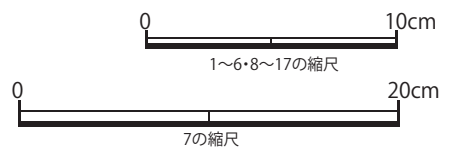
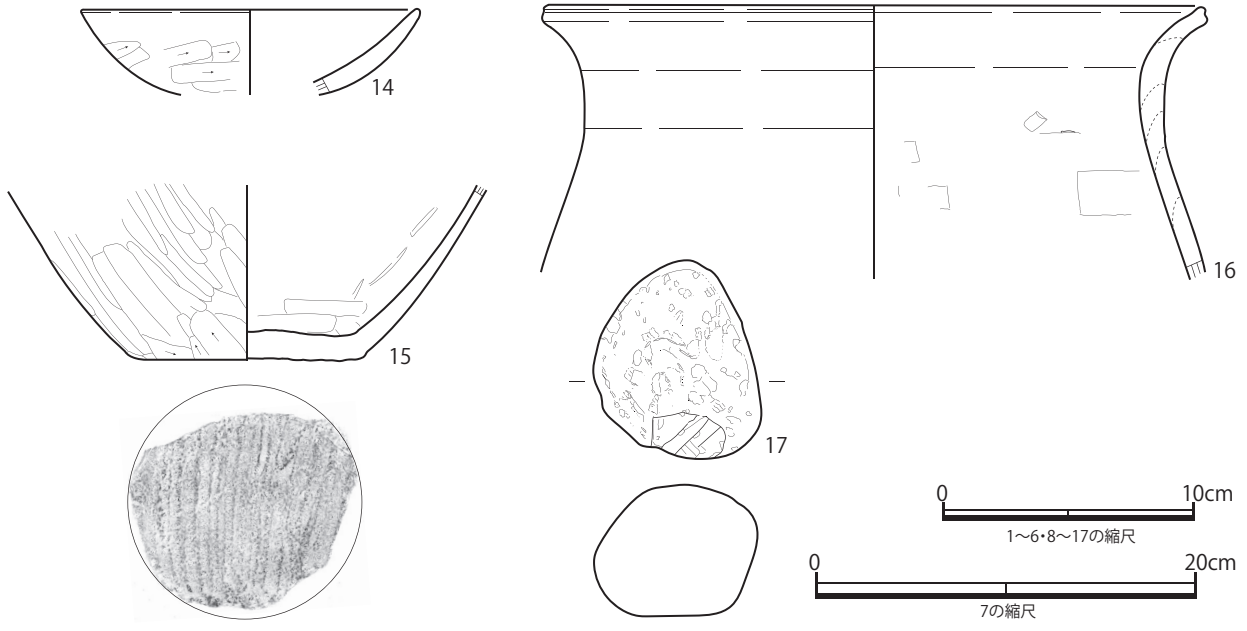
SD01 北区上層出土



遺構確認面出土



SI01 出土



第 167 図 堀遺跡（第 22 地点）出土遺物

渥美・関口 2020)。

(3) 土坑 (SK01) 浄化槽埋設部分で検出された。東西 1.2m 以上、南北 1.5m 以上、深さ 0.6 ~ 0.65m である。遺物については凶化に耐えうる資料はなく、構築時期は未詳である。

(4) 出土遺物 第 167 図 1 ~ 7 は SI01 との重複部分よりも南側の南区上層からの出土遺物、8・9 は南区下層からの出土遺物、10 は SI01 との重複部である北区下層からの出土遺物、11・12 は北区上層からの出土遺物である。

1 は内面黒色処理が施された土師器坏である。内面は横位・斜位方向の細かなヘラミガキが丁寧に施されており、外面はロクロ水挽整形痕が残されている。体部外面には「南□」の文字が横位方向に墨書されている。9 世紀第 3 ~ 第 4 四半期頃の製品であろう。2 は内面黒色処理が施された土師器の高台付坏の底部片である。外面はロクロ水挽整形痕が遺されている。1 と同様、9 世紀第 2 ~ 第 3 四半期頃の製品であろう。3 は須恵器無台坏である。内外面ともにロクロ水挽整形痕がみられ、底面と体部の部分は未調整、底面は回転ヘラ切りの後、ヘラ記号がヘラ書きされている。胎土にチャート礫が含まれることから木葉下窯跡群の製品とみられ、技術的・形態的特徴から 9 世紀第 3 四半期頃のものと考えられる。4 ~ 5 は須恵器有台坏で、いずれも内外面にはロクロ水挽整形痕がみられる。4 は内面に降灰釉がみられ、焼成時に正位に置かれたと考えられる。5 は内面に墨の付着がみられることから、破損後に硯として再利用されたとみられる。6 は須恵器高台付盤で内外面にはロクロ水挽整形痕がみられる。4 ~ 6 はいずれも胎土に海綿状骨針やチャート礫が含まれることから木葉下窯跡群の製品と考えられる。7 は軒平瓦である。瓦当文様は剥落により欠失しているが、断面形状から直線顎で、泥条盤築技法による製品とみられる。凸面側は縦方向のヘラ削り調整が、凹面側は粘土紐のつなぎ目をナデ消す横方向のナデ調整が施されている。台渡里廃寺跡出土瓦の類例等から、3290 型式もしくは 3291 型式に分類される交差線文式軒平瓦であった可能性が高い。

8・9 は須恵器有台坏である。いずれも内外面にはロクロ水挽整形痕がみられ、8 は底部に墨の付着がみられることから、破損後に硯として再利用されたとみられる。9 は底面にヘラ記号の一部が認められる。いずれも胎土にチャート礫が含まれることから木葉下窯跡群の製品と考えられる。

10 は須恵器有台坏で、内外面にはロクロ水挽整形痕がみられる。内面に降灰釉がみられ、焼成時に正位に置かれたと考えられる。内面に顕著な研磨痕がみられ、破損後に硯として再利用されたとみられる。胎土に海綿状骨針やチャート礫が含まれることから木葉下窯跡群の製品と考えられ、技術的・形態的特徴から 9 世紀第 2 四半期頃の製品と考えられる。

11 は須恵器無台坏である。内外面にはロクロ水挽整形痕がみられる。12 は須恵器甕の胴部片である。外面には幅広の平行叩き痕が、内面には当て具痕はみられない。いずれも胎土に海綿状骨針やチャート礫が含まれることから木葉下窯跡群の製品と考えられる。

13 は遺構確認面より出土した須恵器有台坏である。内外面にはロクロ水挽整形痕がみられる。内面に降灰釉がみられ、焼成時に正位に置かれたと考えられる。

14 ~ 17 は SI01 からの出土遺物である。14 は土師器の丸底坏である。外面は時計回りの方向にヘラ削り調整、内面は横位のナデ調整が施されている。15・16 は土師器甕である。15 は胴部から底部にかけての破片で、底部は細かなヘラナデ、胴部は縦位・斜位のヘラ削りが施されている。16 は口縁から胴部上半部の破片である。17 は軽石製品である。面取りのような切り欠きが下端にみられる。魚網用の浮子などであろうか。技術的・形態的特徴から 14・16 の土師器坏と土師器甕は 7 世紀後半の製品と考えられる。(川口)

## 第4章 開発に伴う立会調査

今年度、実施した立会調査のうち遺構・遺物が書くにされたのは2件であった。以下、遺跡毎・地点毎に報告する。

### 4-1 谷田遺跡（第1地点第2次）

所在地 谷田町 630-1

調査期間 平成22年11月15日

検出遺構 竪穴建物跡5（古墳時代3，平安2）

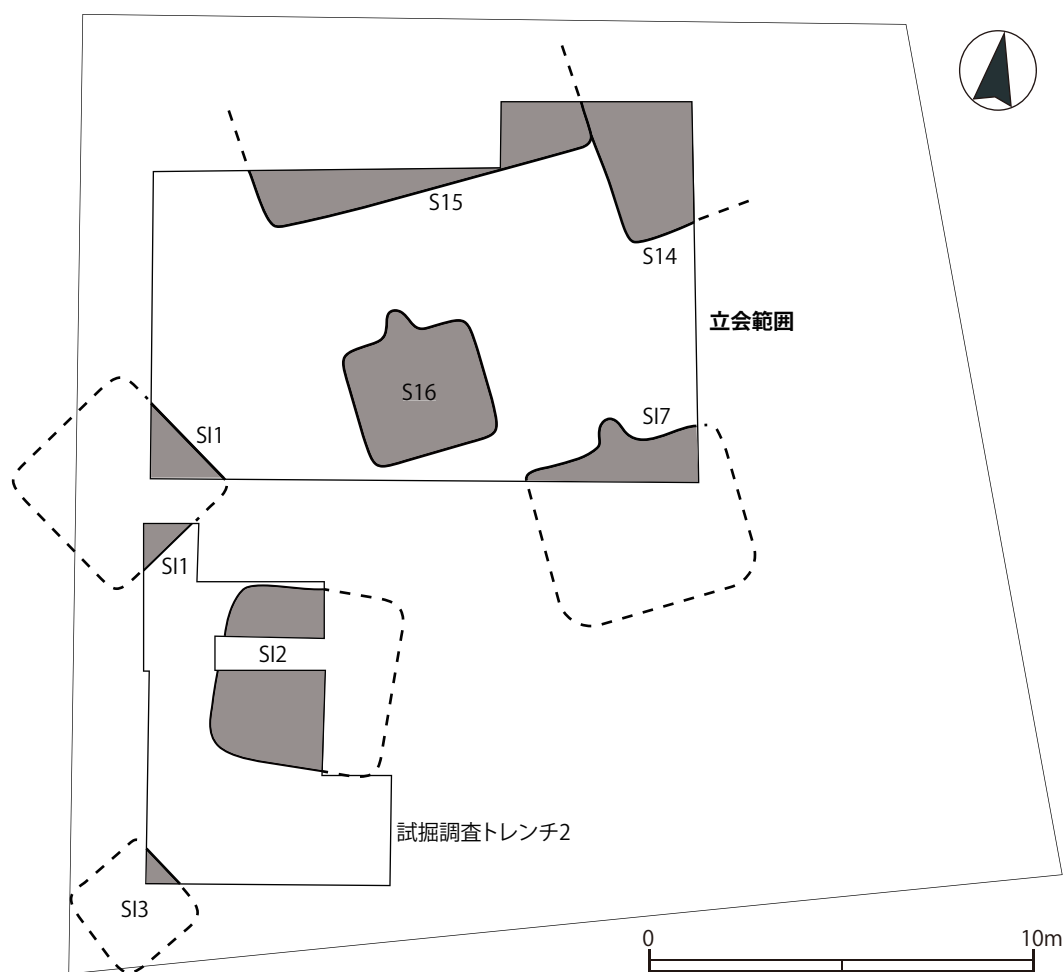
出土遺物 縄文土器（前期・中期・後期），土師器（古墳前期・後期・終末期・平安），須恵器（平安），支脚（平安）

調査担当 米川暢敬

調査概要 試掘調査の結果，工事立会扱いとした申請建物の基礎根切りの際，試掘調査で確認していたSI1の延長部分が検出されたが，設計図よりも掘削深度が深く，SI1以外の未確認の竪穴建物跡が他に4軒検出された。施工業者とその場で協議したが，設計変更は困難であるとの回答で，本来であれば記録保存を目的とした本発掘調査の実施が必要となる旨も伝えたが，1ヶ月以上の工事中止は現実的に困難であることから，根切りを進めながら，可能な限り遺物の回収に努めることとした。遺物を回収し，洗浄・注記・接合を行った結果，SI1を含む古墳時代の竪穴建物跡3軒と平安時代の竪穴建



第168図 谷田遺跡（第1地点）の位置



第169図 谷田遺跡（第1地点第2次）で確認された遺構の配置



写真 197 SI1 掘削状況（北東から）



写真 198 SI4 検出状況・SI5 掘削状況（南東から）



写真 199 SI5 検出状況（南西から）



写真 200 SI6 掘削状況（南西から）



写真 201 SI7 検出状況（北東から）



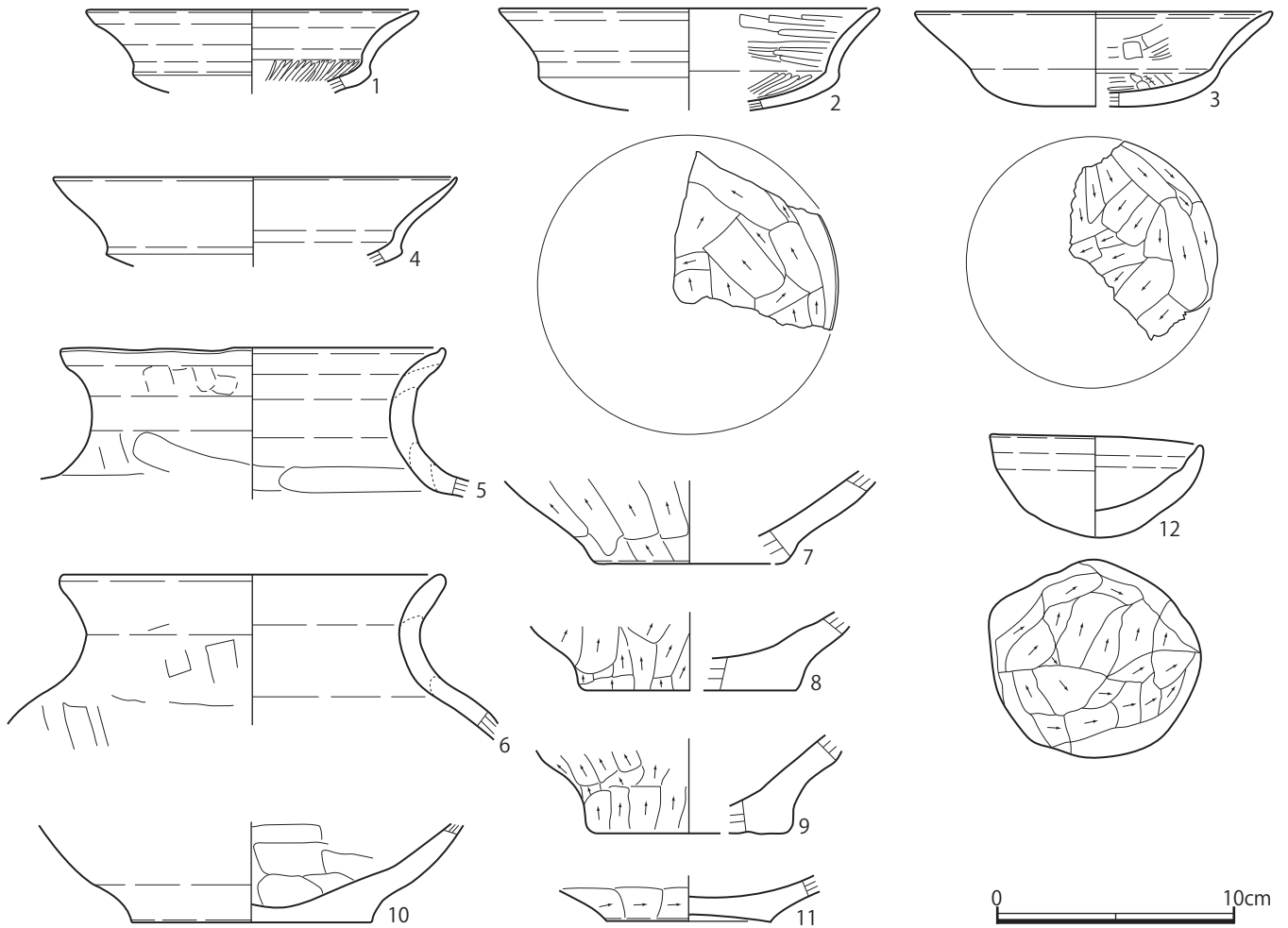
写真 202 SI7 掘削状況（北西から）

物跡が2軒重複していた可能性が高いことが判明した。

（米川）

(1) SI1 出土遺物 第170図1～4は土師器の坏である。いずれも丸底と考えられ、体部に稜を有し、口縁が大きく外反する形態となる。内面は丁寧なヘラミガキ、底部外面はヘラ削りが施されている。1・3・4が橙系の色調であるのに対し、2は暗灰黄系の色調である。5～11は土師器の甕である。5～7が口縁～頸部で、8～11は底部である。外面はヘラナデやヘラ削りが施され、特に底部にはヘラ削りの痕跡が特徴的にみられる。10は被熱しており、器面の剥落が著しい。12は丸底の椀である。底部外面はヘラ削りが施されている。以上の遺物の技術的・形態的特徴から、SI1は5世紀後葉～6世紀前葉くらいに帰属すると考えられる。

(2) SI4 出土遺物 第171図13は弥生土器の壺形土器の口縁～頸部片である。上部は折り返し口縁状となっており、単節RL縄文が横位に回転施文されている。その直下には板状工具で波状文と縦位区画文を描いている。十王台2b式に分類されるもので、古墳時代前期の土師器と共伴するものと考えられることから、SI4は古墳時代前期前葉に

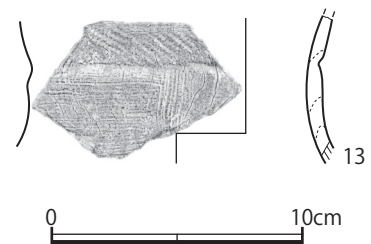


第170図 谷田遺跡（第1地点第2次）SI1 出土遺物

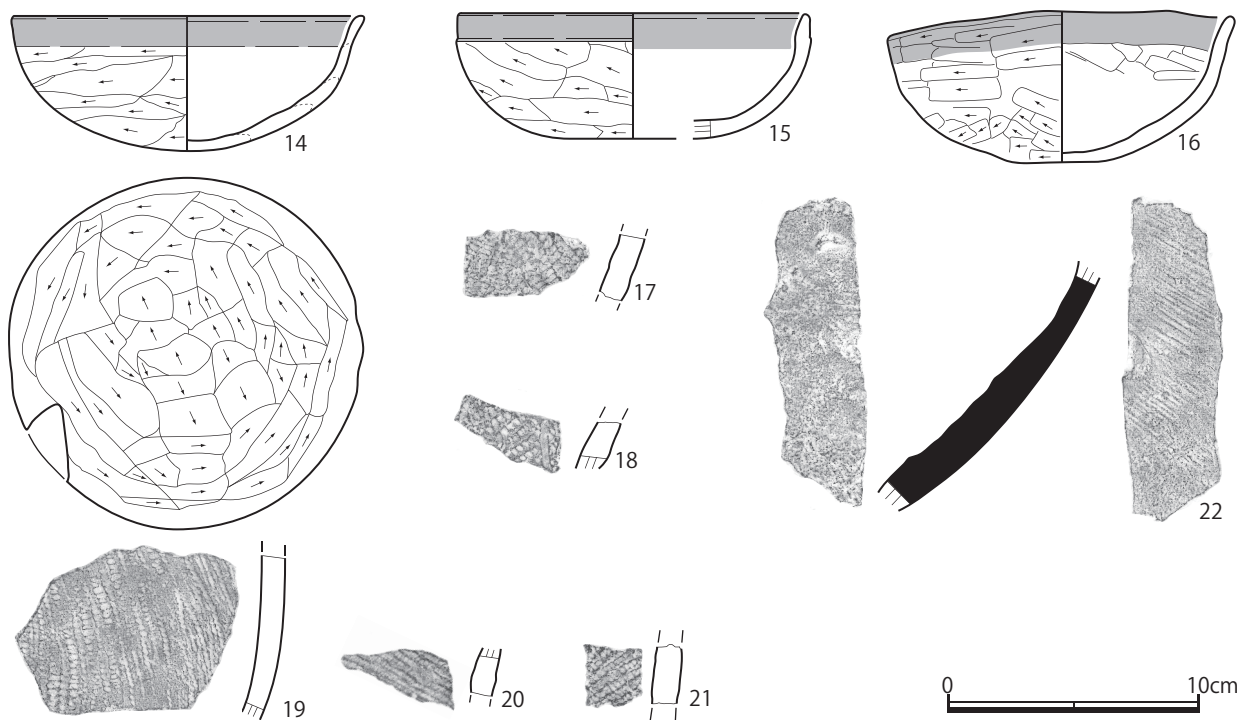
帰属する可能性がある。

(3) SI5 出土遺物 第172図14～16は金属器模倣の土師器環である。いずれも底部は丸底で、外面は反時計回りの方向に丁寧なヘラ削り調整を施し、形を整えている。口縁部は外反せずに垂直に立ち上がるか、僅かに外反する。口縁の内外面には漆を塗布した痕跡が顕著に残されている。このような技術的・形態的特徴を有する土師器環は7世紀前葉に特徴的に見られることから、SI5は7世紀前葉に帰属する可能性が高い。17～22はSI5に伴う遺物ではないが、ここで取り扱うことにしたい。17～21は縄文土器の深鉢形土器の胴部片で、17は胎土に繊維を含むことから前期中葉の黒浜式、18は縦位の沈線文による磨り消し縄文が施されていることから、中期後葉の加曾利E式、19～21は目の細かい縄文が回転施文されており、後期前葉の堀之内式土器の粗製土器ではないかと考えられる。22は須恵器甕の胴部片で、外面には斜位の平行線文叩きの痕跡が残されており、内面には当て具痕が見られない。胎土に丸底か平底かは不明だが、丸底のものであった場合には、8世紀第1四半期～第3四半期に、平底のものであった場合には、8世紀第4四半期～9世紀第2四半期の間に位置づけられる（佐々木 2001）。

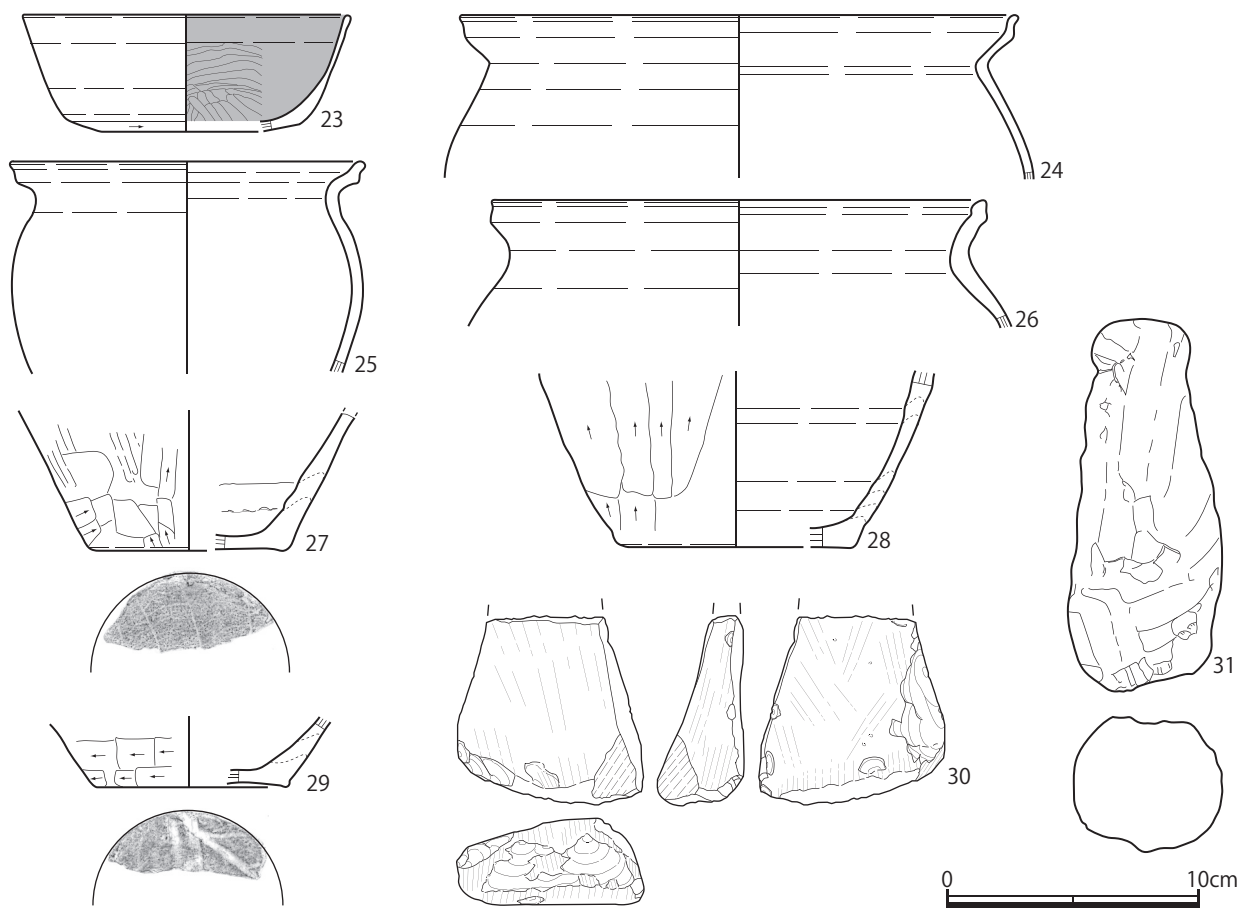
(4) SI6 出土遺物 第173図23は土師器の坏である。内面は丁寧なヘラミガキ調整が施された後、黒色処理が施されている。底部は時計回りの方向に回転ヘラ削り調整が施され、二次底部面を作りだしている。26～29は土師器の甕で、25～26は口縁部が残存しているのに対し、27～29は底部が残存している。ロクロ水挽成形によるもので、底部に近い胴部下半はヘラミガキやヘラ削り調整が施されている。30は砥石である。撥形を呈するもので、上半部は欠失している。左右両側面・底面には顕著な研磨の痕跡が認められる。



第171図 谷田遺跡（第1地点第2次）SI4 出土遺物

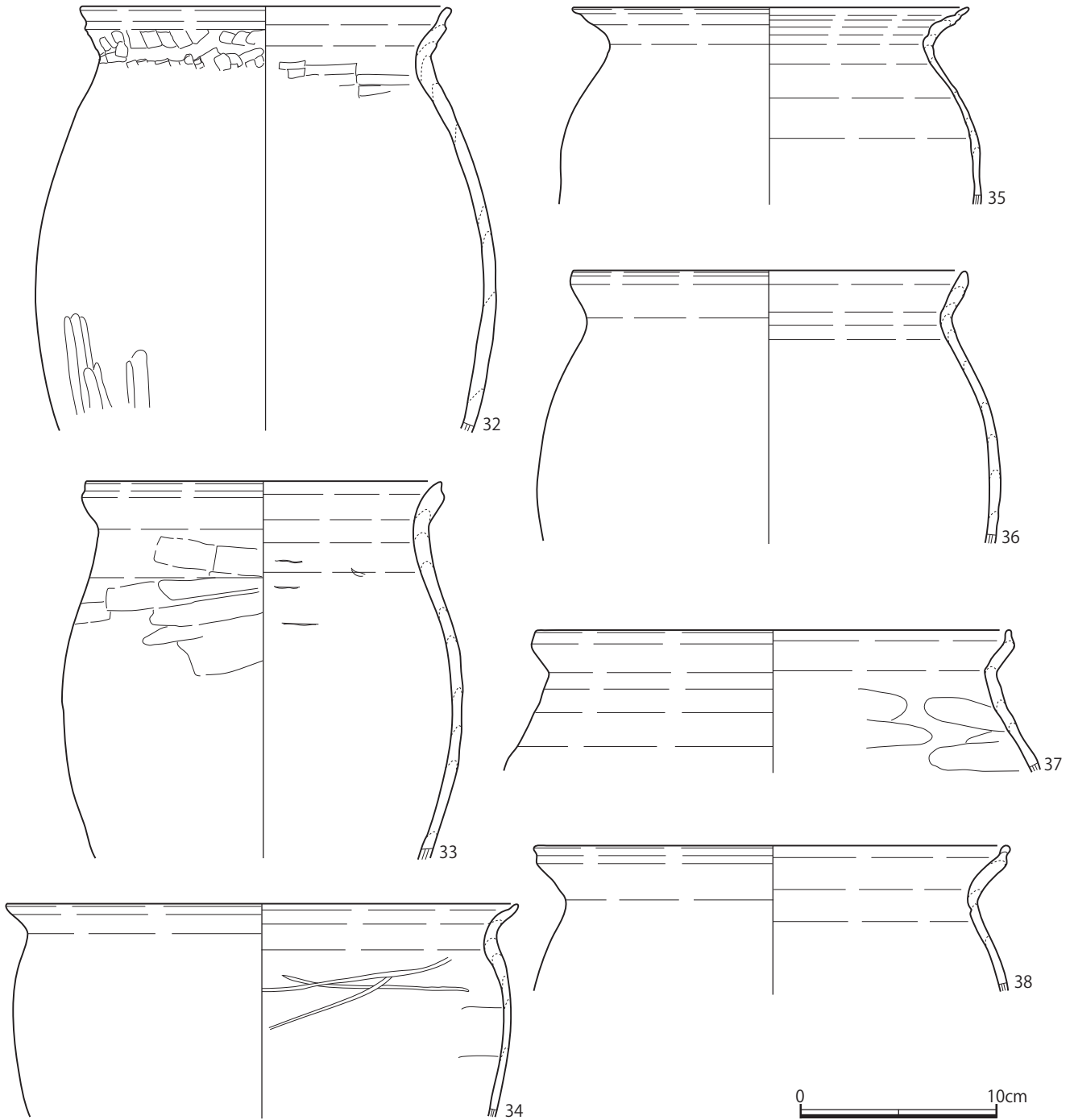


第 172 図 谷田遺跡 (第 1 地点第 2 次) SI5 出土遺物



第 173 図 谷田遺跡 (第 1 地点第 2 次) SI6 出土遺物

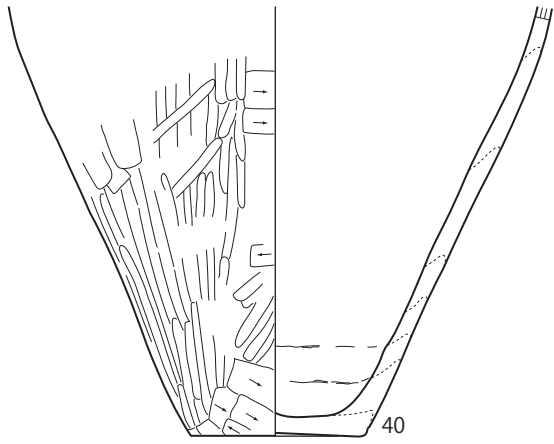
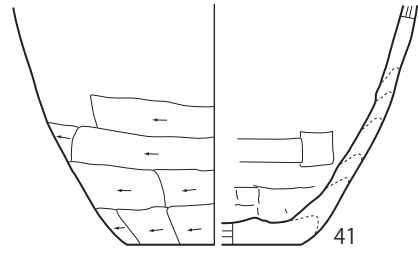
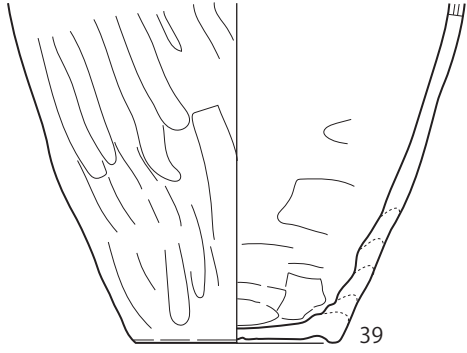




第174図 谷田遺跡（第1地点第2次）S17出土遺物①

石材は不明だが、板状に割れる片岩系の石材である。31は土製の支脚で全面被熱している。23の坏の技術的・形態的特徴からSI6は9世紀第4四半期頃に位置づけられる。

(5) S17出土遺物 第174図32～第175図42は土師器の甕である。32～38は口縁～頸部までが残存しており、39～42は底部が残存している。ロクロ水挽成形によるもので、底部に近い胴部下半はヘラミガキやヘラ削り調整が施されている。32～36・37は9世紀の第1四半期～第4四半期のいずれかに位置づけられる可能性が高く、36・37は他のものと口唇部の断面形状が異なっており、時期がやや降る可能性がある。（米川・川口）



第 175 図 谷田遺跡（第 1 地点第 2 次）S17 出土遺物②

## 4-2 水戸城跡（第7地点第27次）

所在地 三の丸1丁目6-29（旧弘道館）

調査期間 平成23年1月12日

検出遺構 なし

出土遺物 磁器・瓦（近世）

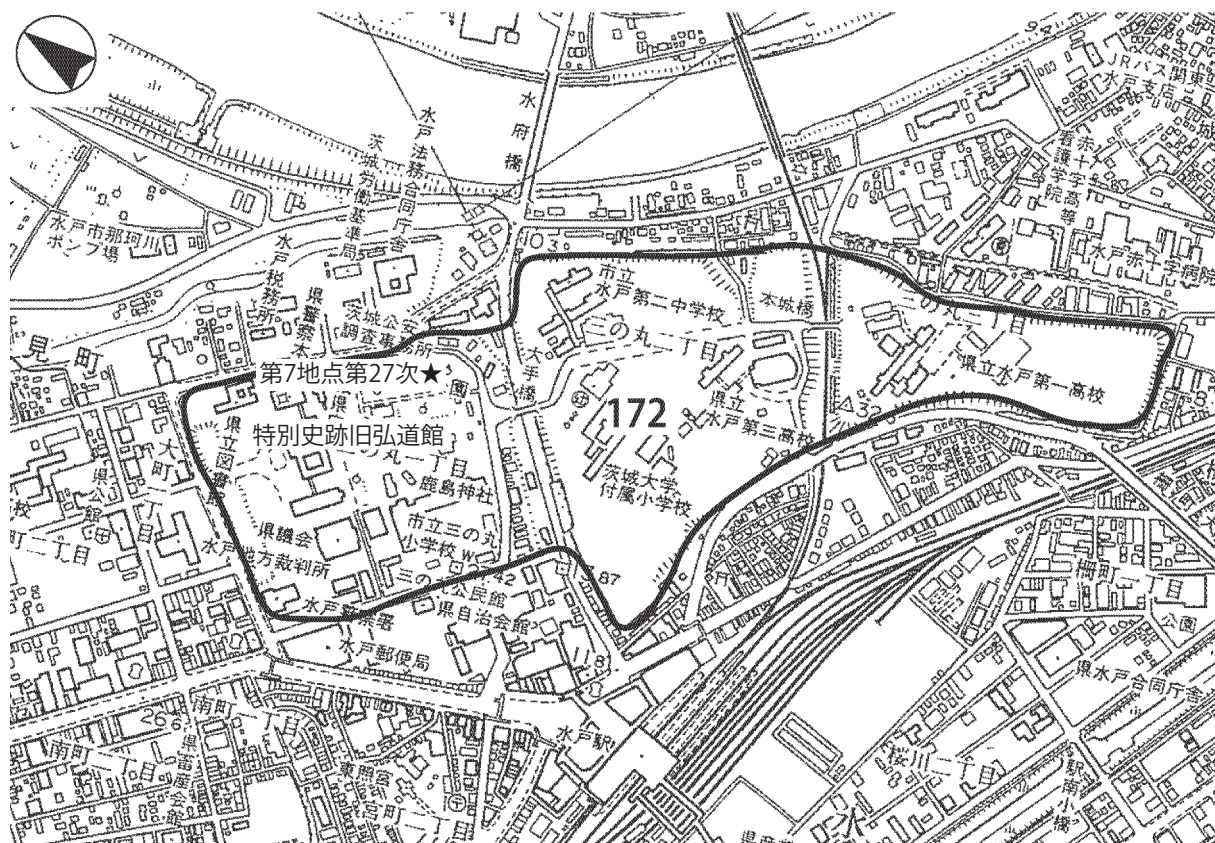
調査担当 渥美賢吾

調査経緯 特別史跡内にある藤棚（第177図）の柱脚の根元が腐食しており、倒壊の恐れがあったため、これを除却し、新しい柱脚に取り替える工事で正門前門扉の取替え工事が計画された。当該工事は、文化財保護法施行令第5条第4項に記載されている「ハ 工作物（建築物を除く。以下このハにおいて同じ。）の設置若しくは改修（改修にあつては、設置の日から五十年を経過していない工作物に係るものに限る。）又は道路の舗装若しくは修繕（それぞれ土地の掘削、盛土、切土その他土地の形状の変更を伴わないものに限る。）」の前者に該当することから、水戸市教育委員会教育長の権限で許可を行うことが出来る現状変更であった。平成22年9月15日付公街第254-1号にて特別史跡の現状変更許可申請書が水戸市教育委員会教育長へと提出され、平成22年9月29日付教文指令第47号にて現状変更の許可を受けた。現状変更工事は、平成22年10月25日から平成23年2月17日の期間に行い、工事終了後、平成23年3月7日付公街第497号にて現状変更終了届が水戸市教育委員会教育長へて提出された。

(1) 調査の概要 藤棚の既存の柱脚のうち、掘削を伴うものが5本あり、掘削作業の際に立会調査を行った。掘削はいずれも埋設に伴う攪乱内に止まっていたが、攪乱土中から磁器と瓦が出土した。（渥美）

(2) 出土遺物 第178図1は磁器の碗である。丸碗Aに分類されるもので、透明釉が掛けられ、畳付は無釉。染付で外面には折枝文、高台脇には如意頭文、高台には二重圏線が描かれている。肥前産と推定され、1680年代～1700年代の年代が与えられる。2は磁器の徳利で、逆蕪形を呈するものと考えられる。透明釉が掛けられ、畳付は無釉、内面も無釉である。外面は高台内に白泥が全面に塗布され、文様は描かれていない。高台内にはハリ痕が1箇所認められ、内面には砂の付着が認められる。七面製陶所産と推定され、1838（天保9）年以降の年代が与えられる。胎土は極めて良質で、いわゆる「精製七面焼」（関口・渥美・米川編 2017）に分類されるものである。

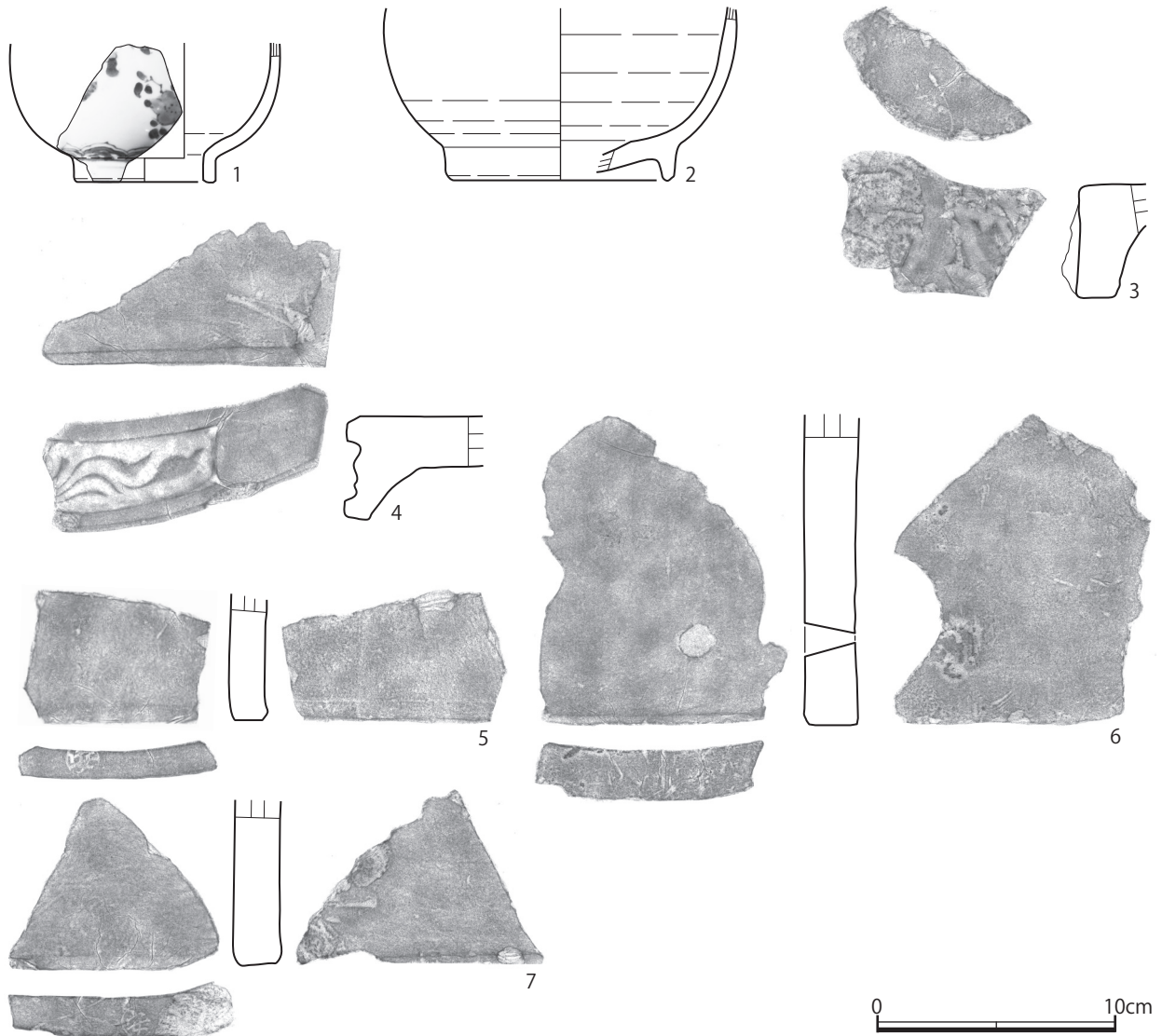
3・4は小丸軒棧瓦である。いずれも板作り・型当て・型押成形によるもので、燻しがある。3は小丸瓦当部を欠



第176図 水戸城跡（第7地点第27次）の位置



第 177 図 水戸城跡（第 7 地点第 27 次）立会箇所の位置



第 178 図 水戸城跡（第 7 地点第 27 次）出土遺物

損している。いずれも生産地は不明だが、1841年前後以降の年代が推定される。5・7は板状の瓦で、いずれも板作り・型当て成形によるもので、燻しがある。端面に刻印「丸に安」が押印されている。こうした端面に刻印「丸に安」が押印されている瓦は、特別史跡旧弘道館内において実施した水戸城跡（第7地点第13・15次）や水戸市立第二中学校の校舎建替工事に伴う発掘調査（第4地点第6次・18次）においても出土が確認されている（川口・色川編 2010）。6は平瓦で、板作り・型当て・型押成形によるもので、燻しがある。5・7と同様に生産地は不明だが、1841年前後以降の年代が推定される。 (渥美・関口)

## 第5章 開発に伴う現地踏査

国指定史跡「愛宕山古墳」、国指定史跡「台渡里廃寺跡」、四又入窯跡、藤井町遺跡において現地踏査を行った際、遺物が採集された。以下、遺跡毎に報告する。

### 5-1 愛宕山古墳

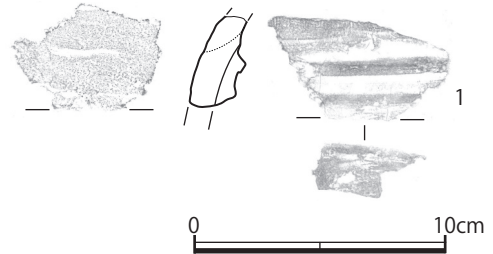
所在地 水戸市愛宕町 2133 外

踏査日 平成 22 年度

採集経緯 墳丘上に樹立している危険木の現況確認に伴う踏査。

採集者 渥美賢吾

採集遺物 第 179 図 1 は愛宕山古墳で採集された円筒埴輪片である。外面には M 字形の低凸帯を貼り付けており、凸帯より上部には縦方向の刷毛目が観察される。内面は横方向のナデ調整が施されている。凸帯の下部には方形の透孔の痕跡が認められる。(川口)



第 179 図 愛宕山古墳採集遺物

### 5-2 台渡里廃寺跡 (観音堂山地区)

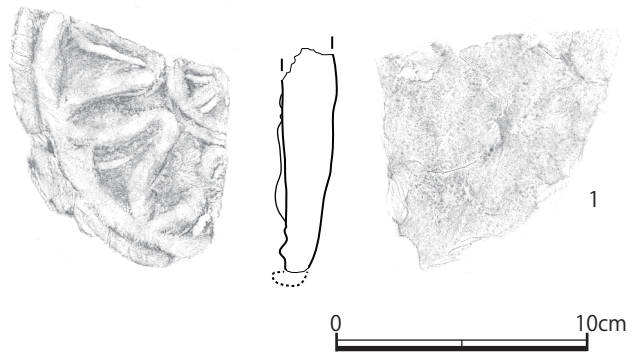
所在地 水戸市渡里町字アラヤ前 2973-3

踏査日 平成 22 年 5 月 21 日

採集経緯 史跡指定地の現況確認に伴う踏査。

採集者 川口武彦

採集遺物 第 180 図 1 は観音堂山地区の指定地内にある中門付近で採集された軒丸瓦である。瓦当面径 1/4 程度の破片であり、瓦当文様では外区外縁と中心蓮子の部分を欠失している。また、丸瓦部も欠失している。周縁蓮子は扇状を呈し、剣状の花弁とサメの歯状の間弁は丸みを帯びている。それぞれの部位の形状及び瓦当文様構成の特徴から 3127A 型式(川口・渥美・木本編 2009)と考えられる。(川口)



第 180 図 台渡里廃寺跡採集遺物

### 5-3 四又入窯跡群

所在地 水戸市木葉下町 271 付近墓地

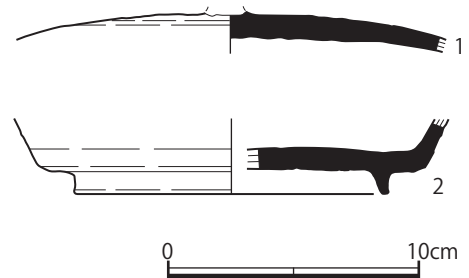
踏査日 平成 22 年度

採集経緯 埋蔵文化財包蔵地の現況確認に伴う踏査。

採集者 渥美賢吾

採集遺物 第 181 図 1・2 は採集された須恵器である。1 は、坏蓋である。摘まみ部や端部を欠失しているが、2 の有台坏の口径と近い大きさとみられることから、有台坏の蓋である可能性が高い。

2 の有台坏は口縁部を欠失しているが、高台の形状から佐々木義則氏による木葉下窯跡群産須恵器有台坏の分類(佐々木 2013)の C1 類に分類されるもので、8 世紀第 2 四半期～第 3 四半期頃に位置づけられるものである。(川口)



第 181 図 四又入窯跡群採集遺物

#### 5-4 藤井町遺跡

所在地 水戸市藤井町地内

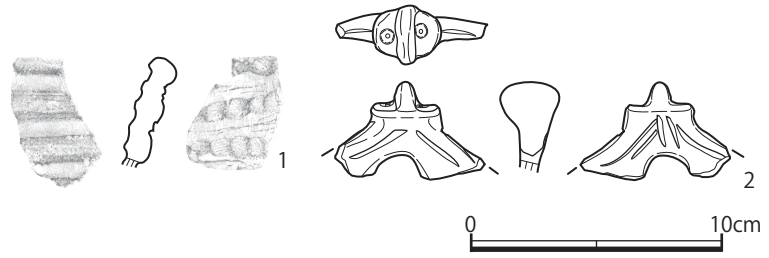
踏査日 平成22年度

採集経緯 開発行為に伴う現地踏査。

採集者 渥美賢吾

採集遺物 第182図1・2は採集された縄文土器である。1は加曾利B式の粗製深鉢形土器である。外面には横走する細い沈線を巡らし、その間に隆帯を貼り付け、指頭を押しつけて連続する押圧隆帯が施されている。内面には5mm幅の

横走する沈線が3条巡らされている。2は加曾利B1式新段階の3単位の把手を持つ精製深鉢形土器である。外面中央には2対の弧線文が配置され、それに向かう長い弧線文が描かれている。内面にも同様の長い弧線文が描かれており、丁寧に磨きが施されている。把手部分は楕円形を呈し、中央に半円状の突起を配置し、左右に直径4.5mm程度の竹管状工具で円形の刺突文が配置されている。  
(川口)



第182図 藤井町遺跡採集遺物

第7表 土器・陶磁器・瓦・土製品・ガラス製品観察表

図版	番号	遺跡名 (地点名・ 次数)	出土位置	種別・器形 細別	法量 (cm)			観察所見	残存率 (%)	胎土	焼成	色調 (外面・内面)	生産地・ 年代等
					口径	底径	器高						
4	1	金剛寺遺跡 (第8地点)	トレンチ1・ 溝跡	土器・不明	—	—	(2.0)	轆轤成形／外 面に櫛目(5 本以上)／土 師質	—	砂粒(白 多・透少)	良好	2.5Y5/2(暗 灰黄)	産地不明 近世以降
13	1	大井古墳群 (第1地点 第2次)	トレンチ1	縄文土器・ 深鉢	—	—	(3.6)	外面には水平 方向と垂直方 向の隆帯を貼 り付け、水平 方向の隆帯上 による棒状工 具による刻み 、内面には貝 殻腹縁による 条痕文	—	砂粒(白 多・透多)	良好	5YR6/6(橙) ・5YR7/8(橙)	早期後半
	2			弥生土器・ 壺	—	—	(2.9)	上部には4条 単位の歯状工 具による波状 文、下部には 回転施文によ る附加条状文	—	砂粒(白 透)	良好	7.5YR7/6(橙) ・10YR7/4(に ぶい黄橙)	後期(十 王台式)
	3		トレンチ1・ 地下式坑 覆土上層	土師器・高 台付椀	—	—	(2.3)	轆轤成形／高 台部貼付／底 部回転糸切り	—	砂粒(白 多・透多)	良好	10YR4/2(灰 黄褐)	9世紀第 4四半期
	4			土師器・椀	(14.1)	6.4	4.3	轆轤成形／底 部回転へら切 り	55	砂粒(白 多・黒・ 透)	良好	10YR7/4(に ぶい黄橙)	10世紀第 1四半期
	5		トレンチ1	丸瓦	全長 (4.7)	厚さ 2.1	重量 180g	凸面平行叩き 後、へら削り 、凹面布目無 段式の狭端部 側カ	—	砂粒(白 多・透多)	堅緻	2.5Y5/2(暗 灰黄)	奈良
	6		トレンチ1・ 地下式坑 床面	陶器・天目茶 碗	11.8	4.4	6.1	轆轤成形／削 り出し高台／ 光沢のある茶 色の鉄釉、体 部下半は露胎	99	砂粒(白 多)	硬質	2.5Y4/3(オ リーブ褐)	15世紀末 ～16世紀 初頭(大窯 4期末頃)
	7		トレンチ1・ 地下式坑 覆土上層	陶器・甕	—	(16.4)	(3.0)	轆轤成形／底 部のみ残存／ 内面見込み縮 目	—	砂粒(白 多)	硬質	2.5Y4/3(オ リーブ褐)	常滑 中世末
16	1	渡里町遺跡 (第11地点)	トレンチ2 表土	平瓦	全長 (7.4)	厚さ 2.4	重量 224g	凸面正格子叩 き、凹面布目 、桶巻き作り カ	—	砂粒(白 赤・透)	普通	10YR7/3(に ぶい黄橙)	奈良・平安
	2		トレンチ1 硬化面	土師質土器・ 土鍋	(25.0)	—	(3.5)	轆轤成形／外 面ローラー文	—	砂粒(白 多・透)	良好	5YR4/6(橙) ・5YR6/6(橙)	在地産カ 近世
	3			瓦質土器・ 火鉢	(21.4)	—	(4.3)	轆轤成形	口径 16	砂粒(白 多・透) ・骨針	良好	7.5Y4/1(灰) ・7.5Y3/2(オ リーブ黒)	在地産カ 近世
	4			瓦質土器・ 火鉢	—	(16.5)	(4.1)	轆轤成形／底 部糸切後へら ナデ	底径 23	砂粒(白 多・透)	良好	7.5Y4/1(灰) ・7.5Y3/2(オ リーブ黒)	在地産カ 近世
	5		トレンチ2	磁器・小坏・ 薄手酒杯	(7.0)	—	(2.4)	轆轤成形／透 明釉	—	—	—	—	瀬戸・美濃産 1820年代以降
	6			磁器・碗・型 紙絵付碗	(12.0)	—	(3.7)	轆轤成形／型 紙絵付／外面 菊文・花卉文 、内面口縁部 瓔珞文	—	—	—	—	産地不明 1870年代～
	7			磁器・湯飲 み碗カ	(7.8)	—	(5.5)	轆轤成形／絵 付(朱・黒)、 口鏝 ／外面枝に花 卉文、内面漢 詩文、内外面 貫入あり	—	—	—	—	産地不明 近代
19	1	渡里町遺跡 (第12地点)	トレンチ 一括	須恵器・有台 坏	—	7.8	(2.3)	内外面口クロ ク水挽整形	底径 56	砂粒(白 多・黒多) ・骨針	堅緻	5Y5/1(灰) ・5Y4/1(灰)	木葉下窯跡群 産
	2		トレンチ 一括	須恵器・坏蓋	(18.0)	—	(2.9)	内外面口クロ ク水挽整形	口径 15	砂粒(白 多・黒多 ・透)	堅緻	10YR6/1(褐 灰)	木葉下窯跡群 8世紀第2 四半期
	3		最南端東 側住居覆 土	土師器・甕	(16.8)	—	18.0	口縁内外面横 ナデ、胴部内 面横ナデ、外 面縦へら削り	口径 23	砂粒(白 透多)	普通	10YR6/3(に ぶい黄橙) ・7.5YR7/6 (橙)	7世紀後半



図版	番号	遺跡名 (地点名・ 次数)	出土位置	種別・器形	法量 (cm)			観察所見	残存率 (%)	胎土	焼成	色調 (外面・内面)	生産地・ 年代等
					細別	口径	底径						
24	1	赤塚遺跡 (第6地点)	トレンチ1	磁器・碗・ 端反碗 A	(9.8)	(4.0)	5.1	轆轤成形/染付/ 透明釉, 畳付無釉/ 外面口縁部一重 圈線, 靈芝文, 高 台脇一重圈線, 高 台二重圈線, 内面 見込み靈芝文	40	—	—	—	瀬戸・美濃産 1810年代~ 1820年代
	2			磁器・碗・ 小丸碗	(7.8)	(3.9)	(5.2)	轆轤成形/染付/ 透明釉, 畳付無釉/ 外面松に馬文	30	—	—	—	肥前産 1760 ~ 1810年代
	3			磁器・仏飯具	(6.9)	—	(4.2)	轆轤成形/染付/ 脚部以下欠損/ 外面口縁部一重 圈線, 半菊花文, 体 部一重圈線, 脚部 脇一重圈線, 脚部 上部一重圈線	60	—	—	—	肥前産 17世紀末~ 19世紀前半
	4			土製品・玩 具・飯事道 具(土瓶)	(3.0)	(3.2)	3.7	型押成形, 上下合 わせ, 把手・注口・ 足貼付/体部上半 に青白色塗料を塗 布, 体部下半に灰 白色塗料を塗布	60	—	普通	2.5Y7/4 (浅 黄)・5G7/1 (明緑色)	在地産カ 近世~
	5			陶器・片口 鉢カ	(17.5)	—	(8.5)	轆轤成形/鉛釉 /口縁部玉縁状, 内面釉拭き取り	—	—	—	—	瀬戸・美濃産 18世紀以降
	6			施釉土器・ 甕カ	—	—	(5.5)	轆轤成形/内外 面鉄釉/折縁	—	—	—	—	在地産カ 近代カ
	7			土製品・人 形(犬)	高さ 4.5	幅 4.9	重量 37g	手握ね成形/ 頭部欠損	70	砂粒(白・ 赤・金)	普通	5YR6/6 (橙)	在地産カ 近世~
	8			瓦・小丸軒 棧瓦	全長 10.1	厚さ 1.8	重量 168g	板作り・型当て・ 型押成形/小丸 瓦当部欠損	—	砂粒(白 多・金多・ 透)	堅緻	N4/1 (灰)	産地不明 18世紀以降
27	1	台渡里官 衛遺跡(台 渡里第62 次・第72 次)	トレンチ1正 倉院内側区 画溝(SD01) 覆土	須恵器・無 台坏	—	7.2	(2.4)	内外面ともにロ クの水挽整形, 底部は回転ヘラ 切り後, 未調整	20	砂粒(白 多・黒多・ 3mm大の チャート礫)	良好	5Y5/1 (灰)	木葉下窯跡群 9世紀第2~ 第3四半期
	2		トレンチ2	須恵器・無 台坏	—	(6.6)	(1.1)	内外面ともにロ クの水挽整形, 底部 は回転ヘラ切り	—	砂粒(白 多・透多)	堅緻	5Y6/1 (灰オ リーブ)	8世紀第3~ 第4四半期
	3		トレンチ1正 倉院内側区 画溝(SD01) 覆土	土師質土器・ 小皿	—	(5.0)	(1.3)	内外面ともにロ クの水挽整形, 底部は回転糸切 り後, ヘラナデ	—	砂粒(白 多・透多)	良好	10YR6/4 (に ぶい黄橙)	中世
	4		表採	陶器・鉢	(17.2)	—	(3.6)	—	—	—	—	—	近世
	5		軒丸瓦・ 3113型式	外区径 (13.0) 内区径 (9.0)	厚さ 2.9	重量 202g	瓦当側面・瓦当 裏面はヘラ削り 後ナデ調整	—	砂粒(白 多・透)	良好	7.5Y7/1 (灰 白)	奈良・平安	
	6		平瓦	全長 (18.0)	厚さ (2.4)	重量 1,019g	粘土板桶巻き作り, 凹面には布目・枠板 圧痕, 凸面は正格子 叩き後, ヘラナデ	—	砂粒(白 多・橙・ 黒)	良好	7.5YR6/6 (橙)	奈良	
	7		トレンチ1正 倉院内側区 画溝(SD01) 覆土	平瓦	全長 (11.4)	厚さ (2.3)	重量 211g	一枚作り, 凹面 は布目, 凸面は 長縄叩き, 側面 はヘラ削り	—	砂粒(白 多・透多)	良好	10YR6/4 (に ぶい黄橙)	平安
	8		トレンチ1正 倉院内側区 画溝(SD01) 覆土	平瓦	全長 (9.5)	厚さ (2.7)	重量 325g	一枚作りカ, 凹 面は布目, 凸面 は短縄叩き後, ヘラ削り, 端廻 り側面はヘラ削り	—	砂粒(白 多)	良好	7.5Y6/1 (灰)	平安
	9		トレンチ1正 倉院内側区 画溝(SD01) 覆土	丸瓦	全長 (13.6)	厚さ (1.3)	重量 276g	凸面正格子叩 き, 凹面布目, 側面ヘラ削り	—	砂粒(白 多・透多)	良好	2.5Y7/3 (浅 黄)	奈良
	10		トレンチ1	ガラス製 品・薬瓶カ	口径 1.6	底幅 3.8×2.2	器高 8.3	型吹き成形/無色 透明/1mm以下の 気泡多く含む, 1~ 2mmの気泡点在/ コルク栓	100	—	—	—	産地不明 近代
34	1	台渡里官 衛遺跡(台 渡里第66 次)	トレンチ2	須恵器・坏 蓋	最大径 3.4	—	(1.0)	擬扁平宝珠状 紐	—	砂粒(白 多・黒)	堅緻	2.5Y5/1 (灰)	木葉下窯跡群 8世紀前半

図版	番号	遺跡名 (地点名・ 次数)	出土位置	種別・器形			法量 (cm)			観察所見	残存率 (%)	胎土	焼成	色調 (外面・内面)	生産地・ 年代等
				細別	口径	底径	器高								
34	1	台渡里官衛遺跡(台渡里第66次)	トレンチ2	須恵器・坏蓋	最大径 3.4	—	(1.0)	擬扁平宝珠状紐	—	砂粒(白多・黒)	堅緻	2.5Y5/1(灰)	木葉下窯跡群 8世紀前半		
37	1	台渡里官衛遺跡(台渡里第67次)	トレンチ1	縄文土器・深鉢	—	—	(4.9)	上部は無文帯,中央部に横走する隆帯を1条貼付け,隆帯の下半には単節LR縄文を回転施文	—	砂粒(白)・骨針	普通	7.5YR7/6(橙)	中期後葉 加曾利E4式		
	2			須恵器・坏蓋	(15.0)	—	(2.1)	内外面ともにロクロ水挽整形,端部はやや外反,内面に隆帯を貼り付けかえりを作り出す	5	砂粒(透多・白・銀)	良好	5Y6/1(灰)	新治窯跡群 7世紀第4四半期		
	3			須恵器・円面硯	—	(18.0)	(3.2)	ロクロ水挽整形により中央に横走する隆帯を削り出し,その上に0.7~1.0cmの感覚で幅1mmほどの縦方向の切り込みを連続的に施す	底径 13	砂粒(白多)	堅緻	5Y8/1(灰白)	産地不明		
40	1	台渡里官衛遺跡(台渡里第72次)	トレンチ1	土師器・高台付椀	(12.8)	—	(4.8)	内外面ともにロクロ水挽整形	口径 5	砂粒(白多・透)・骨針	良好	10YR6/6(明黄褐)	10世紀前半		
43	1	台渡里官衛遺跡(台渡里第74次)	トレンチ4 遺構確認面	須恵器・横瓶カ	—	(5.6)	(2.8)	底部・体部外面は回転ヘラ削り,内面はロクロ水挽整形	—	砂粒(白多・透・黒多)	堅緻	5Y7/1(灰)	産地不明 7世紀後葉		
	2			須恵器・甕	—	—	(4.9)	外面平行叩き,内面は当て具痕なし	—	砂粒(白多)・骨針	堅緻	7.5Y6/1(灰)	木葉下窯跡群		
49	1	台渡里官衛遺跡(台渡里第76次)	トレンチ1	土師器・無台坏	—	(8.2)	(1.2)	内外面ともにロクロ水挽整形後,内面を丁寧な磨きによる黒色処理	—	砂粒(白)	良好	7.5YR6/6(橙) 7.5YR2/1(黒)	9世紀第2~ 第3四半期		
	2			土師器・高台付椀	—	—	(1.4)	内外面ともにロクロ水挽整形	—	砂粒(透)・金	良好	7.5YR7/6(明褐)	10世紀後葉 ~11世紀前葉		
	3			土師器・小皿	—	(5.2)	(0.8)	内外面ともにロクロ水挽整形,底部は回転糸切り	22	砂粒(透多・赤)	普通	7.5YR7/6(橙)	11世紀前葉		
	4			須恵器・甕	—	—	(5.0)	外面平行叩き,内面は当て具痕なし	—	砂粒(白多・黒多)・銀	良好	2.5Y5/1(黄灰)	9世紀中葉 ~後葉		
52	1	台渡里官衛遺跡(台渡里第78次)	トレンチ1 溝跡覆土上面	土師器・高台付椀	(10.1)	—	(3.1)	外面ロクロ水挽整形痕,内面は横方向のミガキ調整後,内面黒色処理	—	銀,砂粒(透・黒)	良好	7.5YR7/6(橙) 5Y2/1(黒)	10世紀後葉 2と同一個体カ		
	2			土師器・高台付椀	—	—	(1.4)	外面ロクロ水挽整形痕,内面は縦・斜め方向のミガキ調整後,内面黒色処理	—	銀,砂粒(透・黒)	良好	7.5YR7/6(橙) 5Y2/1(黒)	10世紀後葉 1と同一個体カ		
	3		トレンチ3 確認面	土師器・甕	—	(5.2)	(4.2)	底面・内面は丁寧なデ調整,胴部外面は斜め方向のヘラ削り	—	砂粒(白透・赤)	良好	7.5YR6/6(橙)	奈良・平安		
	4		平瓦	全長 (10.3)	厚さ (1.8)	重量 160g	粘土板桶巻き作り,凹面は布目圧痕,側面はヘラ削り,凸面は正格子叩き	—	砂粒(白)・5mm大砂礫	良好	5Y7/2(灰白)	奈良			
	5		平瓦	全長 (7.0)	厚さ (2.2)	重量 129g	粘土板桶巻き作り,凹面は布目圧痕,側面はヘラ削り,凸面は正格子叩き	—	砂粒(黒透)	良好	5Y7/1(灰白)	奈良			

図版	番号	遺跡名 (地点名・ 次数)	出土位置	種別・器形	法量 (cm)			観察所見	残存率 (%)	胎土	焼成	色調 (外面・内面)	生産地・ 年代等
					細別	口径	底径						
55	1	台渡里官 衛遺跡(台 渡里第 80 次)	トレンチ 3	縄文土器・ 粗製深鉢	—	—	(9.5)	地文に単節縄文を 回転施紋した後、 縦・横・斜方向の沈 線で区画。口唇部 には粘土紐を横位に 貼り付け、指頭で押 圧しジグザグの口 縁部を作り出す。内 面は横方向の丁寧 なナデ調整。	—	金・砂粒(白 多)チャ ート礫	良好	5YR6/6 (橙) 7.5YR7/6 (橙)	後期 加曾利 B 式
	2			縄文土器・ 粗製深鉢	—	—	(5.6)	胴部下半は地文に単 節縄文を回転施紋し た後、斜方向の沈線 で区画。上部には横 位の隆帯を貼り付 け、指頭圧痕を施す。 内面は横方向の丁寧 なヘラミガキ。	—	金・砂粒 (白多・透 多)チャ ート礫	良好	5YR6/6 (橙) 10YR6/4 (にぶ い黄橙)	後期 加曾利 B 式
	3			縄文土器・ 粗製深鉢	—	—	(8.6)	胴部上半は地文に 単節縄文を回転施 紋した後、斜方向の 沈線で区画。下半 縦方向のヘラ削り。 内面は横方向の丁寧 なナデ調整。	—	金・砂粒(白 多・透) ・赤	良好	7.5YR7/4 (に ぶい橙) 10YR6/4 (に ぶい黄橙)	後期 加曾利 B 式
	4			縄文土器・ 粗製深鉢	—	—	(4.6)	胴部は地文に単節 縄文を回転施紋し た後、斜方向の沈線 で区画。内面は横 方向の丁寧なナデ 調整。	—	金・砂粒(白 多・透)	良好	10YR4/1 (褐 灰) 7.5YR5/3 (に ぶい褐)	後期 加曾利 B 式
	5			縄文土器・ 粗製深鉢	—	5.1	(3.3)	胴部外面は丁寧な ナデ調整。内面は同 心円状にヘラナデ 調整。底面はヘラ削 り後、ナデ調整。	底径 100	金・砂粒(白 多・透)	良好	7.5YR5/4 (に ぶい橙) 10YR5/4 (に ぶい黄褐)	後期 加曾利 B 式カ
	6	トレンチ 1	平瓦	全長 (7.2)	厚さ 1.5	重量 68g	粘土板桶巻き作 りカ、凹面は布目 圧痕、凸面は目の 大きい正格子叩き	—	砂粒(白・ 透)	良好	2.5Y8/3 (淡黄)	木葉下室跡群産カ 7 世紀後葉～ 8 世紀初頭	
	7		平瓦	全長 (7.8)	厚さ 1.6	重量 113g	泥条盤築技法、凹 面は輪積み痕と横 方向のナデ調整、 側面はナデ調整、 凸面は縄叩き	—	砂粒(白・ 透)・骨針	良好	2.5Y6/2 (灰黄)	木葉下室跡群産カ 9 世紀第 3 四半期以降	
	8		平瓦	全長 (16.1)	厚さ 2.0	重量 588g	粘土板桶巻き作り、凹 面は神板・布目圧痕、 凸面は正格子叩き後 にヘラ削り・ヘラナ デ、側面・端面はヘ ラ削り	—	砂粒(白・ 透・黒) ・5mm 大 砂礫	堅緻	5Y7/1 (灰白)	奈良時代カ	
	9		平瓦(熨斗 瓦カ)	全長 (8.5)	厚さ 1.7	重量 127g	粘土板一枚作り、凹 面は布目圧痕、側 面・端面はヘラ削り、 凸面は粗い縄叩き	—	砂粒(白多・ 透)・4mm 大砂礫	堅緻	5Y6/1 (灰)	奈良・平安 時代	
	10		平瓦	全長 (12.5)	厚さ 2.4	重量 494g	粘土板一枚作り、凹 面は布目圧痕と、端 面方向の糸切り痕、 凸面は縄叩き	—	砂粒(白・ 金)・赤・黒 ・2～3mm 大砂礫	良好	10YR8/3 (浅 黄橙)	平安時代カ	
	11		平瓦	全長 (9.0)	厚さ 2.0	重量 195g	粘土板一枚作りカ、 凹面は布目圧痕と 端面方向の糸切痕、 凸面は端面方向の 糸切痕と縄叩き	—	砂粒(白多・ 透多)	良好	2.5Y7/4 (浅黄)	奈良時代カ	
	12		平瓦(熨斗 瓦カ)	全長 (7.7)	厚さ 1.4	重量 103g	粘土板一枚作り、凹 面は布目圧痕と、端 面方向の糸切り痕、 凸面は縄叩き	—	砂粒(白多・ 透多)	良好	5Y6/1 (灰)	奈良時代カ	
	13		平瓦	全長 (10.2)	厚さ 2.4	重量 207g	凹面は布目圧痕、側 面はヘラナデ、凸 面は縄叩き	—	砂粒(白多・ 透)	良好	2.5Y6/3 (にぶ い黄) 2.5Y6/4 (にぶ い黄)	奈良時代カ	
	14	平瓦	全長 (5.4)	厚さ 1.6	重量 80g	粘土板一枚作りカ、 凹面は布目圧痕と糸 切り痕、凸面は縄叩 き	—	砂粒(白多・ 透)	良好	5Y5/1 (灰)	奈良時代カ		

図版	番号	遺跡名 (地点名・ 次数)	出土位置	種別・器形	法量 (cm)			観察所見	残存率 (%)	胎土	焼成	色調 (外面・内面)	生産地・ 年代等		
					細別	口径	底径							器高	
56	15	台渡里官 衛遺跡(台 渡里第80 次)	トレンチ1	平瓦	全長 (4.7)	厚さ 2.0	重量 65g	狭端部の隅カ粘土 板一枚作り、凹面は 布目圧痕、凸面は側 面方向の縷明き	—	砂粒(白 多・透多) ・ 3mm大砂 礫	良好	2.5Y6/2(灰黄)	平安時代カ		
	16			トレンチ2	平瓦	全長 (9.3)	厚さ 2.1	重量 151g	粘土板一枚作り、凹 面は布目圧痕と、端 面方向の糸切り痕、 凸面はナデ調整	—	砂粒(白 多・透多)	良好	5Y6/1(灰)	平安時代カ	
	17			トレンチ1	平瓦	全長 (6.5)	厚さ 2.0	重量 65g	粘土板一枚作り、凹 面、側面・端面・凸 面ともにヘラ削り調 整	—	砂粒(白 多・透) ・ 2mm大砂 礫	堅緻	5Y5/1(灰)	平安時代カ	
	18			トレンチ1	丸瓦	全長 (12.4)	厚さ 2.5	重量 674g	一木の模骨を用いた 粘土紐巻き作り、凹 面は布目圧痕と輪 積み痕、下端部はヘ ラ削り、側面・広端 面はヘラ削り、凸面 は下端部は縦位のヘ ラ削りで中部から上 部は横位のナデ調整	—	金・砂粒(白 多・透) ・ 4mm大砂 礫	良好	2.5Y7/2(灰黄)	奈良時代	
					丸瓦	全長 (13.1)	厚さ 1.6	重量 238g	一木の模骨を用いた 粘土紐巻き作り、凹 面は布目圧痕と輪 積み痕、下端部はヘ ラ削り、凸面は横 位のナデ調整	—	砂粒(黒・ 白多・透)	堅緻	5Y6/1(灰)	奈良時代	
61	1	釜神町遺跡 (第5地点)	トレンチ1 一括	縄文土器・ 深鉢	—	—	—	胴部、単筋LR 縄文が縦位方 向に回転施文。	—	砂粒(白多・ 透)・骨針	普通	10YR4/2(灰黄褐) 10YR6/6(明黄褐)	中期後半		
	2			磁器・小碗・ 腰部丸形	7.1	3.8	4.7	轆轤成形/染付・ 豊付無釉/削り出し 高台/外面龍文	80	—	—	—	—	肥前産 18世紀~	
	3			磁器・碗・ 半球碗C	—	(4.0)	(3.15)	轆轤成形/染付/ 豊付無釉/外面矢 羽根文、高台脇一 重圈線	—	—	—	—	—	肥前産 1750年代~ 1860年代	
	4			磁器・皿カ	—	5.8	3.2	轆轤成形/色絵(青・ 緑・黒)・豊付無釉 /内面竹に鶯文	—	—	—	—	—	—	産地不明 近代
	5			磁器・碗・ 不明	—	4.2	2.8	轆轤成形/透明 釉・豊付無釉/ 高台内に釉下墨 書で「□□」	—	—	—	—	—	—	産地不明 近代
	6			陶器・土瓶 蓋	最大径 9.0	受部径 6.3	(1.9)	轆轤成形/摘み・受 部貼付(摘み欠損) /上面鉄釉、下面鉄 釉、上面糸目、受部 内中央銘款「茶」	80	—	—	—	—	—	瀬戸・美濃産 近世
	7			施釉土器・ 甕カ	(14.8)	—	(2.9)	轆轤成形/内 外面鉄釉/折 縁	—	—	—	—	—	—	在地産カ 近代カ
	8			土器・人形 (鯉)	最大長 (5.1)	最大幅 (1.6)	(2.3)	型押成形、左右合 わせ/胎土白色、 表面にキラ多量 付着	—	—	良好	—	—	—	産地不明 近世以降
	9			土器・サナ	最大径 (11.0)	最大長 (5.7)	重量 70g	型押成形/焼成前 穿孔5箇所残存、 下部・上部ともに 灰付着	45	砂粒(白 多・透)	良好	5YR5/8(明黄褐)	—	—	産地不明 近世~近代
	10			磁器・皿カ	(7.8)	(3.2)	1.9	轆轤成形/色絵 (青・緑・黒)・ 豊付無釉/内面 竹に鶯文	40	—	—	—	—	—	産地不明 近代
	11			磁器・碗・ 統制陶器	—	3.8	(4.9)	轆轤成形/白泥塗 布の上に透明釉/ 底裏に統制番号「岐 52□」(ゴム判)	—	—	—	—	—	—	美濃 1941年~ 1945年 戦時統制期
64	1	釜神町遺跡 (第24地点)	トレンチ1 攪乱	陶器・焼締 陶器皿	(7.5)	3.3	1.6	轆轤成形/鉄釉・ 外面釉拭取/内 面見込み釉ハギ 痕あり	40	—	—	—	七面製陶所 (精製七面焼) 1838(天保 9)年以降		
	2			磁器・皿・ コバルト染 付皿	(13.8)	(7.8)	2.6	轆轤成形/コバルト 染付・豊付無釉/内 面格子文・鳥文、外 面高台脇二重圈線	—	—	—	—	—	産地不明 1870年代~	

図版	番号	遺跡名 (地点名・ 次数)	出土位置	種別・器形 細別	法量 (cm)			観察所見	残存率 (%)	胎土	焼成	色調 (外面・内面)	生産地・ 年代等			
					口径	底径	器高									
64	3	釜神町遺跡 (第24地点)	トレンチ1 攪乱	陶器・段重	—	(8.5)	(3.6)	轆轤成形／鉄釉	—	—	—	—	瀬戸・美濃産カ 近世以降			
	4			陶器・皿・ 不明	—	(5.6)	(1.6)	轆轤成形／白泥/ 削出高台, 貫入あり	—	—	—	—	瀬戸・美濃産カ 近世以降			
	5			陶器・德利	2.5	最大径 15.8	(13.0)	轆轤成形／灰釉/ 鶴首逆無形, 口縁 部玉縁状	—	—	—	—	七面製陶所(精 製七面焼) 1838(天保9) 年以降			
	6			陶器・片口 鉢	14.6	9.5	7.6	轆轤成形／灰釉/口縁 部玉縁状, 片口部貼付, 内面見込み目痕(8 箇所あり), 蛇/目高 台(無釉), 高台に墨書 「臺」あり	100	—	—	—	産地不明 19世紀以降			
	7			土器・鉢カ・ 土師質	(27.0)	—	(4.8)	轆轤成形／折 縁	—	—	—	—	産地不明 近世以降			
	8			磁器・碗・ コバルト染付碗	11.8	4.5	5.7	轆轤成形/コバルト染 付, 畳付無釉/波文に 鳥, 高台脇一重圏線, 高台欄間文, 高台内一 重圏線, 底裏路「角福」	70	—	—	—	産地不明 1870年代~			
	9			磁器・碗・ コバルト染付碗	10.0	3.6	4.7	轆轤成形/コバルト 染付・吹掛, 畳付 無釉/外面花卉文	70	—	—	—	産地不明 近代後期 (20世紀~)			
	10			磁器・碗・ コバルト染付碗	(11.4)	(2.4)	5.7	轆轤成形/コバルト染 付, 畳付無釉/外面薔 薇文, 高台脇一重圏線	—	—	—	—	産地不明 近代後期 (20世紀~)			
	11			磁器・碗・ 統制陶器	10.9	5.0	5.8	轆轤成形/白泥塗 布の上に透明釉/ 口, 外面二重圏線底 裏路「日陶製」	100	—	—	—	美濃カ 1941年~ 1945年 戦時統制期			
	12			磁器・德利・ コバルト染付	(2.6)	5.8	15.7	轆轤成形/コバルト染 付・畳付無釉・砂付着 /口縁部玉縁状, 外面 竹に笹文, 底裏路「菜 山」(上総付・黒)	90	—	—	—	産地不明 近代後期 (20世紀~)			
	13			陶器・挿鉢	—	(13.2)	(4.5)	轆轤成形/コバルト 染付・畳付無釉/内 面格子文・鳥文, 外 面高台脇二重圏線	—	—	—	—	産地不明 1870年代~			
	14			磁製品・ミ ニチュア碗	2.4	0.9	0.9	轆轤成形/コバルト染 付, 畳付無釉/波文に 鳥, 高台脇一重圏線, 高台欄間文, 高台内一 重圏線, 底裏路「□」	100	—	—	—	産地不明 近代以降			
	15			ガラス製品・ 化粧クリーム瓶カ	3.1	2.5	2.9	型吹き成形/乳白 色/底部隔刻「18」	100	—	—	—	産地不明 近代			
	16			ガラス製品・ 化粧クリーム瓶	3.3	3.3	3.5	型吹き成形/乳白 色/ネジ口	100	—	—	—	産地不明 近代			
	17			磁器・小壺	2.2	2.5	4.1	轆轤成形/無釉/底 部陰刻「MADE IN JAPAN」, 肩部から胴 部にかけて朱が付着	100	—	—	—	産地不明 近代			
	18			ガラス製品・ 薬瓶	1.1	3.6×2.8	9.3	型吹き成形/無色透明/ コルク栓, 外面に隔刻「ラ ヂウム波」「RADIUM」, 底部に隔刻「平尾」	100	—	—	—	産地不明 近代			
	19			ガラス製品・ 薬瓶	0.9	2.8	6.7	型吹き成形(割り型) /無色透明/コルク 栓, 外面に目盛り隔刻	100	—	—	—	産地不明 近代			
	75			1	坏遺跡 (第14地点)	第1次調査 表面採集	縄文土器・ 深鉢	—	—	(2.2)	口縁部に刻み, 直下に角押文が 施紋されている	—	銀・砂粒 (白多)	良好	5YR5/6(明赤褐)	中期中葉 阿玉台1b式
				2			縄文土器・ 深鉢	—	—	(3.4)	胴部に擦糸文が 縦位に回転施紋 されている	—	銀多・砂粒 (白多)	良好	10YR6/6(明黄褐) 10YR4/1(褐灰)	中期後葉 加曾利E1式
3		縄文土器・ 深鉢	—	—			(2.8)	胴部に単節RL縄 文が縦位に回転 施紋されている	—	金・砂粒(白 多・透多)	良好	10YR6/4(にぶ い黄橙)	中期後葉 加曾利E式も しくは大木式			
4		縄文土器・ 深鉢	—	—			(1.7)	胴部に単節LR縄 文が横位に回転 施紋されている	—	砂粒(白多・ 赤)	良好	2.5YR5/6(明 赤褐)	中期後葉 加曾利E式も しくは大木式			

図版	番号	遺跡名 (地点名・ 次数)	出土位置	種別・器形 細別	法量 (cm)			観察所見	残存率 (%)	胎土	焼成	色調 (外面・内面)	生産地・ 年代等	
					口径	底径	器高							
75	5	坏遺跡 (第14地点)	第1次調査 トレンチ一括	縄文土器・ 深鉢	—	—	(4.2)	外面に単節LR縄 文が横位に回転 施紋されている	—	金・砂粒(白 多)	良好	2.5Y4/2(暗灰黄)	中期後葉 加曾利E式も しくは大木式	
	6			縄文土器・ 深鉢	—	—	(3.8)	外面に単節LR縄 文が横位に回転 施紋されている	—	銀・砂粒(白 多)	良好	2.5Y6/3(にぶい黄)	中期後葉 加曾利E式も しくは大木式	
	7			縄文土器・ 深鉢	—	—	(2.4)	胴部に単節LR縄 文が横位に回転 施紋されている	—	砂粒(白多)	良好	7.5YR7/6(橙) 2.5Y7/4(浅黄)	中期後葉 加曾利E式も しくは大木式	
	8			縄文土器・ 深鉢	—	—	(3.5)	外面に条線が斜 位に施されている	—	金・砂粒(白 多)	良好	7.5YR6/6(橙) 7.5YR4/3(褐)	中期後葉 加曾利E3式も しくは加曾利E4式	
	9			須恵器・無 台坏	—	(9.0)	(4.0)	内外面ともにロ ク口水挽整形、 底部は未調整	—	砂粒(白多)・ 骨針・6mm 大の礫	良好	5Y5/1(灰)	木葉下窯跡群産 9世紀以降	
	10			土師質土器・ 内耳土鍋	(28.0)	—	(3.8)	内外面ともにロ ク口水挽整形、 外面に煤付着	—	砂粒(白多)	良好	10YR2/1(黒) 10YR6/4(黄橙)	中世	
	11			第2次調査 トレンチ1溝	縄文土器・ 深鉢	—	—	(3.2)	口唇部無文帯直に二条 の横走る沈線文を描 き、その間に連続する 刻み目を施す。下半に は単節LR縄文が回転 施紋されている	—	金・砂粒(白 多・透)・ 骨針	良好	2.5Y2/1(黒)	中期後葉 加曾利E2式 連弧文系土器
	12				縄文土器・ 深鉢	—	—	(3.8)	口唇部直下に半円形の 沈線文が描かれ、口唇 部には刻み目が施され ている	—	銀・砂粒(白 多・透)	良好	5YR6/6(橙) 7.5YR4/3(褐)	中期後葉 曾利式カ
	13				縄文土器・ 深鉢	—	—	(3.2)	単節LR縄文を回転施 紋した後、縦走る沈 潜文により磨り消して いる	—	砂粒(白多・ 透)	良好	5YR6/6(橙) 10YR6/4(にぶい黄橙)	中期後葉 加曾利E2式 ～E3式
	14				第2次調査 トレンチ1溝	縄文土器・ 深鉢	—	—	(3.5)	単節LR縄文を回転施 紋している	—	金・砂粒(白 多・透)	良好	5YR3/3(暗赤褐) 5YR4/6(赤褐)
	15	第2次調査 トレンチ2住居	縄文土器・ 深鉢		—	—	(2.6)	外面に条線が 縦位に施され ている	—	金・砂粒(白 多・透)	良好	2.5YR6/8(橙) 7.5YR4/2(灰褐)	中期後葉 加曾利E3式も しくはE4式	
	17		土師器・甕		—	—	(2.9)	外面削げ目調整、 内面は横位のナ デ調整	—	砂粒(白多・ 透)	良好	5YR6/8(橙) 7.5YR6/6(橙)	古墳時代 前期	
	18		第2次調査 トレンチ1溝		土師器・甕	—	(3.7)	(3.4)	外面はヘラ削り 後、ナデ調整	—	砂粒(白多・ 透)	やや軟質	10YR7/4(にぶい黄橙) 5YR7/6(橙)	古墳時代 以降
	78	1	坏遺跡 (第16地点)		トレンチ1 SD01	縄文土器・ 深鉢	—	—	(3.5)	単節LR縄文を横位に 回転施紋した後、2条 の沈線で磨り消して区 画を削りだしている	—	砂粒(透)・ 黒・金	良好	7.5YR7/6(橙) 2.5YR7/4(浅黄)
		2		縄文土器・ 深鉢		—	—	(2.9)	隆帯を貼り付け渦巻 文を削りだしている	—	砂粒(白多・ 黒・透)・金	良好	10YR6/3(にぶい黄橙) 10YR7/4(明黄褐)	中期後葉 加曾利E2式
		3		縄文土器・ 深鉢		—	—	(3.0)	単節LR縄文を 縦位に回転施 紋している	—	砂粒(透多・ 白・黒)	良好		中期後葉 加曾利E式も しくは大木式
	81	1	薬王院東遺跡 (第2地点区 画No.2)	トレンチ2 SIO1	弥生土器・ 壺	—	—	(3.0)	櫛歯状工具によ り波状文が横位 に描かれている	—	砂粒(白多)・ 骨針	良好	10YR7/4(に ぶい黄橙)	後期 十王台式
		2			弥生土器・ 壺	—	—	(1.5)	5条単位の櫛歯状 工具により弧線文 と波状文が横位に 描かれている	—	砂粒(白多・ 透)	普通	10YR6/4(に ぶい黄橙)	後期 十王台式
3		弥生土器・ 壺			—	—	(3.3)	7条単位の櫛歯状工 具により弧線文が横 位に描かれ、下半に は付加条状文が回転 施紋されている	—	砂粒(白多)・ 骨針	良好	10YR3/2(黒褐) 7.5YR6/6(橙)	後期 十王台式	
4		弥生土器・ 壺			—	—	(3.0)	付加条状文が回転 施紋されている	—	砂粒(白多・ 透)	良好	10YR4/2(灰黄褐)	後期 十王台式	
5		土師器・甕			—	—	(4.8)	外面は縦及び斜方 向にヘラ削り調整 が施されている	—	砂粒(白多)・ 骨針	良好	2.5Y4/1(黄灰) 10YR6/3(にぶい黄橙)	古墳時代 後期以降	
84	1	薬王院東遺跡 (第2地点区 画No.6)	トレンチ1 確認面	土師器・坏	13.0	6.0	2.8	内外面ともにロク 口水挽整形、底面 は回転糸切り	40	砂粒(透)・ 金	良好	10YR6/3(にぶい黄橙)	10世紀第2 四半期～第3 四半期	

図版	番号	遺跡名 (地点名・ 次数)	出土位置	種別・器形	法量 (cm)			観察所見	残存率 (%)	胎土	焼成	色調 (外面・内面)	生産地・ 年代等
					細別	口径	底径						
84	2	薬王院東遺跡 (第2地点区 画 No.6)	トレンチ1 確認面	土師器・高 台坏椀	—	7.0	(2.0)	内外面ともにロクロ水挽整形。内面は丁寧なヘラミガキの後、黒色処理。底面は回転糸切り後、ナデ調整	—	金・微砂粒 (透・白)・ 赤	良好	10YR7/4 (に ぶい黄橙) 2.5Y2/1 (黒)	9世紀第4四半 期～10世紀第1 四半期
	3			土師器・甕	(26.0)	—	(9.5)	口縁部は横方向のナデ調整。胴部外面は縦方向のヘラ削り、内面は斜め方向のナデ調整	—	金・砂粒(白・ 透)	良好	10YR5/3 (に ぶい黄褐) 10YR4/3 (に ぶい黄褐)	平安時代カ 4と同一個体
	4			土師器・甕	—	(12.8)	(2.2)	外面は横方向のヘラ削り、内面は斜め方向のナデ調整。底面はナデ調整	—	金・砂粒(白・ 透)	良好	10YR5/3 (に ぶい黄褐)	平安時代カ 3と同一個体
87	1	堀遺跡 (第3地点 区画 No.1)	トレンチ1 一括	須恵器・無 台坏	(16.0)	—	(4.2)	内外面ともにロクロ水挽整形	—	砂粒(白多・ 透)・骨針・ 4mm大の礫	堅緻	5Y6/1 (灰)	木葉下窯跡群産 8世紀第4四半期～ 9世紀第1四半期
	2			須恵器・無 台坏	—	(7.6)	(2.6)	内外面ともにロクロ水挽整形。底部未調整。底面に墨書有	—	砂粒(白多・ 透)・骨針	堅緻	10YR6/3 (にぶい黄橙) 10YR6/4 (にぶい黄橙)	木葉下窯跡群産 9世紀第3四半期～ 9世紀第4四半期
	3			須恵器・有 台坏	—	(8.6)	(2.9)	内外面ともにロクロ水挽整形。底面は回転ヘラ削り	—	砂粒(白多・ 透)・骨針	堅緻	7.5YR4/3(にぶい褐)	木葉下窯跡群産 9世紀
	4			須恵器・有 台坏	—	(9.0)	(2.4)	内外面ともにロクロ水挽整形。底面は回転ヘラ削り	—	砂粒(白多・ 透)	堅緻	5Y6/1 (灰)	木葉下窯跡群産 8世紀第4四半期
	5			須恵器・坏 蓋	(17.0)	—	(1.1)	内外面ともにロクロ水挽整形	—	砂粒(白多・ 透)	堅緻	5Y5/1 (灰)	山田窯跡群産 7世紀第4四半期
	6			須恵器・坏 蓋	(19.0)	—	(0.9)	内外面ともにロクロ水挽整形	—	砂粒(白多・透)・ 4mm大の礫	堅緻	5YR5/3(にぶい赤褐)	木葉下窯跡群産 8世紀第1四半期
90	1	堀遺跡 (第22地点)	トレンチ1	土師器・坏	(14.5)	—	(4.2)	体部中央に稜。稜から口縁部は横位のナデ調整。稜から底部は反時計回りの方向に横位のヘラ削り調整。内面は口唇部に僅かに漆塗り、横位のナデ調整	—	砂粒(白多・ 赤多)	良好	10YR5/2(灰黄褐) 10YR6/4(にぶい黄橙)	筑波山南麓地域カ 7世紀後半～ 8世紀初頭
	2			須恵器・有 台坏	—	(9.2)	(2.7)	内外面ともにロクロ水挽整形。底部は回転ヘラ削り	—	骨針・砂 粒(白多)	堅緻	7.5Y5/1 (灰)	木葉下窯跡群産 奈良・平安
	3		トレンチ2	須恵器・甕	—	(14.6)	(2.6)	内面は横位のナデ調整。外面は時計回りの方向にヘラ削り調整	—	砂粒(白多・ 透)・チャ ート礫	堅緻	2.5Y5/1 (黄灰)	木葉下窯跡群産 奈良・平安
93	1	堀遺跡 (第24地点)	トレンチ1	須恵器・無 台坏	—	7.4	(2.3)	内外面ともにロクロ水挽整形。底部はナデ調整	—	砂粒(白多・ 黒・透)・ 骨針	堅緻	7.5Y5/1 (灰)	木葉下窯跡群産 奈良・平安
98	1	堀遺跡 (第28地点)	トレンチ1 一括	須恵器・盤	(14.0)	—	(1.7)	内外面ともにロクロ水挽整形	—	骨針・砂 粒(白)	堅緻	5Y5/1 (灰)	木葉下窯跡群産 9世紀第3四半期
	2			土師器・坏	—	(8.2)	(1.2)	内外面ともにロクロ水挽整形。底部は回転ヘラ削り	—	金・砂粒 (透・白)	良好	10YR6/3(にぶい黄橙)	平安
	3			土師器・甕	—	(10.0)	(2.2)	外面は縦位のナデ調整。底部は未調整	—	金多・砂 粒(透・白)	良好	10YR3/2(黒褐) 10YR4/1(褐灰)	奈良・平安
	4			須恵器・甕	—	—	(8.5)	外面は平行線文叩き。内面に当て具痕はなし	—	砂粒(黒 多・白・透)	堅緻	5Y5/2(灰オリーブ) 5Y5/1 (灰)	木葉下窯跡群産 奈良・平安
103	1	アラヤ遺跡 (第3地点(台 渡里第68次))	トレンチ 一括	縄文土器・ 精製深鉢	—	—	(4.2)	単節LR縄文を回転施紋した後、沈線とミガキにより磨り消し	—	砂粒(白 多・透多)	良好	10YR5/4(にぶい黄橙) 10YR3/1(黒褐)	後期 堀之内2式もし くは加曽利B式
	2			縄文土器・ 粗製深鉢	—	—	(3.9)	外面は単節LR縄文を回転施紋。内面は削り調整	—	銀・砂粒(白 多・黒多)	良好	7.5YR6/6(橙) 7.5Y5/6(明赤褐)	後期 堀之内式
	3			縄文土器・ 粗製深鉢	—	—	(3.2)	外面に微隆起帯が横走	—	砂粒(白 多・透)	良好	10YR5/3(にぶい黄褐)	型式不明
	4			須恵器・無 台坏	—	(6.0)	(1.2)	内外面ともにロクロ水挽整形。底部は回転ヘラ削り後ナデ調整	—	骨針・砂 粒(白)	良好	5Y5/1 (灰)	木葉下窯跡群産 9世紀代
106	1	大鋸町遺跡 (第12地点)	トレンチ 一括	縄文土器・ 深鉢	—	—	(6.0)	波状口縁で、突起部には直径6mmの孔を穿孔。地文には単節LR縄文が回転施紋。曲線状の沈線により磨り消し	—	砂粒(白 多・透多)	良好	10YR7/4(にぶい黄橙) 10YR7/4(にぶい黄橙)～ 10YR3/1(黒褐)	後期前葉 綱網2式

図版	番号	遺跡名 (地点名・ 次数)	出土位置	種別・器形 細別	法量 (cm)			観察所見	残存率 (%)	胎土	焼成	色調 (外面・内面)	生産地・ 年代等	
					口径	底径	器高							
106	2	大鋸町遺跡 (第12地点)	トレンチ 一括	弥生土器・ 壺	—	—	(2.7)	上半部に隆帯を貼り 付け、帯状刺突文を施 紋、直下に6条単位 の櫛描状波状文が横 位に描く	—	砂粒 (透 多)	良好	2.5Y3/2 (黒褐) 2.5Y5/3 (黄褐)	後期 十王台式	
	3			弥生土器・ 壺	—	—	(2.9)	縄文を押しすること により連続刺突 文を描く	—	砂粒 (白 多・透多)	良好	10YR3/1 (黒褐) 10YR5/4 (にぶい黄褐)	後期 十王台式	
	4			弥生土器・ 壺	—	—	(2.6)	櫛描波状文を横位 に描いた後、縦位の スリット (区画文) で区画	—	砂粒 (透 多)・銀	良好	7.5YR7/6 (橙)	後期 十王台式	
	5			弥生土器・ 壺	—	—	(3.9)	外面に附加条状文が 回転施紋	—	砂粒 (白 多)・金	良好	10YR7/4 (にぶい黄橙) 5YR7/6 (橙)	後期 十王台式	
	6			弥生土器・ 壺	—	—	(4.6)	外面に附加条状文が 回転施紋	—	砂粒 (白 多・透多)	良好	2.5Y3/1 (黒褐) 7.5YR7/5 (橙)	後期 十王台式	
109	1	西原遺跡 (第2地点)	トレンチ1 一括	土師器・無 台坏	—	(8.0)	(1.2)	外面の底部からの立 ち上がりは反時計回 りの方向の回転ヘラ ケズリ調整、内面は ミガキ調整及び黒色 処理	—	砂粒 (白 多・銀)	良好	10YR7/4 (に ぶい黄橙) 2.5Y2/1 (黒)	9世紀第2 四半期～第 3四半期	
	2			須恵器・無 台坏	—	(8.0)	(2.7)	内外面ともに口 ク口水挽整形、 底部は未調整	—	骨針・砂 粒 (白多・ 透)	堅緻	7.5YR7/6 (橙) 2.5Y7/3 (浅黄)	木葉下窯跡群 9世紀第3 四半期以降	
	3			陶器・焼締陶 器・不明 (皿 または鉢)	—	(8.6)	(2.3)	轆轤成形/削り出 し高台/内面胎釉 /外面釉垂れあり	—				産地不明 近代カ	
112	1	文京1丁目遺跡 (第1地点区画 No.1)	Dトレンチ	縄文土器・ 深鉢	(26.5)	(10.0)	(36.0)	波状口縁、口縁部文 様帯～頸部文様帯は 地文に単節RL縄文 を縦位に回転施紋し た後、沈線により渦 巻き文や並行線文を 描き磨り消す。胴部 は地文に単節LR縄 文を横位に回転施紋 した後、縦位の沈線 文や懸垂文を描き磨 り消し	25	砂粒 (金 多・銀多・ 白多・透)	良好	7.5YR6/6 (橙) 2.5Y3/1 (黒褐)	大木 8b 式	
	2			Dトレンチ	縄文土器・ 深鉢	—	—	(3.1)	口唇部直下に交互刺 突文を施紋	—	骨針・砂 粒 (金多・ 白・透)	良好	5YR6/6 (橙)	加曾利 E2 式
	3			Dトレンチ	縄文土器・ 深鉢	—	—	(3.5)	地文に単節LR縄文 とRL縄文を縦位に 回転施紋した後に隆 帯を貼り付け	—	砂粒 (銀 多・白多・ 透)	普通	10YR5/3 (にぶ い黄橙) 10YR6/4 (にぶ い黄橙)	加曾利 E 式も しくは大木式
	4			Dトレンチ	縄文土器・ 深鉢	—	—	(5.2)	地文に単節RL縄 文を縦位に回転 施紋	—	砂粒 (白 多・銀多・ 赤・透)	良好	10YR6/3 (に ぶい赤褐)	加曾利 E 式
	5			Dトレンチ	縄文土器・ 深鉢	—	—	(5.8)	地文に単節LR縄文 とRL縄文を回転施 紋した後に口唇部直 下に連続する楕円形 の隆帯を貼り付け、 それに沿う形で太い 沈線文を描き、磨り 消し	—	砂粒 (白)	良好	10YR7/4 (に ぶい黄橙)	加曾利 E2 式
114	1	文京1丁目遺跡 (第1地点区画 No.2)	古墳周溝 覆土中層	土師器・椀	(8.0)	—	(7.2)	胴部下半に幅 の細いミガキ 調整	—	砂粒 (白 多・透)	良好	10YR5/4 (にぶ い黄褐) 10YR5/4 (にぶ い黄褐)～5Y2/1 (黒)	古墳時代 中期	
	2		古墳周溝 覆土中層	土師器・椀	(9.2)	—	(4.5)	胴部下半に幅 の細いミガキ 調整	—	砂粒 (白 多・透)	良好	7.5YR6/4 (に ぶい橙) 7.5YR6/6 (橙)	古墳時代 中期	
	3		古墳周溝 覆土中層	普通円筒埴 輪	—	—	(8.2)	外面は縦位の刷毛目、 口唇部直下に横位の ナデ調整、有黒斑。内 面は横位・斜位の刷毛 目	—	砂粒 (白 多・赤)	良好	7.5YR7/6 (橙) ～7.5YR2/1 (黒) 7.5YR6/6 (橙)	古墳時代前 期末葉～中 期前葉	
	4		古墳周溝 覆土中層	普通円筒埴 輪	—	—	(2.4)	外面は縦位の刷毛目、 口唇部に横位の ナデ調整。内面 は横位の刷毛目	—	砂粒 (白・ 透・赤)	良好	5YR5/6 (明赤 褐)	古墳時代前 期末葉～中 期前葉	



図版	番号	遺跡名 (地点名・ 次数)	出土位置	種別・器形			法量 (cm)			観察所見	残存率 (%)	胎土	焼成	色調 (外面・内面)	生産地・ 年代等
				細別	口径	底径	器高								
114	5	文京1丁目遺跡 (第1地点区画 No.2)	古墳周溝 覆土中層	朝顔形円筒 埴輪カ	—	—	(5.5)	外面はナデ調 整、内面は横 位の刷毛目	—	砂粒(白・ 透・赤)	良好	7.5YR6/4 (に ぶい橙) 7.5YR7/6 (橙)	古墳時代前 期末葉～中 期前葉		
	6		古墳周溝 覆土中層	普通円筒埴 輪	—	—	(6.7)	外面は縦位の刷毛 目、内面は横位の刷 毛目・ナデ調整、有 黒斑。内面は輪積み 痕が顕著に残存	—	砂粒(白・ 透・赤)	普通	2.5Y7/4 (浅黄) ～2.5Y2/1 (黒) 10YR7/4 (にぶい 黄橙)	古墳時代前 期末葉～中 期前葉		
	7		古墳周溝 覆土中層	朝顔形円筒 埴輪カ	—	—	(13.6)	外面は縦位・斜位の 刷毛目、内面は横位 の刷毛目。内面には 輪積み痕が顕著に 残存	—	砂粒(白多・ 銀多・透多・赤)	やや軟質	10YR5/2 (灰黄 褐)～10YR5/4 (にぶい黄褐) 7.5YR4/1 (褐灰) ～7.5YR6/6(橙)	古墳時代前 期末葉～中 期前葉		
	8		古墳周溝 覆土中層	普通円筒埴 輪	(26.6)	—	(16.7)	外面は縦位の刷毛目、 口唇部直下は横位の ナデ調整、有黒斑。内 面は斜位の刷毛目。第 114図11・第115図 15・30と同一個体	—	砂粒(白多・ 銀多・透多・赤)	普通	7.5YR6/6 (明褐)・ 10YR7/6 (明黄褐) ～7.5Y2/1 (黒) 7.5YR6/6 (明褐)・ 10YR6/4 (にぶい黄 橙)～10YR5/1(褐灰)	古墳時代前 期末葉～中 期前葉		
	9		古墳周溝 覆土中層	普通円筒埴 輪	—	—	(21.3)	外面は縦位・斜位 の刷毛目、内面は横 位の刷毛目・ナデ調整	—	砂粒(白多・ 透多・赤)	普通	7.5YR6/6 (橙)～ 10YR7/4 (にぶい 黄橙) 7.5YR6/6 (橙)	古墳時代前 期末葉～中 期前葉		
	10		古墳周溝 覆土中層	普通円筒埴 輪	最大径 (34.0)	(30.0)	(40.0)	外面は縦位・斜位の 刷毛目、上半部には 横位の連続する工具 痕。内面は横位の 刷毛目及びナデ調 整。内面には輪積み 痕が顕著に残存	—	砂粒(白多・ 透多・銀多・赤)	普通	10YR6/3 (に ぶい黄橙)	古墳時代前 期末葉～中 期前葉		
	11		古墳周溝 覆土中層	普通円筒埴 輪	—	—	(24.4)	外面は縦位の刷毛 目及びナデ調整、有 黒斑。内面は斜位の 刷毛目。内面には 輪積み痕が顕著に 残存。第114図8・ 第115図30と同一 個体	—	砂粒(白多・ 銀多・透多・赤)	普通	7.5YR6/6 (橙) ～10YR1.7/1 (黒) 7.5YR6/6 (橙)	古墳時代前 期末葉～中 期前葉		
	12		古墳周溝 覆土中層	普通円筒埴 輪	最大径 (30.0)	—	(20.3)	外面は縦位・斜位の 刷毛目、内面は横位・ 斜位の刷毛目及びナ デ調整。凸帯は焼成 後の打撃により意図 的に剥落。有黒斑。 内面には輪積み痕 が顕著に残存。第 114図13・第115 図14・19・第116 図34・35・47と 同一個体	—	砂粒(白多・ 透・赤)	硬質	2.5YR5/6 (明 赤褐)	古墳時代前 期末葉～中 期前葉		
	13		古墳周溝 覆土中層	普通円筒埴 輪	最大径 (28.0)	—	(11.0)	外面は縦位の刷毛目、 内面は横位・斜位の ナデ調整、有黒斑。内 面には輪積み痕が顕 著に残存。第114 図12・第115図14 ・19・第116図34 ・35・47と同一個 体	—	砂粒(白多・ 透・赤)	硬質	2.5YR5/6 (明赤 褐)～2.5YR2/1 (黒) 2.5YR4/8(赤褐)	古墳時代前 期末葉～中 期前葉		
	115		14	古墳周溝 覆土中層	普通円筒埴 輪	—	—	(6.8)	外面は縦位の刷毛目、 内面は横位・斜位の ナデ調整。凸帯は焼 成後の打撃により意 図的に剥落。有黒斑。 内面には輪積み痕 が顕著に残存。第 114図12・13・第 115図19・第116 図34・35・47と 同一個体	—	砂粒(白多・ 銀多・透・赤)	硬質	2.5YR5/6 (明赤 褐)～2.5YR2/1 (黒) 2.5YR4/8(赤褐)	古墳時代前 期末葉～中 期前葉	
			15	古墳周溝 覆土中層	普通円筒埴 輪	—	—	(5.3)	外面は縦位の刷毛目、 内面は横位・斜位の ナデ調整。方形透し	—	砂粒(白多・ 銀多・透・赤)	普通	7.5YR5/6 (に ぶい黄橙) 7.5YR6/6 (橙)	古墳時代前 期末葉～中 期前葉	
			16	古墳周溝 覆土中層	普通円筒埴 輪	—	—	(6.6)	外面は縦位の刷毛目、 内面は横位のナデ 調整、有黒斑。第 115図17・第116 図38と同一個体	—	砂粒(白多・ 銀多・透)	やや軟質	7.5YR2/1(黒褐) 7.5YR5/6 (明赤 褐)	古墳時代前 期末葉～中 期前葉	

図版	番号	遺跡名 (地点名・ 次数)	出土位置	種別・器形			法量 (cm)			観察所見	残存率 (%)	胎土	焼成	色調 (外面・内面)	生産地・ 年代等
				細別	口径	底径	器高								
115	17	文京1丁目遺跡 (第1地点区画 No.2)	古墳周溝 覆土中層	普通円筒埴 輪	—	—	(19.0)	外面は縦位の刷毛目、内面は横位のナデ調整。方形透し。有黒斑。第115図16・第116図38と同一個体	—	砂粒(白多・銀多・透)	やや軟質	10YR3/1(黒褐) 10YR6/4(にぶい黄橙)	古墳時代前期末葉～中期前葉		
	18		古墳周溝 覆土中層	普通円筒埴 輪	—	—	(9.3)	外面は縦位の刷毛目、方形透し、有黒斑。内面は斜位の刷毛目及びナデ調整。第114図8・11・115図15・30と同一個体カ	—	砂粒(白多・銀多・透・赤)	普通	10YR7/4(にぶい黄橙) 7.5YR6/6(橙)	古墳時代前期末葉～中期前葉		
	19		古墳周溝 覆土中層	普通円筒埴 輪	—	—	(7.8)	外面は縦位の刷毛目、内面は横位・斜位のナデ調整。凸帯は焼成後の打撃により意図的に剥落。有黒斑。内面には輪積み痕が顕著に残存。第114図12・13・第115図14・19・第116図34・35と同一個体	—	砂粒(白多・銀多・透・赤)	硬質	2.5YR5/6(明赤褐)～2.5YR2/1(黒) 2.5YR4/8(赤褐)	古墳時代前期末葉～中期前葉		
	20		古墳周溝 覆土中層	普通円筒埴 輪	—	—	(12.8)	外面は縦位の刷毛目及びナデ調整。円形透し、有黒斑。内面は斜位のナデ調整。	—	砂粒(白多・銀多・透・赤)	やや軟質	5YR3/3(明赤褐)～5YR6/6(橙) 5YR4/4(にぶい赤褐)	古墳時代前期末葉～中期前葉		
	21		古墳周溝 覆土中層	普通円筒埴 輪	—	—	(5.1)	外面は縦位の刷毛目、内面は横位のナデ調整。凸帯は焼成後の打撃により意図的に剥落。円形透し。第114図12・13・第115図14・19・第116図34・35と同一個体	—	砂粒(白多・銀多・透・赤)	硬質	7.5YR5/6(明赤褐) 2.5YR4/3(褐)	古墳時代前期末葉～中期前葉		
	22		古墳周溝 覆土中層	普通円筒埴 輪	—	—	(6.1)	外面は横位のナデ調整。円形透し。内面は横位のナデ調整。	—	砂粒(白多・銀多・透・赤)	やや軟質	10YR4/2(灰黄褐)	古墳時代前期末葉～中期前葉		
	23		古墳周溝 覆土中層	普通円筒埴 輪	—	—	(8.4)	外面は縦位のナデ調整。円形透し。有黒斑。内面は横位のナデ調整。	—	砂粒(白多・銀多・透・赤)	やや軟質	7.5YR7/6(橙)～10YR3/1(黒褐) 7.5YR6/6(橙)	古墳時代前期末葉～中期前葉		
	24		古墳周溝 覆土中層	普通円筒埴 輪	—	—	(4.4)	外面は縦位の刷毛目、円形透し。内面はナデ調整。	—	砂粒(白多・銀多・透・赤)	やや軟質	7.5YR7/4(にぶい黄橙)	古墳時代前期末葉～中期前葉		
	25		古墳周溝 覆土中層	普通円筒埴 輪	(35.6)	—	(7.7)	外面は斜位の刷毛目及びナデ調整。口唇部は横位置のナデ調整で面取り。有黒斑。内面は横位・斜位のナデ調整。第115図26・27と同一個体	—	砂粒(白多・銀多・透)	普通	2.5Y7/4(浅黄)～2.5Y5/1(黄灰) 10YR7/4(にぶい黄橙)	古墳時代前期末葉～中期前葉		
	26		古墳周溝 覆土中層	普通円筒埴 輪	(30.5)	—	(7.7)	外面は斜位の刷毛目及びナデ調整。口唇部は横位置のナデ調整で面取り。有黒斑。内面は横位・斜位のナデ調整。第115図25・27と同一個体	—	砂粒(白多・銀多・透)	普通	2.5Y7/4(浅黄)～2.5Y5/1(黄灰) 10YR7/4(にぶい黄橙)	古墳時代前期末葉～中期前葉		
	27		古墳周溝 覆土中層	普通円筒埴 輪	—	—	(3.4)	外面は斜位の刷毛目及びナデ調整。口唇部は横位置のナデ調整で面取り。有黒斑。内面は横位・斜位のナデ調整。第115図25・26と同一個体	—	砂粒(白多・銀多・透)	普通	10YR7/4(にぶい黄橙)	古墳時代前期末葉～中期前葉		
28	古墳周溝 覆土中層	普通円筒埴 輪	—	—	(3.1)	外面は縦位及び斜位の刷毛目、円形透し。内面はナデ調整。	—	砂粒(白多・銀多・透)	普通	10YR6/4(にぶい黄橙) 5YR4/8(赤褐)	古墳時代前期末葉～中期前葉				

図版	番号	遺跡名 (地点名・ 次数)	出土位置	種別・器形			法量 (cm)			観察所見	残存率 (%)	胎土	焼成	色調 (外面・内面)	生産地・ 年代等
				細別	口径	底径	器高								
115	29	文京1丁目遺跡 (第1地点区画 No.2)	古墳周溝 覆土中層	普通円筒埴 輪	—	—	(5.2)	外面は縦位の刷 毛目、内面は横 位・斜位の刷毛目 及びナデ調整	—	砂粒 (白 多・銀多・ 透多)	やや 軟質	10YR5/4 (にぶ い黄褐)~5Y3/1(オ リーブ黒) 7.5YR5/6 (明赤褐)	古墳時代前 期末葉~中 期前葉		
	30		古墳周溝 覆土中層	普通円筒埴 輪	—	—	(11.0)	外面は縦位の刷 毛目及びナデ調 整、内面は横位の 刷毛目・ナデ調整	—	砂粒 (白 多・銀多・ 透多・赤)	普通	7.5YR6/6 (明褐)・ 10YR7/6 (明黄褐) ~7.5Y2/1 (黒) 7.5YR6/6 (明褐)・ 10YR6/4 (にぶ い黄橙)~10YR5/1(褐灰)	古墳時代前 期末葉~中 期前葉		
116	31		古墳周溝 覆土中層	普通円筒埴 輪	—	—	(2.6)	外面は凸帯を貼 り付け、凸帯上及 び直下は横位の ナデ調整。内面は 器面剥落が著し いがナデ調整	—	砂粒 (白 多・金多・ 透多)	普通	10YR6/3 (に ぶい黄橙) 10YR5/3 (に ぶい黄橙)	古墳時代前 期末葉~中 期前葉		
	32		古墳周溝 覆土中層	普通円筒埴 輪	—	—	(3.7)	外面は凸帯を貼 り付け、凸帯上は 横位のナデ調整。 内面は斜位のナ デ調整	—	砂粒 (白 多・銀多・ 透多)・ チャート 礫	硬質	7.5YR6/6 (橙) 7.5YR5/4 (にぶ い橙)	古墳時代前 期末葉~中 期前葉		
	33		古墳周溝 覆土中層	普通円筒埴 輪	—	—	(5.3)	外面は縦位の刷 毛目、有黒斑。内 面は横位・斜位の 刷毛目及びナデ 調整	—	砂粒 (白 多・銀多・ 透多・赤)	やや 軟質	7.5YR7/4 (にぶ い橙) 7.5YR6/4 (にぶ い橙)	古墳時代前 期末葉~中 期前葉		
	34		古墳周溝 覆土中層	普通円筒埴 輪	—	—	(4.8)	外面は縦位の刷 毛目、内面は横位 ・斜位のナデ調 整。内面には輪 積み痕が顕著に 残存。第114図 12・13・第 115図14・19・ 第116図35と同一 個体	—	砂粒 (白 多・銀多・ 透・赤)	硬質	5YR5/4 (にぶ い赤褐)	古墳時代前 期末葉~中 期前葉		
	35		古墳周溝 覆土中層	普通円筒埴 輪	—	—	(3.3)	外面は縦位の刷 毛目、内面は横位 ・斜位のナデ調 整。有黒斑。内 面には輪積み痕 が顕著に残存。 第114図12・ 13・第115図14 ・19・第116図34 と同一個体	—	砂粒 (白 多・銀多・ 透・赤)	硬質	5YR4/1(褐灰) 5YR4/4 (にぶ い赤褐)	古墳時代前 期末葉~中 期前葉		
	36		古墳周溝 覆土中層	普通円筒埴 輪	—	—	(7.8)	外面はナデ調整。 有黒斑。内面は 横位・斜位のナ デ調整	—	砂粒 (白 多・銀・ 透・赤)	やや 軟質	7.5YR6/6 (橙)~ 7.5YR5/1 (褐灰) 7.5YR6/6 (橙)	古墳時代前 期末葉~中 期前葉		
	37		古墳周溝 覆土中層	普通円筒埴 輪	—	—	(10.1)	外面は縦位の刷 毛目、有黒斑。内 面は横位のナデ 調整	—	砂粒 (白 多・銀多・ 透・赤)	やや 軟質	10YR7/4 (にぶ い橙)~10YR2/1(黒) 7.5YR7/6 (橙)	古墳時代前 期末葉~中 期前葉		
	38		古墳周溝 覆土中層	普通円筒埴 輪	—	—	(4.9)	外面は縦位の刷 毛目、有黒斑。内 面は横位のナデ 調整。第115図 16・17と同一 個体	—	砂粒 (白 多・銀多・ 透・赤)	やや 軟質	7.5YR2/1(黒褐) 10YR7/4 (にぶ い黄橙)	古墳時代前 期末葉~中 期前葉		
	39		古墳周溝 覆土中層	普通円筒埴 輪	—	—	(3.7)	外面はナデ調整。 有黒斑。内面は 横位の刷毛目	—	砂粒 (白 多・銀多・ 透・赤)	やや 軟質	2.5Y6/3 (にぶ い黄) 10YR6/4 (にぶ い黄橙)	古墳時代前 期末葉~中 期前葉		
	40		古墳周溝 覆土中層	普通円筒埴 輪	—	—	(14.0)	外面は縦位の刷 毛目、有黒斑。内 面は横位のナデ 調整。第116図 41・44~ 46と同一個体カ	—	砂粒 (白 多・銀多・ 透・赤)	やや 軟質	7.5YR6/6 (橙)~ 7.5YR5/1 (褐灰) 7.5YR5/6 (明褐) ~7.5YR4/1(褐灰)	古墳時代前 期末葉~中 期前葉		
	41		古墳周溝 覆土中層	普通円筒埴 輪	—	—	(14.2)	外面は縦位の刷 毛目及びナデ調 整。有黒斑。内 面は横位の刷 毛目・ナデ調整。 第116図40・44 ~46と同一個体カ	—	砂粒 (白 多・銀多・ 透・赤)	やや 軟質	7.5YR5/1 (褐灰) 7.5YR6/4 (にぶ い橙)	古墳時代前 期末葉~中 期前葉		
42	古墳周溝 覆土中層	普通円筒埴 輪	—	—	(7.3)	外面は縦位の刷 毛目及びナデ調 整、内面は斜位 のナデ調整	—	砂粒 (白 多・銀多・ 透・赤)	普通	7.5YR8/4(浅黄橙) 7.5YR7/4(にぶ い橙)	古墳時代前 期末葉~中 期前葉				
43	古墳周溝 覆土中層	普通円筒埴 輪	—	—	(2.1)	外面は縦位の刷 毛目及びナデ調 整、内面は斜位 のナデ調整	—	砂粒 (白 多・銀多・ 透・赤)	やや 軟質	10YR3/1 (黒褐) 10YR4/1 (褐灰)	古墳時代前 期末葉~中 期前葉				

図版	番号	遺跡名 (地点名・ 次数)	出土位置	種別・器形	法量 (cm)			観察所見	残存率 (%)	胎土	焼成	色調 (外面・内面)	生産地・ 年代等
					細別	口径	底径						
116	44	文京1丁目遺跡 (第1地点区画 No.2)	古墳周溝 覆土中層	普通円筒埴 輪	—	—	(12.4)	外面はナデ調整、有 黒斑。内面は横位・ 斜位のナデ調整。第 116 図 40・41・ 45・46 と同一個体カ	—	砂粒 (白 多・銀多・ 透・赤)	やや 軟質	7.5YR2/1 (黒) 7.5YR5/2 (褐灰)	古墳時代前 期末葉～中 期前葉
	45		古墳周溝 覆土中層	普通円筒埴 輪	—	(14.3)	(5.0)	外面はナデ調整、有 黒斑。内面は斜位 の刷毛目。接地面 はヘラケズリ調整。 第 116 図 40・41・ 44・46 と同一個体カ	—	砂粒 (白 多・銀多・ 透・赤)	やや 軟質	7.5YR6/4 (にぶ い黄橙)～7.5YR2/1 (黒 褐) 7.5YR6/6 (橙)～ 7.5YR5/2 (褐灰)	古墳時代前 期末葉～中 期前葉
	46		古墳周溝 覆土中層	普通円筒埴 輪	—	(12.8)	(5.4)	外面は縦位置の刷毛 目及びナデ調整、有 黒斑。内面は横位 の刷毛目。接地面 はヘラケズリ調整。 第 116 図 40・41・ 44・45 と同一個体カ	—	砂粒 (白 多・銀多・ 透・赤)	やや 軟質	7.5YR4/1 (褐灰) ～7.5YR2/2 (黒褐) 7.5YR6/6 (橙)～ 7.5YR5/2 (褐灰)	古墳時代前 期末葉～中 期前葉
	47		古墳周溝 覆土中層	普通円筒埴 輪	—	—	(3.3)	外面は縦位の刷毛目、 内面は横位・斜位の刷 毛目。有黒斑。内面 には輪積み痕が顕著に 残存。第 114 図 12・ 13・第 115 図 14・ 19・第 116 図 34・35 と同一個体	—	砂粒 (白 多・透・ 赤)	硬質	5YR4/1 (褐灰) 5YR4/4 (にぶ い赤褐)	古墳時代前 期末葉～中 期前葉
120	1	谷田遺跡 (第1地点)	トレンチ 2	土師器・椀	(10.6)	(6.0)	5.7	内外面ともにナ デ調整、外面の 一部に弱いヘラ ケズリ調整	20	砂粒 (白 多・透多)	良好	5YR6/6 (橙)	古墳時代 中期中葉
	2		トレンチ 2	土師器・甕	—	(8.8)	(3.7)	外面は斜位のヘ ラケズリ調整	20	砂粒 (白 多・透多)・ 赤色粒	良好	10YR7/4 (に ぶい黄橙)～ 10YR2/1 (黒)	古墳時代中 期中葉～
123	1	茨城高等 学校遺跡 (第1地点第4次)	トレンチ 2	須恵器・盤	—	—	(2.0)	高台部は剥落。 底裏に「厨カ大 □」の墨書	—	骨針・砂 粒 (白多・ 黒多・透)	堅緻	2.5Y5/2 (暗灰 黄)	木葉下窯跡群 9 世紀代
	2		トレンチ 3	磁器・大碗	(15.5)	—	(6.4)	轆轤成形/白泥塗布の上 に架付、肩付無輪/内面 見込文様あり/外面高台 脇一重圓線、高台二重圓 線、高台内一重圓線	—	—	—	—	在地産か 19 世紀～
	3		トレンチ 3	磁器・皿・ 三角高台皿	—	(8.8)	(1.7)	轆轤成形/上絵付 (朱・ 黒)/外面口縁部一重圓 線、龍文、高台脇二重圓 線、内面口縁部雷文	—	—	—	—	産地不明 近現代
	4		トレンチ 3	土製品・人形 (海老)	(6.6)	(3.5)	厚さ (1.3) 重量 (23g)	型押成形/胴部鉄錆付 着、内面中央部に針金痕 1箇所、全面に白泥塗布 (禿げ著しい)/土師質	80	砂粒 (白・ 銀多)	良好	2.5Y5/1 (黄灰) 2.5Y5/2 (暗灰 黄)	産地不明 近現代
	5		トレンチ 3	土製品・人形 (海老)	(7.5)	(2.5)	厚さ (1.0) 重量 (16g)	型押成形/胴部鉄錆付 着、内面中央部に針金痕 1箇所、全面に白泥塗布 (禿げ著しい)/土師質	98	砂粒 (白・ 銀多)	良好	10YR5/3 (にぶ い黄褐)	産地不明 近現代
	6		トレンチ 3	土製品・人形 (海老)	(7.5)	(2.7)	厚さ (1.0) 重量 (18g)	型押成形/胴部鉄錆付 着、内面中央部に針金痕 1箇所、全面に白泥塗布 (禿げ著しい)/土師質	98	砂粒 (白・ 銀多)	良好	10YR6/3 (にぶ い黄橙)～2.5Y4/1 (黄灰)	産地不明 近現代
	7		トレンチ 3	ガラス製品・ 牛乳瓶	3.7	5.2	14.2	型吹き成形 (割り型)/ 無色透明/胴部に集中し て 1mm 以下の気泡を多 く含む。外面底部脇に陽 刻「丸に正」「180 ml」、 底部に陽刻「4」「☆」「11」	100	—	—	—	—
128	1	釜久保遺跡 (第5地点)	トレンチ 1	弥生土器・ 壺	—	(7.8)	(1.2)	底部に目の細かい布 目圧痕、外面には附 加条縄文が回転施紋	—	砂粒 (白・ 銀・透)	良好	10YR7/3 (にぶ い黄橙)～10YR6/1 (褐色灰) 10YR7/4 (にぶ い黄橙)	後期 (十王 台式)
	2		トレンチ 1	土師器・壺	—	—	(2.4)	胴部外面には斜位 の、頸部には横位の 刷毛目。胴部内面 には斜位の刷毛目	—	砂粒 (白・ 透)	良好	10YR7/4 (にぶ い黄橙) 7.5YR7/6 (橙)	古墳時代 前期

図版	番号	遺跡名 (地点名・ 次数)	出土位置	種別・器形			法量 (cm)			観察所見	残存率 (%)	胎土	焼成	色調 (外面・内面)	生産地・ 年代等
				細別	口径	底径	器高								
128	3	釜久保遺跡 (第5地点)	トレンチ1	土師器・壺	—	—	(2.3)	外面には横位に隆帯を貼り付け、上へ工具で連続的に推圧し、刻み目文	—	砂粒(白・透)	良好	10YR8/4 (浅黄橙)	古墳時代前期		
131	1	下畑遺跡 (第3地点)	トレンチ4	縄文土器・深鉢	—	—	(6.5)	内外面ともに貝殻条痕文、外面は部分的にケズリ及びミガキ調整	—	砂粒(白多・透多・銀多・赤)	良好	7.5YR5/6 (明褐)	早期終末期		
	2		トレンチ1	縄文土器・深鉢	—	—	(3.8)	隆帯を円形状に貼り付け、その周囲にキャタピラ文を施紋	—	砂粒(白多・金多・赤)	良好	2.5Y4/1 (黄灰) 2.5Y6/3 (にぶい黄)	加曾利 E1 式		
	3		トレンチ1	縄文土器・深鉢	—	—	(3.3)	口縁部に隆帯を貼り付け無文帯とし、直下に幅広い横位の沈線を描き、単節RL縄文を回転施紋	—	砂粒(白多・透多)	良好	2.5Y5/3 (黄褐) 10YR6/3 (にぶい黄橙)	加曾利 E2 式		
	4		トレンチ2	縄文土器・深鉢	—	—	(10.2)	地文に単節LR縄文を回転施紋後、3条単位の縦位の沈線文を描く	—	砂粒(白・透)	良好	2.5Y5/2 (暗灰黄) 10YR6/4 (にぶい黄橙)	加曾利 E1 式		
	5		トレンチ3	縄文土器・深鉢	—	—	(3.6)	口縁部直下は無文帯、その直下に単節RL縄文を回転施紋後、2条の横位の沈線で磨り消し、区画を作出	—	砂粒(白・透)	良好	2.5Y4/1 (黄灰) 2.5Y5/2 (暗灰黄)	加曾利 E2 式 もしくは加曾利 E3 式		
	6		トレンチ3	縄文土器・深鉢	—	—	(3.3)	口唇部直下に地文の単節RL縄文を回転施紋後、横位の隆帯を貼り付け	—	砂粒(白・透・銀)	良好	10YR6/4 (にぶい黄橙) 10YR6/3 (にぶい黄橙)	加曾利 E2 式		
	7		トレンチ2	縄文土器・深鉢	—	—	(7.3)	地文の単節RL縄文を回転施紋後、隆帯を貼り付け、横位・斜位の沈線で磨り消し、渦巻文と楕円枠状文を描く	—	砂粒(白・透・銀)	良好	10YR5/2 (暗灰黄) 2.5Y6/2 (灰黄)	加曾利 E2 式 もしくは加曾利 E3 式		
	8		トレンチ3	縄文土器・深鉢	—	—	(5.6)	地文の単節RL縄文を回転施紋した後、横位及び連続する弧線状の沈線で磨り消し	—	砂粒(白・透)	良好	10YR6/4 (にぶい黄橙)	加曾利 E2 式		
	9		トレンチ3	縄文土器・深鉢	(22.8)	—	(13.2)	地文に単節LR縄文を回転施紋	—	砂粒(白多・透・銀多)	良好	7.5YR5/6 (明褐)	加曾利 E4 式		
	10		トレンチ1	縄文土器・深鉢	—	(6.6)	(2.1)	縦位に垂下する5条の沈線文	—	砂粒(白・透・銀)	良好	10YR5/4 (にぶい黄褐) 2.5Y4/2 (暗灰黄)	加曾利 E3 式		
	11		トレンチ2	縄文土器・深鉢	—	(11.8)	(3.0)	縦位に垂下する2条の沈線文	—	砂粒(白多・透多・金)	良好	10YR6/3 (にぶい黄橙)	加曾利 E3 式		
	12		トレンチ4	縄文土器・深鉢	—	—	(2.2)	口唇部直下に隆帯を貼り付け緩やかな稜線を作出	—	砂粒(白・透・赤)	良好	2.5Y5/2 (暗灰黄) 2.5Y5/3 (黄褐)	加曾利 E4 式		
	13		トレンチ2	縄文土器・深鉢	—	—	(2.2)	口唇部直下に貼り付けた隆帯が剥落	—	砂粒(白・赤)	良好	7.5YR6/6 (橙)	加曾利 E4 式		
	14		トレンチ4	縄文土器・深鉢	—	—	(4.9)	口唇部直下に地文の単節RL縄文を回転施紋	—	砂粒(白・透)	良好	10YR6/4 (にぶい黄橙)	加曾利 E4 式		
	15		トレンチ4	縄文土器・深鉢	—	—	(5.0)	口唇部直下に地文の単節RL縄文を回転施紋	—	砂粒(白・透)	良好	7.5YR5/4 (にぶい褐)	加曾利 E4 式		
	16		トレンチ1	縄文土器・深鉢	—	—	(3.1)	口唇部直下に地文の単節LR縄文を回転施紋後、隆帯を貼り付け周囲にナデ調整を施し、円形の枠縄文を作出	—	砂粒(透・黒)	良好	10YR4/2 (灰黄褐) 10YR5/4 (にぶい黄褐)	加曾利 E3 式 もしくは加曾利 E4 式		
	17		トレンチ1	縄文土器・粗製深鉢	—	—	(5.4)	波状口縁の突起部、地文の単節LR縄文を回転施紋後、口縁部直下に横位の沈線を描き、突起部直前で小さい円孔を穿ち沈線を終結	—	砂粒(透)	良好	10YR5/3 (にぶい黄褐)	堀之内 1 式		
	18		トレンチ2	縄文土器・粗製深鉢	—	—	(2.9)	外面に櫛歯状工具による条線	—	砂粒(白・黒・赤)	良好	10YR5/3 (にぶい黄褐) 10YR8/3 (浅黄橙)	堀之内 1 式		

図版	番号	遺跡名 (地点名・ 次数)	出土位置	種別・器形 細別	法量 (cm)			観察所見	残存率 (%)	胎土	焼成	色調 (外面・内面)	生産地・ 年代等
					口径	底径	器高						
131	19	下畑遺跡 (第3地点)	トレンチ2	縄文土器・ 粗製深鉢	—	—	(4.0)	外面に櫛歯状工具 による条線	—	砂粒(白・ 透・赤)	良好	7.5YR4/3(褐) 5YR5/6(明赤褐)	堀之内1式
	20		トレンチ2	縄文土器・ 精製深鉢	—	—	(3.0)	口縁部直下に隆帯 を貼り付け、上から 半裁竹管状工具で 連続刺突文を描く	—	砂粒(白・ 銀・赤)	良好	7.5YR5/6(明赤褐) 10YR6/3(にぶい 黄橙)	堀之内2式
	21		トレンチ3	縄文土器・ 精製深鉢	—	—	(3.0)	口縁部直下に隆帯 を貼り付け、上から 半裁竹管状工具で 連続刺突文を描く	—	砂粒(白・ 透・銀)	良好	7.5YR5/4(にぶい 褐)	加曾利B1式
	22		トレンチ3	縄文土器・ 粗製鉢	—	—	(8.5)	口縁部から頸部は 無文帯、胴部には単 節LR縄文を回転施 紋。内面は丁寧なミ ガキ調整	—	砂粒(白・ 透・銀・ 赤)	良好	2.5Y5/2(暗灰黄)	晩期終末期
134	1	新地遺跡 (第2地点)	トレンチ1	土器・土鍋・ 土師質	(31.2)	—	(4.8)	轆轤成形/内外面横位の ナデ調整、外面保付着	—	砂粒(白・ 金・透)	良好	10YR3/2(黒褐) 7.5YR5/6(明褐)	中世～近世
139	1	下本郷遺跡 (第5地点)	表面採集	縄文土器・ 深鉢	—	—	(2.5)	地文に単節LR縄文 を回転施紋	—	砂粒(白 多)	良好	7.5YR4/3(褐) 5Y3/1(オリープ黒)	加曾利E式
	2		表面採集	縄文土器・ 深鉢	—	—	(4.0)	地文に単節RL縄文 を回転施紋後、隆帯 を貼り付け、沈線に より磨り消し	—	砂粒(白 多・銀・ 透)	良好	10YR6/4(にぶい 黄橙) 10YR6/2(灰黄 褐)	加曾利E2式
	3		トレンチ3	縄文土器・ 深鉢	—	—	(5.4)	外面に縦位の条線 文	—	砂粒(白 多・銀・ 透)	良好	10YR4/2(灰黄 褐)	中期後葉 連弧文系
	4		トレンチ3	円筒埴輪	—	—	(2.6)	外面は器面が剥落、 内面は斜位のナデ 調整	—	砂粒(白 多・金多・ 赤)	やや 軟質	7.5YR5/4(浅黄橙) 7.5YR6/4(にぶい 橙)	筑波山周辺も しくは元太田 山埴輪窯カ 6世紀前半カ
143	1	水戸城跡 (第7地点第25次)	大形円形土坑	陶器・不明 (仏飯具カ)	(6.6)	—	(3.3)	轆轤成形/灰釉/ 内面腰部以下無釉、 底部(脚部カ)欠損、 内外面貫入あり	—	—	—	—	産地不明 18世紀後半～
	2		大形円形土坑	磁器・碗・ 半球碗	(9.6)	(3.2)	(4.4)	轆轤成形/染付/ 透明釉、豊付無釉/ 外面花卉文	30	—	—	—	肥前産 1700年代～ 1860年代
	3		大形円形土坑	磁器・碗・ 小丸碗	(9.3)	—	(5.4)	轆轤成形/染付/ 透明釉/外面口縁 部帯線に一重圏線、 体部瓔珞文、高台脇 二重圏線、内面口縁 部帯線に瓔珞文、見 込み二重圏線	—	—	—	—	肥前産 1760年代～ 1810年代
	4		大形円形土坑	磁器・折縁 筒型碗	(9.8)	(4.7)	(7.4)	轆轤成形/染付/ 透明釉、豊付無釉/ 外面花線・本・波文、 高台脇一重圏線、高 台二重圏線、折縁 上面に四方禰文(輪 花)、見込み二重圏 線、見込み中央に五 弁花文	40	—	—	—	肥前産 17世紀～ 18世紀前半
	5		大形円形土坑	陶器・水鉢 (植木鉢転 用)	—	—	(4.9)	紐作り成形/灰釉・ 鉄釉/外面流水文、 水飛沫部分を刺突 /第114図6・7・ 8と同一個体	—	—	—	—	瀬戸・美濃産 18世紀後半 ～
	6		大形円形土坑	陶器・水鉢 (植木鉢転 用)	—	—	(7.3)	紐作り成形/灰釉・ 鉄釉/削出高台/ 外面流水文、水飛沫 部分を刺突、内面目 痕2箇所、焼成後穿 孔/第143図5・8・ 9と同一個体	—	—	—	—	瀬戸・美濃産 18世紀後半 ～
	7		大形円形土坑	陶器・水鉢 (植木鉢転 用)	—	高台径 (19.0)	(8.9)	紐作り成形/灰釉・ 鉄釉/外面流水文、 水飛沫部分を刺突 /第114図5・7・ 8と同一個体	—	—	—	—	瀬戸・美濃産 18世紀後半 ～
	8		大形円形土坑	陶器・水鉢 (植木鉢転 用)	—	—	(9.6)	紐作り成形/灰釉・ 鉄釉/外面流水文、 水飛沫部分を刺突 /第114図5・6・ 7と同一個体	—	—	—	—	瀬戸・美濃産 18世紀後半 ～

図版	番号	遺跡名 (地点名・ 次数)	出土位置	種別・器形 細別	法量 (cm)			観察所見	残存率 (%)	胎土	焼成	色調 (外面・内面)	生産地・ 年代等
					口径	底径	器高						
143	9	水戸城跡 (第7地点第25次)	大形円形土坑	土器・火鉢・ 土師質	(22.0)	—	(6.0)	轆轤成形／外 面ミガキ, 内 面煤付着	—	砂粒(白・ 透)	良好	10YR6/2 (灰黄 褐) 10YR3/1 (黒褐)	在地産か 近世以降
	10			土器・火鉢・ 土師質	—	(24.0)	(6.9)	轆轤成形／外 面ミガキ, 内 面煤付着	—	砂粒(白 多・透)	良好	7.5Y4/1 (灰)	在地産か 近世以降
144	11		大形円形土坑	瓦・平瓦	最大幅 (15.5)	最大長 (19.5)	厚さ (1.95)	板作り・型当 て成形	—	砂粒(白・ 透)	良好	凸面:2.5Y4/1 (黄灰) ~2.5Y7/3 (浅黄) 凹面:7.5Y3/1 (オリ ーフ黒)~5YR6/6 (橙) ~10YR7/6 (明黄褐)	在地産 17~18世紀カ
	12			瓦・平瓦	最大幅 (14.0)	最大長 (10.7)	厚さ (1.65)	板作り・型当て成 形/穿孔1箇所	—	砂粒(白・ 透)	良好	凸面:N4/O(灰) 凹面:N5/O(灰)	在地産 17~18世紀カ
	13			瓦・平瓦	最大幅 (16.6)	最大長 (15.0)	厚さ (1.7)	板作り・型当 て成形/被熱	—	砂粒(白・ 透)	良好	凸面:2.5Y4/1 (黄色 灰)~2.5Y7/3 (浅黄) 凹面:7.5Y3/1 (オリ ーフ黒)~5YR6/6 (橙)	在地産 17~18世紀カ
	14			瓦・軒丸瓦	瓦当径 (18.0)	最大長 (8.8)	厚さ (3.5)	板作り・型巻 成形/内面布 目痕, 軒丸部 欠損	—	砂粒(白・ 透)	良好	凸面:10Y8/1 (灰 白)~10Y5/1 (灰) 凹面:10Y7/1 (灰 白)~10Y5/1 (灰)	在地産 17~18世紀カ
146	1	杵掛遺跡 (第4地点第2次)	表土	縄文土器・ 深鉢	—	—	(3.1)	単節LR縄文が 縦位と横位に 分かれて回転 施紋	—	砂粒(白・ 透)	普通	2.5Y6/3 (にぶい黄 褐)~2.5Y5/2 (オ リーフ灰) 2.5Y6/3 (にぶい黄)	加曾利E式
	2		遺構確認面	縄文土器・ 深鉢	—	—	(2.7)	単節RL縄文が 回転施紋	—	砂粒(白・ 透)	普通	10YR6/4 (にぶい 黄橙)~2.5Y4/1 (黄灰) 10YR3/1 (黒褐)	後期以降
	3		表土	土師器・甕	—	—	(4.7)	外面に刷毛目	—	砂粒(白・ 透)	普通	2.5Y5/3 (黄褐) 2.5Y7/3 (浅黄)	古墳時代 前期
	4		表土	土師器・甕	—	—	(5.1)	外面に刷毛目	—	砂粒(白・ 透)	普通	10YR7/6 (明黄 褐) 2.5Y7/3 (浅黄)	古墳時代 前期
	5		表土	土師器・甕	—	(4.4)	(1.0)	底面はナデ	—	砂粒(白・ 透)	普通	2.5Y6/3 (にぶ い黄) 2.5Y7/4 (浅黄)	古墳時代 前期カ
	6		P05	土師器・甕 /壺	(24.8)	—	(4.0)	外面はナデ, 内面は横位の 刷毛目	—	砂粒(白 多・透多)	良好	7.5YR7/6 (橙) 7.5YR7/6 (橙) ~7.5YR6/8(黄 橙)	古墳時代 前期
	7		SK03	土器・皿・ 土師質	—	(9.0)	(1.1)	底面は回転糸 切り	—	砂粒(赤 多・透)	良好	10YR7/4 (にぶ い黄橙)	近世
151	1	一戦塚遺跡 (第1地点第2次)	SI01	土師器・有 段口縁壺	(19.6)	稜部径 (12.0)	(6.0)	有段口縁部外面に 刷毛目, 稜部には細 かい刻みが連続。内 外面の一部に赤彩	—	砂粒(白・ 透)	良好	10YR6/3 (にぶ い黄橙) 5YR4/6 (赤褐)	古墳時代前期 後半~末葉
	2		SI01	土師器・有 段口縁壺	(18.0)	—	(16.5)	外面は板状工 具によるナデ 調整	30	砂粒(白・ 透・黒)	良好	10YR6/4 (にぶ い黄橙) 10YR6/3 (にぶ い黄橙)~10YR3/1 (黒)	古墳時代前期 後半~末葉
	3		SI01	土師器・甕	(19.0)	—	(19.5)	外面は口縁部に 刷毛目, 胴部 には刷毛目及びナ デ調整	20	砂粒(白・ 透・赤)	良好	7.5YR4/4 (褐) 7.5YR4/4 (褐)~ 7.5YR1/2 (黒)	古墳時代前期 後半~末葉
	4		SI01	土師器・甕	(18.8)	—	(5.3)	口縁部外面は指 ナデ痕, 内面は刷 毛目。胴部外面は刷 毛目	—	砂粒(白・ 透・赤)	良好	10YR4/4 (褐)~ 10YR4/6 (褐) 10YR6/4 (にぶ い黄橙)~10YR4/1 (褐灰)	古墳時代前期 後半~末葉
	5		SI01	土師器・甕	—	(8.4)	(9.6)	胴部外面は刷 毛目及び板状工 具によるナデ調 整, 底部はナデ 調整	15	砂粒(白 多・透・ 銀多・赤)	良好	5YR5/6 (明赤褐) 7.5YR7/6 (橙)	古墳時代前期 後半~末葉
	6		SI01	土師器・甕	(17.0)	—	(4.1)	口唇部に三角 状の刻み目, 内外 面はナデ調整	—	砂粒(白・ 透)	良好	7.5YR3/3 (暗褐) 7.5YR5/4 (にぶ い褐)	古墳時代前期 後半~末葉
	7		SI01	土師器・甕	(17.0)	—	(4.1)	口唇部に三角 状の刻み目, 胴部は刷毛目	—	砂粒(白 多)	良好	10YR6/4 (にぶ い黄橙) 10YR7/4 (にぶ い褐)	古墳時代前期 後半~末葉
	8		SI01	土師器・甕	(17.0)	—	(15.3)	口縁は平縁, 胴部は 刷毛目及びミガ キ調整。内面はナ デ調整	40	砂粒(白・ 透)	良好	2.5Y4/1 (黄灰) ~2.5Y3/1 (黒褐) 7.5Y4/3 (褐)~ 7.5YR4/4 (褐)	古墳時代前期 後半~末葉

図版	番号	遺跡名 (地点名・ 次数)	出土位置	種別・器形 細別	法量 (cm)			観察所見	残存率 (%)	胎土	焼成	色調 (外面・内面)	生産地・ 年代等
					口径	底径	器高						
151	9	一戦塚遺跡 (第1地点第2次)	SI01	土師器・甕	(17.5)	—	(16.4)	口縁は平縁、胴部は刷毛目及びミガキ調整。内面はナデ調整	40	砂粒(白・透)	良好	7.5YR3/1(黒褐)~7.5YR4/2(褐灰)2.5YR4/4(にぶい赤褐)	古墳時代前期後半~末葉
	10		SI01	土師器・甕	(13.0)	5.2	(13.9)	外面は刷毛目、胴部内面・底部はナデ調整	60	砂粒(白・透・赤)	良好	10YR7/4(にぶい黄橙)~10YR2/2(黒褐)10YR5/4(にぶい黄褐)	古墳時代前期後半~末葉
152	11		SI01	土師器・甕	—	(7.0)	(1.7)	底部に木葉痕	—	砂粒(白・透・銀・赤)	良好	5YR5/3(明赤褐)5YR6/6(橙)	古墳時代前期後半~末葉
	12		SI01	土師器・甕	—	(8.0)	(1.8)	外面は板状工具によるナデ調整、内面は刷毛目、底部はナデ調整	—	砂粒(白・透)	良好	10YR5/8(黄褐)~10YR4/3(にぶい黄橙)10YR2/1(黒)~10YR5/4(にぶい黄褐)	古墳時代前期後半~末葉
	13		SI01	土師器・甕	—	(20.0)	(4.0)	底部に木葉痕	—	砂粒(白・透)	良好	7.5YR6/4(にぶい橙)~7.5YR2/1(黒)5YR3/2(暗赤褐)	古墳時代前期後半~末葉
	14		SI01	土師器・甕	最大径 (11.9)	6.6	(7.5)	外面は板状工具によるナデ調整及びミガキ調整、内面はナデ調整	40	砂粒(白・透)	良好	10YR6/2(灰黄褐)10YR8/2(灰白)	古墳時代前期後半~末葉
	15		SI01	土師器・器台	7.2	10.4	7.2	外面は板状工具による縦位のナデ調整。受部は内外面ともに一部赤彩。柱部は外面の一部赤彩。内面はナデ調整	98	砂粒(白・透・銀・黒)	普通	7.5YR5/6(明褐)~7.5YR7/6(橙)10YR5/4(にぶい黄褐)~7.5YR5/8(明褐)	古墳時代前期後半~末葉
	16		SI01	土師器・器台	7.5	11.5	7.8	外面は板状工具によるナデ調整及びミガキ調整、内面はナデ調整	70	砂粒(白多・透)	良好	5YR5/6(明赤褐)5YR5/4(にぶい赤褐)	古墳時代前期後半~末葉
	17		SI01	土師器・器台	—	(12.0)	(8.3)	脚部の外面は縦位のミガキ調整、内面は横位の刷毛目	30	砂粒(白・透・銀・赤)	良好	10YR7/4(にぶい黄橙)10YR6/4(にぶい黄橙)	古墳時代前期後半~末葉
	18		SI01	土師器・坩	—	(2.3)	(4.5)	内外面ともにナデ調整、外面はミガキ調整後に赤彩	40	砂粒(白多・透)	良好	10YR1.7/1(黒)2.5YR3/4(暗赤褐)	古墳時代前期後半~末葉
	19		SI01	土師器・坩	—	(4.0)	(4.5)	内外面ともナデ調整	70	砂粒(白・透・銀・黒)	普通	10YR6/4(にぶい黄褐)10YR4/2(灰黄褐)	古墳時代前期後半~末葉
	20		SI01	土師器・坩	(8.1)	(4.4)	(5.8)	内外面ともナデ調整	55	砂粒(白・透・銀)	普通	2.5Y6/3(にぶい黄)~2.5Y5/1(暗灰黄)5Y3/1(オリーブ黒)~2.5Y5/3(黄褐)	古墳時代前期後半~末葉
	21		SI01	土師器・手捏ね土器	(5.6)	(4.3)	(4.7)	内外面ともナデ調整	60	砂粒(白・透・赤)	普通	10YR7/4(にぶい黄橙)~10YR5/6(黄褐)~10YR2/2(黒褐)10YR7/4(にぶい黄橙)~10YR3/2(黒褐)	古墳時代前期後半~末葉
	22		SI01	土師器・手捏ね土器	5.0	4.8	3.1	内外面ともに指頭による押さえ及びナデ調整	100	砂粒(白多)	普通	10YR6/4(にぶい黄橙)~10YR3/1(黒褐)7.5YR6/6(橙)~7.5Y4/1(褐灰)	古墳時代前期後半~末葉
	23		SI01	土師器・手捏ね土器	4.0	1.4	3.0	内外面ともに指頭による押さえ及びナデ調整	100	砂粒(白多)	普通	10YR1.7/1(黒)~10YR5/6(黒)10YR3/2(黒褐)	古墳時代前期後半~末葉
	24		SI01	土師器・手捏ね土器	(3.6)	(2.0)	(3.2)	内外面ともに指頭による押さえ及びナデ調整	90	砂粒(白多)	普通	10YR6/3(にぶい黄橙)~10YR2/1(黒)10YR5/4(にぶい黄褐)	古墳時代前期後半~末葉
	25		SI01	土師器・手捏ね土器	(4.5)	(4.0)	(2.9)	内外面ともに指頭による押さえ及びナデ調整	90	砂粒(白・透)	普通	10YR5/4(にぶい黄褐)~10YR2/1(黒)10YR3/2(黒褐)	古墳時代前期後半~末葉
26		SI01	土師器・手捏ね土器	3.2	3.0	2.8	内外面ともに指頭による押さえ及びナデ調整	90	砂粒(白・透)	普通	5YR1/2(黒褐)~5YR5/2(灰褐)5YR4/1(褐灰)	古墳時代前期後半~末葉	
27		SI01	土師器・手捏ね土器	(3.8)	(2.6)	(3.0)	内外面ともに指頭による押さえ及びナデ調整	90	砂粒(白多)	普通	7.5YR3/1(黒褐)~5YR5/6(明赤褐)10YR3/1(黒褐)~7.5YR5/6(明褐)	古墳時代前期後半~末葉	



図版	番号	遺跡名 (地点名・ 次数)	出土位置	種別・器形			法量 (cm)			観察所見	残存率 (%)	胎土	焼成	色調 (外面・内面)	生産地・ 年代等
				細別	口径	底径	器高								
152	28	一戦塚遺跡 (第1地点第2次)	SI01	土師器・手 捏ね土器	(3.5)	(2.0)	(2.8)	内外面ともに指 頭による押さえ 及びナデ調整	80	砂粒(白 多)	普通	7.5YR4/6(褐) 7.5YR5/3(にぶ い黄褐)	古墳時代前期 後半～末葉		
	29		SI01	土師器・手 捏ね土器	(3.8)	(2.5)	(1.0)	内外面ともに指 頭による押さえ 及びナデ調整	90	砂粒(白・ 透)	普通	10YR4/1(褐灰) 10YR5/4(にぶ い黄褐)	古墳時代前期 後半～末葉		
	30		SI01	土師器・手 捏ね土器	(3.2)	(1.5)	(2.5)	内外面ともに指 頭による押さえ 及びナデ調整	90	砂粒(白・ 透)	普通	7.5YR6/6(橙) ～10YR4/1(褐灰) 7.5YR6/6(橙)	古墳時代前期 後半～末葉		
	31		SI01	土師器・手 捏ね土器	5.0	3.2	3.3	内外面ともに指 頭による押さえ 及びナデ調整	90	砂粒(白・ 透)	普通	10YR5/4(にぶ い黄褐)～10YR1.7/1(黒) 10YR5/4(にぶ い黄褐)～10YR2/3(黒褐)	古墳時代前期 後半～末葉		
	32		SI01	土師器・手 捏ね土器	(3.6)	(2.5)	(3.0)	内外面ともに指 頭による押さえ 及びナデ調整	90	砂粒(白・ 透)	普通	7.5YR6/6(橙) ～7.5YR2/1(黒) 7.5YR7/6(橙)	古墳時代前期 後半～末葉		
	33		SI01	土師器・手 捏ね土器	(3.6)	(2.8)	(3.1)	内外面ともに指 頭による押さえ 及びナデ調整	90	砂粒(白・ 透)	普通	7.5YR6/6(橙)	古墳時代前期 後半～末葉		
	34		SI01	土師器・手 捏ね土器	(2.9)	(1.5)	(2.2)	内外面ともに指 頭による押さえ 及びナデ調整	90	砂粒(白・ 透)	普通	10YR2/1(黒) 10YR4/1(褐灰)	古墳時代前期 後半～末葉		
	35		SI01	土師器・手 捏ね土器	2.9	2.0	3.3	内外面ともに指 頭による押さえ 及びナデ調整	90	砂粒(白・ 透)	普通	7.5YR2/1(黒) 7.5YR4/2(灰褐)	古墳時代前期 後半～末葉		
153	1		SD01	土師器・坏	(15.0)	—	(4.5)	口縁部は横位の ナデ及びミガキ 調整, 体部外面は 反時計回りの手 持ちヘラケズリ	45	砂粒(白・ 透・赤)	良好	10YR5/3(にぶ い黄褐)～10YR1/2(黒) 10YR1/2(黒) ～ 10YR5/3(にぶ い黄褐)	6世紀前葉 ～中葉		
	2		SD01	須恵器・無 台坏	—	(9.0)	(1.6)	内外面ともにロ ク口水挽整形	—	砂粒(白 多・透)	良好	5Y7/2(灰白) 5Y6/1(灰)	木葉下窯跡群 奈良・平安時代		
	3		SD01	須恵器・無 台坏	—	(8.0)	(1.3)	内外面ともにロ ク口水挽整形, 底部 は回転ヘラ切り	—	砂粒(白 多・透・ 赤)	良好	2.5Y8/4(淡黄) 2.5Y8/5(淡黄)	産地不明 奈良・平安時代		
	4		SD01	須恵器・有 台坏	—	(11.0)	(2.4)	内外面ともにロ ク口水挽整形	—	砂粒(白 多・透)	良好	5Y7/1(灰白)	木葉下窯跡群 奈良・平安時代		
	5		SD01	須恵器・坏 蓋	(14.0)	—	(2.0)	内外面ともにロ ク口水挽整形	—	砂粒(白 多・透)	良好	5Y7/1(灰白)	木葉下窯跡群 8世紀第3四半 期		
	6		SD01	須恵器・坏 蓋	(15.2)	—	(1.8)	内外面ともにロ ク口水挽整形	—	砂粒(白 多・透)	良好	5Y5/1(灰白) ～N4/0(灰) 7.5Y5/1(灰)	木葉下窯跡群 8世紀第3四半 期		
	7		SD01	須恵器・高 坏	最大径 (6.9)	—	(4.7)	内外面ともにロ ク口水挽整形, 長方形透しは4 箇所	—	砂粒(白 多・透)	堅緻	2.5Y5/1(黄灰)	木葉下窯跡群 8世紀第2四半 期以降		
	8		SD01	須恵器・甕	頸部径 (16.0)	—	(4.7)	内外面ともにロ ク口水挽整形, 第153図10と 同一個体	—	砂粒(白 多・透)	良好	10YR6/1(褐灰) 10YR6/1(褐色 灰)～10YR7/1 (灰白)	木葉下窯跡群 9世紀以降		
	9		SD01	須恵器・甕	頸部径 (16.0)	—	(4.7)	内外面ともにロ ク口水挽整形, 第153図8と 同一個体	—	砂粒(白 多・透)	良好	10YR6/1(褐灰) 10YR6/1(褐色 灰)～10YR7/1 (灰白)	木葉下窯跡群 9世紀以降		
	10		SD01	須恵器・甕	—	(18.0)	(6.0)	内外面ともにロ ク口水挽整形, 底部立ち上がり 付近はヘラケズ リ調整	—	砂粒(白・ 銀・透)	良好	5Y7/1(灰白) 5Y8/1(灰白)	産地不明 9世紀以降		
	11		SD01	須恵器・短 頸壺	最大径 (19.0)	高台径 (11.4)	(8.2)	内外面ともにロ ク口水挽整形	20	砂粒(白 多・透)	堅緻	7.5Y5/1(灰)	木葉下窯跡群 8世紀第2四 半期以降		
	12		SD01	須恵器・甕	最大径 (19.0)	—	(6.2)	内外面ともにロ ク口水挽整形, 外面は平行叩き	—	砂粒(白 多・透)・ 骨針	良好	5Y7/2(灰白) ～5Y4/1(灰) 5Y6/1(灰)～ 5Y7/1(灰白)	木葉下窯跡群 9世紀以降		
	13		SD01	須恵器・甕	—	—	(10.7)	外面は正格子 叩き, 内面は 同心円文叩き	—	砂粒(白・ 透・黒)	普通	5Y7/1(灰白) 5Y7/2(灰白)	山田窯跡群 7世紀第4 四半期		
154	14		SD01	須恵器・甕	—	—	(4.7)	外面は平行叩 き, 内面は当 て具痕無し	—	砂粒(白・ 透・黒)	堅緻	2.5Y7/2(灰黄)～ 2.5Y5/2(暗灰黄) 2.5Y7/2(灰黄)	産地不明 奈良・平安時代		

図版	番号	遺跡名 (地点名・ 次数)	出土位置	種別・器形			法量 (cm)			観察所見	残存率 (%)	胎土	焼成	色調 (外面・内面)	生産地・ 年代等
				細別	口径	底径	器高								
155	1	一戦塚遺跡 (第1地点第2次)	遺構外	縄文土器・ 深鉢	—	—	(2.7)	上部に連続刺突文と浅い爪形文を描き、下部に貝殻腹縁文を施す	—	砂粒(白多・透)	良好	10YR4/2(灰黄褐)	前期後葉 浮島式		
	2		遺構外	弥生土器・ 壺	—	—	(3.5)	外面には附加条縄文を回転施紋	—	砂粒(白多・黒透)・骨針	良好	10YR6/3(にぶい黄橙)~2.5Y4/1(黄灰) 10YR6/4(にぶい黄橙)~2.5Y4/1(灰)	後期 十王台式		
	3		遺構外	弥生土器・ 壺	—	(9.4)	(1.8)	外面には附加条縄文を回転施紋、底面には肌理の細かい布目圧痕	—	砂粒(白透・赤)	良好	10YR7/4(にぶい黄橙) 10YR8/3(浅黄橙)	後期 十王台式		
	4		遺構外	弥生土器・ 壺	—	—	(2.8)	外面には附加条縄文を回転施紋	—	砂粒(白多・透)・骨針	良好	10YR7/4(にぶい黄橙) 7.5YR6/6(橙)~10YR7/4(にぶい黄橙)	後期 十王台式		
	6		遺構外	土師器・ 柑	(10.9)	(5.0)	(10.9)	外面・内面ともにナデ調整、口縁部外面は一部ミガキ調整。胴部内部と底部外面以外は赤彩	98	砂粒(白透・黒)	良好	2.5Y3/1(黒褐)~10R4/6(赤) 10R4/6(赤)	古墳時代前期 後半~末葉		
	7		遺構外	土師器・ 高坏	—	—	(8.0)	外面は縦位のミガキ調整で赤彩	—	砂粒(白透・黒多)	良好	2.5YR4/4(にぶい赤褐)~7.5Y7R5/2(灰褐)	古墳時代前期 後半~末葉		
	8		遺構外	土師器・ 甕	—	(5.8)	(3.3)	外面はヘラミガキ調整、内面は刷毛目	—	砂粒(白透)	良好	10YR1.7/1(黒)~7.5YR5/6(明褐) 7.5YR7/6(橙)	古墳時代前期 後半~末葉		
	10		遺構外	土師器・ 坏	(14.0)	—	(4.6)	体部外面はヘラケズリ調整、内面はヘラミガキ調整。外面及び内面の腰部より上半は赤彩	—	砂粒(白透)	良好	5YR5/8(明赤褐)~5YR1.7/1(黒) 5YR6/8(橙)	6世紀前葉 ~中葉		
	11		遺構外	須恵器・ 無台坏	—	(8.0)	(3.4)	内外面ともにロクロ水挽整形、底部はヘラケズリ調整	—	砂粒(白多・透)	良好	5Y6/1(灰)	木葉下窯跡群 9世紀以降		
	158		1	台渡里官衙遺跡 (台渡里第69次)	SA01-P1 柱掘り方埋土	須恵器・ 坏蓋	(12.0)	—	(1.0)	内外面ともにロクロ水挽整形	—	砂粒(白多)	良好	10YR8/1(灰白) 10YR5/1(褐灰)	山田窯跡群 7世紀第4 四半期
			2		SA01-P1 柱掘り方上層	須恵器・ 坏蓋	(16.0)	—	(1.7)	内外面ともにロクロ水挽整形	—	砂粒(白銀・黒)	良好	10YR5/4(にぶい黄褐)	新治窯跡群 7世紀第4 四半期
3		SA01-P1 柱掘り方上層	須恵器・ 短脚坏盤		—	最大径 (13.0)	(4.4)	内外面ともにロクロ水挽整形	—	砂粒(透・黒)	良好	2.5Y8/1(灰白)	7世紀第4 四半期		
4		SA01-P1 柱掘り方埋土	須恵器・ 甕		—	—	(3.1)	内外面ともにロクロ水挽整形折り返し口縁上に櫛描き波状文	—	砂粒(白多)	堅緻	N4/0(灰)	7世紀第4 四半期カ		
5		SA01-P3a	須恵器・ 甕		—	—	(6.0)	外面は擬格子状叩き、内面は同心円文叩き	—	砂粒(白多・透・黒)	良好	7.5Y6/1(灰)	山田窯跡群 7世紀第4 四半期		
6		SA01-P2 柱掘り方埋土	土師器・ 甕		—	—	(3.0)	外面は粗い平行叩き	—	砂粒(白多・透多)	良好	2.5Y4/2(暗灰褐) 2.5Y6/2(灰黄)			
7		SA01-P5 柱掘り方埋土	須恵器・ 無台坏		(12.0)	(8.5)	(3.2)	内外面ともにロクロ水挽整形	—	砂粒(白多)	良好	5Y6/1(灰)	山田窯跡群 7世紀第4 四半期		
8		SE01 覆土	須恵器・ 甕		—	—	(4.2)	外面は擬格子状叩き、内面は同心円文叩き	—	砂粒(白多・透)	良好	10YR4/1(褐灰) 10YR6/2(灰黄褐)	山田窯跡群 7世紀第4 四半期		
9		SE01 覆土	須恵器・ 坏蓋		摘み径 (2.9)	—	(1.7)	内外面ともにロクロ水挽整形	—	砂粒(黒)	良好	2.5Y7/2(灰黄)	湖西窯跡群カ		
10		SE01 覆土	瓦・平瓦		全長 (7.8)	厚さ (1.8)	重量 120g	凸面正格子叩き、凹面は布目に梓板圧痕	—	砂粒(白多)	良好	7.5Y7/1(灰白)			
11		SE01 覆土	瓦・平瓦		全長 (7.8)	厚さ (1.9)	重量 92.8g	凸面正格子叩き、凹面は布目	—	砂粒(白多・透)	良好	7.5Y6/1(灰) N6/0(灰)			
12		SE01 覆土	瓦・平瓦		全長 (5.3)	厚さ (2.5)	重量 134.6g	凸面縄叩き、凹面は布目	—	砂粒(白多・透)・チャート礫	良好	10YR8/3(浅黄橙) 10YR8/4(浅黄橙)	木葉下窯跡群		

図版	番号	遺跡名 (地点名・ 次数)	出土位置	種別・器形			法量 (cm)			観察所見	残存率 (%)	胎土	焼成	色調 (外面・内面)	生産地・ 年代等
				細別	口径	底径	器高								
159	13	台渡里官衙遺跡 (台渡里第69次)	SE01 覆土	土器・カワ ラケ	—	(7.0)	(1.0)	轆轤成形 / 土 師質	—	砂粒(銀・ 赤)・骨 針	良好	5YR6/6 (橙)	在地産カ 近世以降		
	14		SE01 覆土	陶器・皿・ 折縁皿	(12.0)	(7.4)	(3.5)	轆轤成形 / 灰釉, 外 面・畳付・高台内無 釉 / 高台貼付, 貫入 あり, 外面折縁部煤 付着	—	—	—	—	瀬戸・美濃産 1600年代~ 1660年代		
	15		SE01 覆土	陶器・皿・ 灰釉稜皿	(16.0)	(10.3)	(2.9)	轆轤成形 / 灰釉, 畳 付・高台内無釉 / 削 出高台, 内外面貫入 あり	—	—	—	—	瀬戸・美濃産 17世紀中葉~ 18世紀前葉		
	16		SE01 覆土	陶器・蓋物	(12.4)	(12.4)	6.9	轆轤成形 / 外面鉄釉, 鉄釉を削り取り波状 の文様をあらわす, 口縁部釉拭取, 内面 無釉(一部釉垂あり), 底部無釉, 三足貼付, 重ね焼痕付着	50	—	—	—	在地産カ 近世以降		
	17		SE01 覆土	土器・土鍋・ 瓦質	(17.2)	(12.0)	(4.5)	轆轤成形 / 内外 面煤付着, 外面 体部剝離著しい	—	砂粒(銀・ 透)	良好	7.5Y3/1 (オ リーブ黒)	在地産カ 16世紀後葉以 降, 内耳土鍋 の可能性あり		
	18		SE01 覆土	土器・土鍋・ 土師質	(28.0)	—	(6.0)	轆轤成形 / 内 外面煤付着	—	砂粒(銀・ 透)	良好	2.5Y2/1 (黒) 2.5Y4/2 (暗灰 黄)	在地産カ 16世紀後葉以 降, 内耳土鍋 の可能性あり		
	19		SE01 覆土	土器・播鉢・ 瓦質	(32.0)	—	(6.3)	轆轤成形 / 内面 櫛目4本, 薄手。 23と同一個体カ	—	砂粒(白・ 黒・透)	良好	5Y5/1 (灰)	在地産カ 近世以降		
	20		SE01・13層	土器・土鍋・ 土師質	(36.0)	—	(5.8)	轆轤成形 / 内 外面煤付着	—	砂粒(銀・ 透)	良好	2.5Y3/1 (黒褐)	在地産カ 16世紀後葉以 降, 内耳土鍋 の可能性あり		
	21		SE01 覆土	土器・土鍋・ 瓦質	(40.0)	—	(7.3)	轆轤成形 / 内 外面煤付着	—	砂粒(銀・ 透)	良好	10YR2/1 (黒)~ 10YR7/4 (にぶい 黄橙) 10YR2/1 (黒)	在地産カ 16世紀後葉以 降, 内耳土鍋 の可能性あり		
	22		SE01 覆土	土器・風炉・ 土師質	(23.7)	(22.0)	18.3	轆轤成形	70	砂粒(白・ 銀・黒・ 赤)・骨 針	良好	10YR6/3 (にぶい 黄橙)~10YR2/1 (黒)	常滑産カ 中世~近世		
	23		SE01 覆土	土器・播鉢・ 瓦質	(29.0)	(11.9)	(11.6)	轆轤成形 / 内面 櫛目4本を放射 状に配置, 薄手。 19と同一個体カ	—	砂粒(白・ 黒・透)	良好	5Y5/1 (灰)	在地産カ 近世以降		
	162		1	台渡里官衙遺跡 (台渡里第70次)	SD01 東区 上層	須恵器・坏 蓋	摘み径 (3.9)	—	(1.2)	環状鈕	—	砂粒(白 多・銀多)	良好	7.5Y7/1 (灰白)	新治窯跡群
			2		SD01 東区 上層	須恵器・坏 蓋	(12.0)	—	(0.9)	内外面ともにロ ク口水挽整形, 内面にかえり	—	砂粒(白・ 黒)	良好	5Y8/1 (灰)	山田窯跡群 もしくは木 葉下窯跡群 7世紀第4 四半期
3		SD01 東区 上層	須恵器・坏 蓋		(14.0)	—	(1.5)	内外面ともにロ ク口水挽整形, 内面にかえり	—	砂粒(白 多・銀多)	良好	10YR5/3 (にぶい 黄橙) 10YR5/2 (灰黄褐)	新治窯跡群 7世紀第4 四半期		
4		SD01 東区 上層	須恵器・坏 蓋		(12.0)	—	(1.8)	内外面ともにロ ク口水挽整形, 端部は折り返し	—	砂粒(白 多)	良好	5Y7/1 (灰白) N7/0 (灰白)	山田窯跡群 もしくは木 葉下窯跡群		
5		SD01 東区 上層	須恵器・長 頸壺		(16.0)	—	(2.3)	内外面ともにロ ク口水挽整形	—	砂粒(白・ 黒)	堅緻	5Y4/3 (暗オ リーブ)	湖西窯跡群		
6		SD01 東区 下層	須恵器・坏 蓋		(14.0)	—	(1.5)	内外面ともにロ ク口水挽整形, 内面にかえり	—	砂粒(白・ 透)	良好	5Y8/1 (灰)	山田窯跡群 もしくは木 葉下窯跡群 7世紀第4 四半期		
7		SD01 東区 下層	須恵器・坏 蓋		(14.0)	—	(0.9)	内外面ともにロ ク口水挽整形, 内面にかえり	—	砂粒(白・ 透)	良好	5Y8/1 (灰)	山田窯跡群 もしくは木 葉下窯跡群 7世紀第4 四半期		
8		SD01 東区 下層	須恵器・坏 蓋		(12.0)	—	(1.4)	内外面ともにロ ク口水挽整形, 端部は「く」字 状	—	砂粒(白 多・黒多・ 透)	堅緻	N6/0 (灰) 10Y6/1 (灰)	山田窯跡群 もしくは木 葉下窯跡群 7世紀末		

図版	番号	遺跡名 (地点名・ 次数)	出土位置	種別・器形 細別	法量 (cm)			観察所見	残存率 (%)	胎土	焼成	色調 (外面・内面)	生産地・ 年代等		
					口径	底径	器高								
162	9	台渡里官衙遺跡 (台渡里第70次)	SD01 東区 下層	須恵器・無 台坏	(14.0)	(11.0)	(4.0)	内外面ともにロ クの水挽整形	—	砂粒 (白 多)	堅緻	10Y2/1 (黒) 10Y4/1 (灰)	山田窯跡群 もしくは木 葉下窯跡群		
	10		SD01 東区 下層	須恵器・甕	—	—	(3.7)	外面に同心円 文叩き	—	砂粒 (白・ 銀・透)	やや 軟質	10YR4/6 (褐) 10YR6/3 (に ぶい黄橙)	新治窯跡群		
	11		SD01 西区 上層	須恵器・坏 蓋	摘み径 (2.8)	—	(1.3)	宝珠状だが、 丸みを帯び扁 平に近い	—	砂粒 (白・ 銀・透)	良好	7.5Y5/1 (灰)	新治窯跡群		
	12		SD01 西区 上層	須恵器・坏 蓋	(14.0)	—	(1.5)	内外面ともにロ クの水挽整形、 内面にかえり	—	砂粒 (白 多・銀多・ 透)	良好	5Y5/1 (灰)	新治窯跡群		
	13		SD01 西区 上層	須恵器・有 台坏	—	高台径 (10.3)	(2.0)	内外面ともにロ クの水挽整形	—	砂粒 (白・ 銀・透)	やや 軟質	10YR6/3 (に ぶい黄橙)	山田窯跡群 もしくは木 葉下窯跡群		
	14		SD01 西区 上層	須恵器・坏 蓋	(14.0)	—	(1.5)	内外面ともにロ クの水挽整形、 端部は「く」字 状	—	砂粒 (白・ 黒多)	やや 軟質	7.5Y7/1 (灰白)	山田窯跡群 もしくは木 葉下窯跡群		
	15		SD01 西区 上層	須恵器・坏 蓋	(16.0)	—	(1.1)	内外面ともにロ クの水挽整形、 端部は「L」字 状	—	砂粒 (白・ 黒)	堅緻	N3/0 (灰)	山田窯跡群 もしくは木 葉下窯跡群		
	16		SD01 西区 上層	須恵器・円 面碗	—	最大径 (18.8)	(4.2)	脚部、刻線や 透しはない	—	砂粒 (白 多・透・黒・ 赤)	良好	7.5Y6/1 (灰)	山田窯跡群 もしくは木 葉下窯跡群		
	17		SD01 西区 上層	須恵器・甕	—	—	(6.6)	外面は擬格子 叩き、内面は 当て具痕なし	—	砂粒 (白 多・黒多・ 透)	堅緻	7.5Y5/1 (灰)	山田窯跡群 もしくは木 葉下窯跡群		
	18		SD01 西区 上層	須恵器・甕	—	—	(2.6)	外面は正格子 叩き、内面は 同心円文叩き	—	砂粒 (白 多・赤・ 透)	良好	7.5Y4/1 (灰)	山田窯跡群 もしくは木 葉下窯跡群		
	19		SD01 西区 上層	須恵器・甕	—	—	(4.6)	外面は擬格子 叩き、内面は 当て具痕なし	—	砂粒 (白・ 赤・透)	堅緻	N4/0 (灰)・ N6/0 (灰) N6/0 (灰)	山田窯跡群 もしくは木 葉下窯跡群		
	20		SD01 西区 上層	須恵器・甕	—	—	(1.9)	外面は擬格子 叩き、内面は 当て具痕なし	—	砂粒 (白・ 銀・透)	良好	7.5Y6/1 (灰) 7.5Y7/1 (灰白)	新治窯跡群		
	21		SD01 西区 上層	土師器・甕	—	(12.0)	(1.9)	外面はヘラケ ズリ調整、底 部は木葉痕	—	砂粒 (白 多・銀多・ 透多)	良好	5YR6/6 (橙) 10YR7/3 (に ぶい黄橙)	在地産カ		
	22		SD01 西区 下層	須恵器・坏 蓋	摘み径 (4.1)	—	(1.3)	環状鈕	—	砂粒 (白・ 銀多)	良好	5Y7/1 (灰白)	新治窯跡群 7世紀第4 四半期		
	23		SD01 西区 下層	須恵器・坏 蓋	(12.0)	—	(1.5)	内外面ともにロ クの水挽整形、 内面にかえり	—	砂粒 (白 多・銀多)	良好	7.5Y6/1 (灰)	新治窯跡群 7世紀第4 四半期		
	24		SD01 西区 下層	須恵器・坏 蓋	(14.0)	—	(1.4)	内外面ともにロ クの水挽整形、 内面にかえり	—	砂粒 (白・ 銀多)	良好	2.5Y7/2 (灰黄)	新治窯跡群 7世紀第4 四半期		
	25		SD01 西区 下層	須恵器・坏 蓋	(18.0)	—	(1.2)	内外面ともにロ クの水挽整形、 端部は「く」字 状	—	砂粒 (銀・ 黒)	良好	2.5Y7/1 (灰白)	新治窯跡群		
	26		SD01 西区 下層	須恵器・坏 蓋	(12.9)	—	(1.8)	内外面ともにロ クの水挽整形、 端部は折り返し	—	砂粒 (白・ 銀・黒)	良好	2.5Y7/2 (灰黄) 10YR8/3 (浅 黄橙)	新治窯跡群		
	27		SD01 西区 下層	須恵器・無 台坏	—	(8.0)	(1.3)	内外面ともにロ クの水挽整形、 底部は回転ヘ ラ切り	—	砂粒 (白・ 銀多・黒)	良好	5Y7/2 (灰白)	新治窯跡群		
	28		SD01 西区 下層	須恵器・脚 付長頸壺	胴部 最大径 (17.6)	—	(6.8)	内外面ともにロ クの水挽整形、 体部に横走る 沈線	—	砂粒 (白 多・黒多)	堅緻	5Y5/1 (灰)	山田窯跡群 もしくは木 葉下窯跡群 7世紀第4 四半期		
	29		SD01 西区 下層	須恵器・甕	—	—	(3.2)	外面は擬格子 叩き、内面は 同心円文の当 て具痕	—	砂粒 (白・ 透)	堅緻	5Y2/1 (黒) 5Y5/1 (灰)	山田窯跡群 もしくは木 葉下窯跡群		
	163		30		SD01 ベルト中	須恵器・坏 蓋	(14.0)	—	(1.5)	内外面ともにロ クの水挽整形、 内面にかえり	—	砂粒 (白・ 銀多・黒)		2.5Y7/2 (灰黄)	新治窯跡群 7世紀第4 四半期

図版	番号	遺跡名 (地点名・ 次数)	出土位置	種別・器形			法量 (cm)			観察所見	残存率 (%)	胎土	焼成	色調 (外面・内面)	生産地・ 年代等
				細別	口径	底径	器高								
163	31	台渡里官衙遺跡 (台渡里第70次)	SD01 ベルト中	須恵器・甕	—	—	(4.2)	外面は擬格子 叩き、内面は 当て具痕なし	—	砂粒(白・ 透・赤)	良好	7/5Y4/1 (灰) 2.5Y7/3 (浅黄)	山田窯跡群 もしくは木 葉下窯跡群		
	32		SD01 ベルト中	土師器・坏	—	—	(0.9)	底部外面は回転糸 切り、体部はヘラ ケズリ調整、内面 はミガキにより放 射状の暗文を表現	—	砂粒(白 多・透・黒)	良好	5YR6/6 (橙) ~ 2.5YR5/6 (明赤 褐) 2.5YR6/6 (赤褐)	在地産カ		
	33		SD01 ベルト中	須恵器・坏 蓋	—	—	—	内外面ともにロ ククロ水挽整形、 端部は「く」字 状	—	砂粒(白 多・黒)	堅緻	N4/0 (灰)	山田窯跡群 もしくは木 葉下窯跡群		
	34		遺構確認面	須恵器・無 台坏	(13.0)	—	(4.0)	内外面ともにロ ククロ水挽整形	—	砂粒(白 多・黒)	良好	2.5Y7/3 (浅黄)	山田窯跡群 もしくは木 葉下窯跡群		
	35		遺構確認面	須恵器・甕	—	—	(4.6)	外面は平行叩 き、内面は同 心円文叩き	—	砂粒(白 多)	良好	10YR7/1 (灰) 10YR6/4 (にぶ い黄橙)	山田窯跡群 もしくは木 葉下窯跡群		
	36		遺構確認面	土師器・壺	(14.0)	—	(5.7)	内外面ともに ナデ調整、口 縁部直下の内 面に沈線	—	砂粒(白 多・銀・透)	良好	5YR5/6(明赤褐) 5YR3/3(暗赤褐)	在地産カ		
167	1	堀遺跡 (第22地点 第2次)	SD01 南区上層	土師器・坏	(12.6)	(6.6)	4.4	内外面ともにロ ククロ水挽調整、内 面は丁寧なミガ キ調整と黒色処 理。底部は回転ヘ ラ切り、体部外面 に「南□」の墨書	38	砂粒(白 多・透)・ 骨針	良好	5YR6/8 (橙) 5Y2/1 (黒)	在地産カ 9世紀第3 四半期~第 4四半期		
	2		SD01 南区上層	土師器・高 台付坏	—	(7.1)	(2.3)	内外面ともにロ ククロ水挽調整、内 面は丁寧なミガ キ調整と黒色処 理。底部は回転糸 切り後、ナデ調整	20	砂粒(白 多・透)	良好	5YR6/8 (橙) 2.5Y2/1 (黒)	9世紀第2 四半期~第 3四半期		
	3		SD01 南区上層	須恵器・無 台坏	—	(6.4)	(2.4)	内外面ともにロ ククロ水挽調整、底 部は回転ヘラ切 り後、ナデ調整。 「←」状のヘラ記 号	—	砂粒(白 多・透)・ チャート 礫	良好	5Y6/1 (灰)	木葉下窯跡群 9世紀第3 四半期		
	4		SD01 南区上層	須恵器・有 台坏	—	(7.5)	(2.7)	内外面ともにロ ククロ水挽調整、内 面見込に降灰釉	—	砂粒(白 多・黒)	堅緻	7.5YR6/1 (褐 灰)	木葉下窯跡群		
	5		SD01 南区上層	須恵器・有 台坏	—	(9.5)	(2.7)	内外面ともにロ ククロ水挽調整、底 部は回転ヘラ切 り。内面見込に墨 痕。転用硯カ	—	砂粒(白 多・透)・ チャート 礫・骨針	堅緻	5Y5/1 (灰)	木葉下窯跡群		
	6		SD01 南区上層	須恵器・高 台付盤	—	(11.0)	(3.1)	内外面ともにロ ククロ水挽調整、底 部は回転ヘラ切 り	—	砂粒(白 多・透)・ 骨針	堅緻	10Y4/1 (灰)	木葉下窯跡群		
	7		SD01 南区上層	瓦・軒平瓦	全長 (11.5)	幅 (15.0)	厚さ (3.9) 重量 (699) g	凸面は長軸方向 のヘラケズリ及 びナデ調整、凹 面は短軸方向の ナデ調整。輪積 み痕が認められ 泥条盤築技法に よる製品	—	砂粒(白 多・透)・ 2~5mm 大の礫多	堅緻	10YR5/1 (褐 灰)	平安時代 3290型式も しくは3291 型式		
	8		SD01 南区下層	須恵器・有 台坏	—	(10.4)	(2.5)	内外面ともにロ ククロ水挽調整、底 部は回転ヘラ切 り。底裏に墨痕。 転用硯カ	—	砂粒(白 多・透)・ チャート 礫	堅緻	N5/1 (灰)	木葉下窯跡群		
	9		SD01 南区下層	須恵器・有 台坏	—	—	(2.5)	内外面ともにロ ククロ水挽調整、 底部は回転ヘラ 切り。底裏にヘラ 記号	—	砂粒(白 多・透)・ チャート 礫	良好	5Y5/1 (灰)	木葉下窯跡群		
	10		SD01 北区下層	須恵器・有 台坏	—	(7.5)	(3.0)	内外面ともにロ ククロ水挽調整、内 面見込に研磨痕。 転用硯カ	—	砂粒(白 多・透)・ チャート 礫	堅緻	7.5Y5/1 (灰)	木葉下窯跡群 9世紀第2 四半期		

図版	番号	遺跡名 (地点名・ 次数)	出土位置	種別・器形 細別	法量 (cm)			観察所見	残存率 (%)	胎土	焼成	色調 (外面・内面)	生産地・ 年代等
					口径	底径	器高						
167	11	堀遺跡 (第22地点 第2次)	SD01 北区上層	須恵器・無 台坏	(12.0)	—	(4.0)	内外面ともにロ ク口水挽整形	—	砂粒(白 多・黒多・ 赤)・骨針	良好	5Y6/2(オリ ブ灰) 5Y5/1(灰)	木葉下窯跡群
	12		SD01 北区上層	須恵器・甗	—	—	(4.4)	外面は幅広の 平行叩き、内 面は当て具痕 なし	—	砂粒(白 多・黒多)・ 骨針	堅緻	7.5Y5/1(灰)	木葉下窯跡群
	13		遺構確認面	須恵器・有 台坏	—	(9.6)	(2.4)	内外面ともにロ ク口水挽調整、内 面見込に降灰釉	—	砂粒(白 多・透多)・ 骨針	良好	10YR5/3(に ぶい黄褐) 7.5YR6/6(橙) ~ 10YR4/1(褐 灰)	木葉下窯跡群
	14		SI01	土師器・坏	(13.4)	—	(3.4)	口縁部外面は横位 のナデ調整、体部は ヘラケズリ調整。内 面は横位・斜位置の ナデ調整	30	砂粒(白 多・黒・赤・ 透)	良好	10YR7/4(に ぶい黄褐) 7.5YR6/6(橙)	在地産カ 7世紀第4 四半期
	15		SI01	土師器・甗	—	9.3	(6.9)	体部外面はヘラナ デ調整後にヘラミ ガキ調整、煤付着。 底面はヘラナデ調 整	—	砂粒(白 多・銀多・ 透)	良好	7.5YR5/6(明 褐) 7.5YR6/4(に ぶい橙)	在地産カ 7世紀第4 四半期
	16		SI01	土師器・甗	(26.0)	—	(10.9)	内外面ともに横位 のナデ調整、口唇部 外面に横位の浅い 沈線。内面に輪積み 痕残存	—	砂粒(白 多・透多・ 黒・赤)	良好	7.5YR5/6(橙)	在地産カ 7世紀第4 四半期
170	1	谷田遺跡 (第1地点第 2次)	SI1	土師器・坏	(14.0)	(10.0)	(3.5)	丸底で体部に稜を有し、 口縁部が外反。内面は 丁寧なヘラミガキ調整、 放射状の暗文。底部外 面はヘラケズリ調整	20	砂粒(白 多・銀多・ 透・黒・赤)	良好	5YR6/6(橙) 5YR5/8(明赤 褐)	在地産カ 5世紀後葉~ 6世紀前葉
	2		SI1	土師器・坏	(16.0)	(12.6)	(4.3)	丸底で体部に稜を有し、 口縁部が外反。内面は 丁寧なヘラミガキ調整、 放射状の暗文。底部外 面は反時計回りの方向 のヘラケズリ調整	30	砂粒(白 透・銀)	良好	7.5YR3/1(黒褐) 7.5YR5/6(明赤 褐)~ 2.5YR2/3 (極暗赤褐)	在地産カ 5世紀後葉~ 6世紀前葉
	3		SI1	土師器・坏	(15.2)	(10.0)	(4.0)	丸底で体部に稜を有し、 口縁部が外反。内面は 丁寧なヘラミガキ調整、 底部外面は時計回りの 方向のヘラケズリ調整	30	砂粒(白 多・透・黒)	良好	7.5YR6/8(橙) 7.5YR5/6(明 赤褐)	在地産カ 5世紀後葉~ 6世紀前葉
	4		SI1	土師器・坏	(17.0)	(12.4)	(3.7)	丸底で体部に稜を有し、 口縁部が外反。内面は 丁寧なヘラミガキ調整、 底部外面はヘラケズリ 調整	—	砂粒(白 多・透・黒)	良好	5YR6/6(橙) 5YR5/6(明赤 褐)	在地産カ 5世紀後葉~ 6世紀前葉
	5		SI1	土師器・甗	(16.0)	—	(6.3)	内外面ともに横位 のナデ調整、外面に は指頭による押さ えの痕跡、口唇部内 面には緩やかな稜	—	砂粒(白 多・透・黒・ 銀)	良好	2.5YR5/4(に ぶい赤褐)	在地産カ 5世紀後葉~ 6世紀前葉
	6		SI1	土師器・甗	(16.0)	—	(6.6)	内外面ともに横位 のナデ調整、外面に は板状工具による 縦位のナデ調整の 痕跡、口唇部内面 には緩やかな稜	—	砂粒(白 多・透多・ 黒)・チャート礫	良好	5YR4/8(赤褐)	在地産カ 5世紀後葉~ 6世紀前葉
	7		SI1	土師器・甗	—	(8.0)	(3.8)	胴部外面は、縦位の ヘラケズリ調整後、 ミガキ調整。底面は ナデ調整、内面はナ デ調整	—	砂粒(白 多・透多・ 銀・黒)	良好	5YR1.7/1(黒) ~ 2.5YR4/6(赤 褐) 2.5YR5/6(明 赤褐)	在地産カ 5世紀後葉~ 6世紀前葉
	8		SI1	土師器・甗	—	(9.0)	(3.2)	胴部外面は、縦位の ヘラケズリ調整後、 ミガキ調整。底面・ 内面はナデ調整	—	砂粒(白 多・透・銀・ 赤)	良好	2.5Y2/1(黒)	在地産カ 5世紀後葉~ 6世紀前葉
	9		SI1	土師器・甗	—	(8.0)	(4.1)	胴部外面は、縦位の ヘラケズリ調整後、 ミガキ調整。底面は ナデ調整、内面はミ ガキ調整	—	砂粒(白 透多・黒・ 赤)	良好	N2/0(黒)~ 10YR6/4(に ぶい黄褐) 2.5Y3/1(黒褐)	在地産カ 5世紀後葉~ 6世紀前葉
	10		SI1	土師器・甗	—	(10.0)	(4.2)	胴部外面・底面は、 被熱により器面剥 落が顕著、煤付着。 内面はナデ調整	—	砂粒(白 多・透・銀・ 黒・赤)	良好	5YR6/8(橙) ~ 5Y2/1(黒) 5YR5/6(明 赤褐)	在地産カ 5世紀後葉~ 6世紀前葉

図版	番号	遺跡名 (地点名・ 次数)	出土位置	種別・器形			法量 (cm)			観察所見	残存率 (%)	胎土	焼成	色調 (外面・内面)	生産地・ 年代等
				細別	口径	底径	器高								
170	11	谷田遺跡 (第1地点第 2次)	S11	土師器・甕	—	(6.9)	(2.0)	胴部外面は、横位の ヘラケズリ調整後、 ミガキ調整。底面・ 内面はミガキ調整	—	砂粒(白 多・透・銀・ 黒)	良好	5YR1.7/1(黒) ~2.5YR4/6(赤 褐) 2.5YR5/6(明 赤褐)	在地産カ 5世紀後葉~ 6世紀前葉		
	12		S11	土師器・椀	8.9	—	3.9	口縁部内・外面は横 位のナデ調整、体部 ~底部外面はヘラ ケズリ調整。底部内 面はヘラナデ	70	砂粒(白・ 透多・黒)	良好	2.5YR5/6(明赤褐) ~2.5YR1.7/1(赤 黒) 2.5YR5/6(明赤褐)	在地産カ 5世紀後葉~ 6世紀前葉		
171	13		S14	弥生土器・ 壺	頸部 最大径 (12.5)	—	(5.8)	折り返し口縁状と なり、単節RL縄文 が横位に回転施紋。 直下に板状工具で 波状文と縦位区画 文を描く	—	砂粒(白 多・透・銀)	良好	2.5Y6/3(にぶい 黄褐)~2.5Y3/1 (黒褐) 2.5Y7/2(灰黄)	十王台2b式 古墳時代 前期前葉		
172	14		S15	土師器・坏	14.0	—	5.2	金属器模倣、底部は 丸底で、外面は半時 計回りの方向に丁 寧なヘラケズリ調 整。口縁部は僅かに 外反、口縁部の内外 面は漆塗	95	砂粒(白多・ 透・銀・赤 多)	良好	10YR2/3(黒褐)~ 7.5YR6/6(橙) ~10YR7/4(にぶい 黄橙) 10YR3/2(黒褐)~ 10YR6/6(明黄褐) ~10YR5/4(にぶい 黄褐)	在地産カ 7世紀前葉		
	15	S15	土師器・坏	(13.8)	—	(5.0)	金属器模倣、底部は 丸底で、外面は半時 計回りの方向に丁 寧なヘラケズリ調 整。口縁部は垂直に 立ち上がる。口縁部 の内外面は漆塗	—	砂粒(白・ 透・銀・赤 多)	良好	10YR7/3(に ぶい黄橙) 10YR5/4(に ぶい黄褐)	在地産カ 7世紀前葉			
	16	S15	土師器・坏	(13.8)	—	(6.0)	金属器模倣、底部は 丸底で、外面は半時 計回りの方向に丁 寧なヘラケズリ調 整。口縁部は垂直に 立ち上がる。口縁部 の外面は漆塗	—	砂粒(白・ 透・銀・赤)	良好	10YR7/4(に ぶい黄橙) 5YR6/6(橙)	在地産カ 7世紀前葉			
	17	S15	縄文土器・ 深鉢	—	—	(2.6)	繊維土器。単節RL 縄文を回転施紋	—	砂粒(白・ 透・銀)	良好	5YR5/6(明赤褐) 2.5YR4/6(赤褐)	黒浜式			
	18	S15	縄文土器・ 深鉢	—	—	(1.9)	単節LR縄文を回転 施紋した後、縦位の 沈線で磨り消し	—	砂粒(白多・ 透多)	良好	2.5YR5/6(明赤褐) 2.5YR4/4(にぶい 赤褐)	加曾利E 式			
	19	S15	縄文土器・ 粗製深鉢	—	—	(6.6)	単節RL縄文を回転 施紋	—	砂粒(白・ 透多)	良好	10YR5/3(にぶい 黄褐)~10YR2/1 (黒) 10YR5/4(にぶい 黄褐)	堀之内式			
	20	S15	縄文土器・ 粗製深鉢	—	—	(2.3)	無節縄文を回 転施紋	—	砂粒(白多・ 透)	良好	10YR6/3(にぶい 黄橙) 10YR6/4(にぶい 黄橙)	堀之内式			
	21	S15	縄文土器・ 粗製深鉢	—	—	(2.1)	単節RL縄文を回転 施紋	—	砂粒(白多・ 透多)	良好	10YR7/6(明黄褐) 10YR7/4(にぶい 黄橙)~2.5YR6/6 (橙)	堀之内式			
	22	S15	須恵器・甕	—	—	(9.8)	外面は平行明き、内 面は当て具痕なし、 降灰釉	—	砂粒(白 多・透多)・ 骨針	良好	N5/0(灰) 7.5Y5/1(灰)	木葉下窯跡群 奈良・平 安時代			
173	23		S16	土師器・坏	(13.0)	(8.0)	(4.5)	内外面ともにロク 口水挽整形、内面は 丁寧なミガキ調整 の後、黒色処理。底 面は回転系切り、二 次底部面は回転ヘ ラケズリ調整	30	砂粒(白 多・透多・ 銀・赤)・ 骨針	良好	7.5YR7/6(橙) N1.5/0(黒)	在地産カ 9世紀第 4四半期		
	24		S16	土師器・甕	(14.0)	—	(8.4)	内外面ともに横位 のナデ調整、口唇部 ~頸部外面に赤彩	25	砂粒(白 多・透多・ 銀多)	良好	10YR3/1(黒褐) 10YR4/1(褐灰)	在地産カ 9世紀第 4四半期		
	25		S16	土師器・甕	(22.0)	—	(6.5)	内外面ともに横位 のナデ調整	—	砂粒(白 多・透多・ 銀多)	良好	5YR6/6(橙)~ 10YR2/1(黒) 10YR5/3(にぶい 黄橙)~10YR2/3 (黒褐)	在地産カ 9世紀第 4四半期		
	26		S16	土師器・甕	(19.6)	—	(5.0)	内外面ともに横位 のナデ調整	—	砂粒(白 多・透多・ 銀多・赤)	良好	2.5YR6/8(橙) 5YR5/3(にぶい 赤褐)	在地産カ 9世紀第 4四半期		

図版	番号	遺跡名 (地点名・ 次数)	出土位置	種別・器形 細別	法量 (cm)			観察所見	残存率 (%)	胎土	焼成	色調 (外面・内面)	生産地・ 年代等
					口径	底径	器高						
173	27	谷田遺跡 (第1地点第 2次)	SI6	土師器・甕	—	(7.6)	(5.4)	胴部外面は斜位及び縦位のヘラケズミ調整及びヘラミガキ調整。内面は横位のナデ調整。輪積み痕, 底部は木葉痕	—	砂粒(白多・透多・銀多・赤)	良好	10YR4/2(灰黄褐)	在地産カ 9世紀第 4四半期
	28		SI6	土師器・甕	—	(9.0)	(7.0)	胴部外面は縦位のヘラケズミ調整, 内面は横位のナデ調整, 輪積み痕	—	砂粒(白多・透多・銀多)	良好	7.5YR2/1(黒)~ 5YR3/4(暗赤褐) 7.5YR7/4(にぶ い橙)~5YR6/6(橙) ~7.5YR2/1(黒)	在地産カ 9世紀第 4四半期
	29		SI6	土師器・甕	—	(7.4)	(2.8)	胴部外面は横位のヘラケズミ調整, 内面は横位のナデ調整, 輪積み痕, 底部は木葉痕	—	砂粒(白多・透多・銀多・赤)	良好	5YR5/6(明赤 褐)	在地産カ 9世紀第 4四半期
	31		SI6	土製品・支脚	長さ (14.7)	幅 (6.0)	重量 (400g)	被熱により器面が著しく剥落	90	—	良好	2.5Y7/3(浅黄)	在地産カ 9世紀第 4四半期
174	32		SI7	土師器・甕	(18.5)	—	(21.6)	口縁部内面は横位のナデ調整, 頸部外面は斜位のナデ調整, 胴部下半は縦位のヘラミガキ調整	30	砂粒(白多・透多・銀多・赤)	良好	5YR6/6(橙)	在地産カ 9世紀第 4四半期
	33		SI7	土師器・甕	(18.0)	—	(19.1)	口縁部内外面は横位のナデ調整, 胴部外面上半は斜位のナデ調整	20	砂粒(白多・透多・銀多・赤)	良好	10YR5/3(にぶ い黄褐) 7.5YR7/6(橙)	在地産カ 9世紀第 4四半期
	34		SI7	土師器・甕	(26.0)	—	(10.8)	口縁部内外面は横位のナデ調整, 胴部内面上半は斜位のナデ調整	—	砂粒(白多・透多・銀多)	良好	10YR6/4(にぶ い黄橙)~10YR3/1 (黒褐) 7.5YR7/6(橙) ~10YR4/1(褐灰)	在地産カ 9世紀第 4四半期
	35		SI7	土師器・甕	(20.0)	—	(10.0)	口縁部内外面は横位のナデ調整	—	砂粒(白多・透多・銀多・赤)	良好	10YR7/4(にぶ い黄橙)~10YR4/1 (褐灰)	在地産カ 9世紀代
	36		SI7	土師器・甕	(20.0)	—	(13.8)	口縁部内外面は横位のナデ調整	—	砂粒(白多・透多・銀多)	良好	10YR4/3(にぶ い黄褐)~5YR4/4 (にぶい赤褐) 7.5YR4/2(灰褐)	在地産カ 9世紀代
	37		SI7	土師器・甕	(24.0)	—	(7.2)	口縁部内外面は横位のナデ調整	—	砂粒(白多・透多・銀多・赤)	良好	5YR6/6(橙) 7.5YR7/8(黄橙) ~10YR2/1(黒)	在地産カ 9世紀代
	38		SI7	土師器・甕	(24.0)	—	(7.5)	口縁部内外面は横位のナデ調整	—	砂粒(白多・透多・銀多)	良好	5YR5/8(明赤 褐)~2.5YR6/6 (橙)	在地産カ 9世紀代
	175		39		SI7	土師器・甕	—	(8.0)	(13.5)	胴部外面は縦位のヘラミガキ調整, 内面は横位のナデ調整, 輪積み痕。外面に煤付着。底部は木葉痕	—	砂粒(白多・透多・銀多・赤)	良好
40		SI7	土師器・甕		—	6.8	(17.0)	胴部外面は縦位のヘラミガキ調整, 内面は横位のナデ調整, 輪積み痕。内外面に煤付着。底部は木葉痕	30	砂粒(白多・透多・銀多)	良好	7.5YR5/6(明 赤褐) 7.5YR7/6(橙)	在地産カ 9世紀代
41		SI7	土師器・甕		—	(7.0)	(9.5)	胴部外面は横位のヘラケズミ調整, 内面は横位のナデ調整, 輪積み痕。外面に煤付着。底部は木葉痕	—	砂粒(白多・透多・銀多)	良好	10YR1.7/1(黒) ~2.5YR4/6(赤 褐) 10YR4/1(褐色 灰)	在地産カ 9世紀代
178	1	水戸城跡 (第7地点第 27次)	藤棚柱 5	磁器・碗・丸碗 A	—	(6.0)	(5.9)	轆轤成形/染付/透明釉, 壺付無釉/外面折枝文, 高台脇如意頭文, 高台二重圈線	20	—	—	—	肥前産 1680年代~ 1700年代
	2		藤棚柱 2	磁器・德利・逆無形か	—	(9.2)	(7.3)	轆轤成形/透明釉, 壺付無釉, 内面無釉/外面・高台内白泥全面塗布, 文様なし/高台内ハリ痕1箇所, 内面砂付着	35	—	—	—	七面製陶所 (精製七面焼) 1838(天保 9)年以降



図版	番号	遺跡名 (地点名・ 次数)	出土位置	種別・器形			法量 (cm)			観察所見	残存率 (%)	胎土	焼成	色調 (外面・内面)	生産地・ 年代等
				細別	口径	底径	器高								
178	3	水戸城跡 (第7地点第 27次)	藤棚柱 2	瓦・小丸軒 棧瓦	全長 (6.5)	厚さ (1.8)	重量 (135) g	板作り・型当て・型 押成形/燻しあり /小丸瓦当部欠損	—	砂粒(白・ 黒)	硬質	N4/1 (灰)	産地不明 1841年前 後～		
	4			藤棚柱 2	瓦・小丸軒 棧瓦	全長 (6.4)	厚さ (1.8)	重量 (218) g	板作り・型当て・型 押成形/燻しあり	—	砂粒(白・ 黒)	硬質	N4/1 (灰)	産地不明 1841年前 後～	
	5			藤棚柱 4	瓦・板状不 明	全長 (5.5)	厚さ (1.6)	重量 (107) g	板作り・型当て成形 /燻しあり/刻印 「丸に安」	—	砂粒(白・ 黒)	硬質	N4/1 (灰)	産地不明 1841年前 後～	
	6			藤棚柱 4	瓦・平瓦	全長 (13.3)	厚さ (2.2)	重量 (397) g	板作り・型当て成形 /燻しあり/穿孔 1箇所	—	砂粒(白・ 黒)	硬質	N4/1 (灰)	産地不明 1841年前 後～	
	7			藤棚柱 4	瓦・板状不 明	全長 (7.5)	厚さ (2.0)	重量 (138) g	板作り・型当て成形 /燻しあり/刻印 「丸に安」	—	砂粒(白・ 黒)	硬質	N4/1 (灰)	産地不明 1841年前 後～	
179	1	愛宕山古墳	表面採集	円筒埴輪	—	—	(3.6)	外面にはM字形の 低凸帯を貼り付け、 凸帯より上部に縦 位の刷毛目、凸帯の 下部には方形の透 し。内面は横位のナ ズ調整	—	砂粒(白 多・透多・ 黒)	良好	5YR6/6 (橙)	古墳時代 中期前葉		
180	1	台渡里庵寺 跡(観音堂 山地区)	表面採集	軒丸瓦	内区径 (16.0)	厚さ (2.4)	重量 (180) g	外区外縁と中心蓮 子、丸瓦部を欠失。 周縁蓮子は扇状を 呈し、剣状の花弁と サメの歯状の間弁 は丸みを帯びる	—	砂粒(白 多・透・ 黒)	良好	5YR6/1 (灰)	奈良時代 3127A型式		
181	1	四又入窯跡 群	表面採集	須恵器無・ 台環蓋	最大径 (17.0)	—	(1.5)	内外面ともにロク 口水挽整形痕。掴ま み部・端部を欠失	—	砂粒(白多・ チャート礫)	堅緻	10YR4/3 (にぶ い黄褐) 2.5Y5/1 (黄灰)	8世紀第2四 半期～第3四 半期		
	2		表面採集	須恵器・有 台環	最大径 (17.0)	高台径 (12.4)	(3.0)	内外面ともにロク 口水挽整形痕。口縁 部を欠失	—	砂粒(白 多・黒)	堅緻	2.5Y5/1 (黄灰)	8世紀第2四 半期～第3四 半期		
182	1	藤井町遺跡	表面採集	縄文土器・ 粗製深鉢	—	—	(6.9)	外面には横走する沈 線を巡らし、その間 に隆帯を貼り付け、 指頭を押しつけて連 続する推圧隆帯とし ている。内面には5mm 幅の横走する沈線を 3条巡らす	—	砂粒(白 多・透多・ 赤)	良好	10YR4/2(灰黄褐) 10YR5/3 (にぶ い黄褐)	加曾利B式		
	2		表面採集	縄文土器・ 精製深鉢	—	—	(3.8)	3単位の把手部、外 面中央には2対の弧 線文を配置、それ に向かう長い弧線 文を描く。内面 にも同様の長い弧 線文を描き、丁寧 にミガキを施す。把 手部は楕円形を呈 し、中央に半円状 の突起を配置、左 右に直径4.5mm程 度の竹管状工具で 円形の刺突文を配 置	—	砂粒(白・ 透多)	良好	5YR4/6(赤褐) 7.5YR4/3 (褐)	加曾利B1 式新段階		

・括弧内の数値は、復元された口径や底径、または残存高を示す。

・色調に記載の色については上段が外面、下段が内面を示す。複数の色調が認められる場合には、10Y8/1 (灰白)～10Y5/1 (灰)のように示す。

〈第7表 凡例〉

\*「胎」の記載には、次の記号を使用する。

「金」: 金色を呈する風化した黒雲母片 (さらに、「多」含有が多量、という記号の組み合わせで表記する。)

「銀」: 銀色を呈する風化した白雲母片 (さらに、「多」含有が多量、という記号の組み合わせで表記する。)

「骨針」: 白色針状物質とも表記される海綿骨針 (さらに、「多」含有が多量、という記号の組み合わせで表記する。)

「白」: 白色不透明で長石あるいは石英と考えられる粒子 (さらに、「多」含有が多量、という記号の組み合わせで表記する。)

「黒」: 黒色で光沢を有し輝石あるいは角閃石と考えられる粒子 (さらに、「多」含有が多量、という記号の組み合わせで表記する。)

「赤」: 赤色で柘榴石あるいは赤色チャートと考えられる粒子 (さらに、「多」含有が多量、という記号の組み合わせで表記する。)

「透」: 透明で石英と考えられる粒子 (さらに、「多」含有が多量、という記号の組み合わせで表記する。)

第8表 石器・石製品観察表

図版	番号	遺跡名	出土位置	器種	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考	
13	8	大井古墳群 (第1地点第2次)	トレンチ2	磨製石斧	滑石カ	6.1	3.5	0.6	19.0	縄文時代	
16	8	渡里町遺跡 (第11地点)	トレンチ1 硬化面上	砥石	不明	17.7	5.4	3.2	(455.0)	帰属時期不明	
	砥石			流紋岩カ	(5.4)	(5.4)	(3.4)	(179.0)	帰属時期不明		
19	4	渡里町遺跡(第12地点)	トレンチ一括	磨石/敲石	安山岩	(4.3)	(7.1)	(3.2)	(120.0)	縄文時代カ	
75	16	坏遺跡(第16地点)	第2次調査 トレンチ4	磨製石斧	ホルンフェルスカ	(6.4)	3.2	1.6	56.7	縄文時代	
152	36	一戦塚遺跡 (第1地点第2次)	SI01	炉石	石英斑岩カ	(17.75)	(9.3)	(5.7)	(1134.0)	古墳時代前期	
154	15		SD01	砥石	砂岩	15.0	8.7	7.1	(1898.0)	平安時代カ	
155	5		遺構外		打製石斧	粘板岩カ	(7.2)	(3.9)	(1.1)	(45.0)	縄文時代カ
	9				双孔円板	滑石カ	(3.8)	(4.2)	(0.4)	(12.0)	古墳時代中期中葉
167	17	堀遺跡 (第22地点第2次)	SI01	軽石製品	軽石	7.8	6.3	5.3	(68.83)	7世紀第4四半期 魚網用の浮子カ	
173	30	谷田遺跡 (第1地点第2次)	SI06	砥石	流紋岩カ	(7.6)	(7.4)	(3.4)	(195.79)	平安時代(9世紀代)	

第9表 金属製品観察表

図版	番号	遺跡名	出土位置	器種	材質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
49	5	台渡里官衙遺跡 (台渡里第76次)	トレンチ1	釘	鉄	14.1	1.2	0.7	32.96	奈良・平安
128	4	釜久保遺跡(第5地点)	トレンチ2	煙管	銅・真鍮	(5.3)	(0.9)	(0.35)	(2.78)	近世
146	8	杵掛遺跡(第4地点)	遺構外	銭貨	青銅	(2.4)	(0.8)	(1.0)	(2.0)	銅一文古寛永(寛文 8(1669)年初鑄)カ
155	12	一戦塚遺跡 (第1地点第2次)	遺構外	釧	青銅	3.9	2.0	最大厚 (0.4)	21.0	奈良・平安 刀身部長2.9cm, 刀 身部幅0.3~0.7cm

## 引用・参考文献

- 井 博幸 2012 「茨城県中央部における前期・中期古墳の展開」『婆良岐考古』第 34 号 婆良岐考古同人会
- 井 博幸 2021 「常陸における前期・中期の埴輪」『古代文化』第 72 号第 4 号 公益財団法人古代学協会
- 井 博幸・小宮山達夫 1999 「第 7 章 内原町周辺の主要古墳と出土遺物」『牛伏 4 号墳の調査』内原町教育委員会
- 稲田健一 2010 「古墳時代の武田遺跡群」『武田遺跡群 総括・補遺編』ひたちなか市教育委員会・財団法人ひたちなか市文化・スポーツ振興公社
- 井上義安編 1990 『葉王院東遺跡 千波中学校建設に伴う埋蔵文化財調査報告書』水戸市葉王院東遺跡発掘調査会
- 井上義安・蓼沼香未由・仁平妙子・根本睦子 1999 『水戸市埋蔵文化財分布調査報告書 平成 10 年度版』水戸市教育委員会
- 茨城県教育委員会 2001 『茨城県遺跡地図』
- 内原町教育委員会 1999 『牛伏 4 号墳の調査』
- 大洗町教育委員会 2018 『大洗町第 2 回埋蔵文化財企画展 太平洋を見下ろす大洗の王墓』
- 太田有里乃・染井千佳・土生朗治 2015 『小原遺跡（第 3 地点） 都計道 7・6・1 号外 3 路線道路改良及び流域関連下水道工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』水戸市教育委員会
- 川口武彦・渥美賢吾・折原 覚 2011 『台渡里 22 一宅地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書（台渡里第 79 次）一』水戸市教育委員会
- 川口武彦・渥美賢吾編 2007 『平成 17 年度水戸市内遺跡発掘調査報告書』水戸市教育委員会
- 川口武彦・渥美賢吾・木本挙周 2009 『台渡里 1 一平成 18 年度長者山地区範囲確認調査概報一』水戸市教育委員会
- 川口武彦・色川順子編 2009 『平成 18 年度水戸市内遺跡発掘調査報告書』水戸市教育委員会
- 川口武彦・色川順子編 2010 『平成 19 年度水戸市内遺跡発掘調査報告書』水戸市教育委員会
- 川口武彦・色川順子編 2011a 『平成 20 年度水戸市内遺跡発掘調査報告書』水戸市教育委員会
- 川口武彦・色川順子編 2011b 『台渡里 4 一宅地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書（台渡里第 64 次）一』水戸市教育委員会
- 川口武彦・木本挙周 2009 「台渡里廃寺跡出土軒瓦の新資料— 3127 型式と矢羽文式軒平瓦の再検討—」『婆良岐考古』第 31 号 婆良岐考古同人会
- 川口武彦・米川暢敬・渥美賢吾・関口慶久・河野一也・新垣清貴 2020 『堀遺跡（第 9 地点区画 No.1～12）一造成地内における個人住宅建築に伴う平成 19～21 年度市内遺跡発掘調査報告書一』水戸市教育委員会
- 2018 『東前原遺跡（第 15 地点第 2 次）一区画道路 6-23 号外 1 路線道路改良及び流域関連下水道工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書一』水戸市教育委員会
- 栗原 悠 2018 「第二章 水戸市愛宕山古墳の測量調査（速報）」『茨城県中央部の古墳調査—測量報告（墳丘・石室・遺物）— 羽黒古墳 愛宕山古墳 三ツ塚古墳群 徳化原古墳 附・磯崎小学校敷地内第 1 号墳』茨城大学人文社会科学部考古学研究室
- 齊藤 新 2020 「那珂川久慈川流域の前期古墳の様相」『古代文化』第 72 号第 2 号 公益財団法人古代学協会
- 佐々木義則 1995 「木葉下窯跡群産杯 A I の変化について—消費地における形態と調整技法の様相—」『婆良岐考古』第 17 号 婆良岐考古同人会
- 1997 「木葉下窯跡群の須恵器生産—奈良時代前半を中心に—」『婆良岐考古』第 19 号 婆良岐考古同人会
- 2001 「茨城県における 8・9 世紀の須恵器概観」『婆良岐考古』第 23 号 婆良岐考古同人会
- 2009 「武田遺跡群における平安時代土師器杯・小皿編年」『婆良岐考古』第 31 号 婆良岐考古同人会
- 2013 「木葉下窯跡群産須恵器有台杯・有台杯蓋・有台盤の編年」『婆良岐考古』第 35 号 婆良岐考古同人会
- 佐々木義則・早川麗司 2017 「茨城県における東北地方からの移民の痕跡—長煙道カマドと東北系遺物から俘囚移配を考える—」『帝京大学文化財研究所研究成果公開シンポジウム「俘囚・俘夷」と呼ばれたエミシの移配と東国社会—強制移住させられたエミシはどこに居たのか？そして何をしていたのか？—』帝京大学文化財研究所・山梨県考古学協会
- 眞保昌弘 2014 「出土瓦にみる中央集権国家形成期陸奥国支配体制の画期とその側面」『日本考古学』第 37 号

日本考古学協会

- 2018 「IV. 陸奥国古瓦の系譜と東国」『考古調査ハンドブック 18 古瓦の考古学』ニューサイエンス社
- 須田 勉 2005 「多賀城様式瓦の成立とその意義」『国士館大学文学部人文学会紀要』第 37 号 国士館大学文学部
- 2013 『日本古代の寺院・官衙造営—長屋王政権の国家構想—』吉川弘文館
- 関口慶久編 2013 『日新塾跡 第 1 次～第 6 次発掘調査報告書』水戸市教育委員会
- 関口慶久・川口武彦・ 2009 『吉田古墳Ⅲ 史跡整備計画に伴う吉田古墳群第 1 号分の第 4・5 次発掘調査報告書』水戸市教育委員会
- 渥美賢吾
- 関口慶久・川口武彦 2007 『吉田古墳Ⅱ 史跡整備計画に伴う吉田古墳群第 1 号墳の第 3 次発掘調査報告書』水戸市教育委員会
- 関口慶久・渥美賢吾・ 2017 『七面製陶所跡 遺構・遺物編 第 1～3 次発掘調査報告書』水戸市教育委員会
- 米川暢敬編
- 蓼沼香未由 2018 「事例（調査）磯浜古墳群の調査」『大洗町第 2 回埋蔵文化財企画展 太平洋を見下ろす大洗の王墓 講演会発表資料集』大洗町教育委員会
- 蓼沼香未由編 2019 『茨城県東茨城郡大洗町 磯浜古墳群Ⅰ 姫塚古墳・車塚古墳・日下ヶ塚（常陸鏡塚）古墳 平成 21～24 年度測量調査・範囲確認調査成果総括報告書』大洗町教育委員会
- 根本康弘 1983 『常磐自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告書 6 木葉下遺跡Ⅰ（窯跡）』財団法人茨城県教育財団
- 土生朗治・新垣清貴 2019 『茨城県水戸市 東前原遺跡（第 17 地点第 2 次）（仮称）ツルハドレッジ水戸東前店新築工事ともなう埋蔵文化財発掘調査報告書』水戸市教育委員会
- 林 邦雄・渥美賢吾編 2013 『台渡里 15 一市道常磐 223 号線狭あい道路整備工事及び公共下水道工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書（台渡里第 114 次）一』水戸市教育委員会
- 常陸古代窯業史研究会 1998 「水戸市山田窯跡群確認調査報告」『茨城県考古学協会誌』第 10 号 茨城県考古学協会
- 藤澤良祐 2005 「瀬戸美濃と志戸呂・初山」『陶磁器から見る 静岡県の中世社会—東でもない西でもない—』発表要旨・論考編』菊川シンポジウム実行委員会
- 細谷弘一・佐藤次男・ 1994 『内原町の遺跡—内原町遺跡分布調査報告書—』内原町史編さん委員会
- 川井正一・根本康弘・市毛美津子
- 米川暢敬・渥美賢吾・ 2019 『平成 21 年度水戸市内遺跡発掘調査報告書』水戸市教育委員会
- 色川順子・坂本幸子・関口慶久・川口武彦編



# 報告書抄録

ふりがな	へいせいにじゅうにねんどみとしなしいせきはつくつちようさほうこくしょ							
書名	平成 22 年度水戸市内遺跡発掘調査報告書							
シリーズ名	水戸市埋蔵文化財調査報告 第 126 集							
編集者名	川口武彦							
著者名	川口武彦・米川暢敬・渥美賢吾・関口慶久							
編集・発行機関	水戸市教育委員会	所在地	〒 310-8610 茨城県水戸市中央 1-4-1 ☎ 029-224-1111 (代)					
発行年月日	2022 (令和 4) 年 3 月 29 日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
金剛寺遺跡 (第 8 地点)	開江町字寺山 2113 外	08201	134	36° 24' 03"	140° 23' 40"	2010.4.13	208.5	ドクターヘリ発着所建設
香掛遺跡 (第 5 地点)	見川町 2570-2	08201	167	36° 21' 33"	140° 26' 39"	2010.4.16	33.92	伐採・伐根
吉田古墳群 (第 9 地点)	元吉田町 84-2, 84-9, 85-9	08201	072	36° 21' 34"	140° 28' 22"	2010.4.23	18.0	個人住宅建築
吉田古墳群 (第 10 地点)	元吉田町字東組 706 番 1	08201	072	36° 21' 17"	140° 28' 33"	2010.4.23	18.0	個人住宅建築
大井古墳群 (第 1 地点第 2 次)	飯富町 (市道飯富 224 号線)	08201	089	36° 25' 28"	140° 24' 50"	2010.5.11 ~ 5.12	54.6	側溝埋設工事
渡里町遺跡 (第 11 地点)	渡里町 2819-4, -5	08201	121	36° 24' 27"	140° 26' 14"	2010.5.21	50.0	共同住宅建築
渡里町遺跡 (第 12 地点)	渡里町字八幡前 2593 番 1	08201	121	36° 24' 24"	140° 26' 21"	2010.8.3	72.0	宅地造成工事
赤塚遺跡 (第 5 地点第 4 次)	河和田 3 丁目 2536	08201	042	36° 22' 16"	140° 24' 29"	2010.10.5	72.0	市立河和田保育所建設工事
赤塚遺跡 (第 6 地点)	河和田 3 丁目 2324-1, -2, -3 の一部, -8, -9, 2325-1 の一部, 2327-1 の一部	08201	042	36° 22' 16"	140° 24' 29"	2010.5.27	34.0	宅地造成
台渡里官衛遺跡 (台渡里第 62 次・第 72 次)	渡里町字アラヤ 3057-2	08201	276	36° 24' 36"	140° 25' 52"	2010.6.1 (台渡里第 62 次) 2010.6.13 (台渡里第 72 次)	69.08	個人住宅建替
台渡里官衛遺跡 (台渡里第 63 次)	渡里町字前原 2865	08201	276	36° 24' 30"	140° 26' 06"	2010.6.9	59.1	宅地造成
台渡里官衛遺跡 (台渡里第 65 次)	渡里町 2835-2, 2835-11, 2835-12	08201	276	36° 24' 23"	140° 26' 07"	2010.08.10	14.0	駐車場造成
台渡里官衛遺跡 (台渡里第 66 次)	渡里町字前原 2865-6	08201	276	36° 24' 28"	140° 26' 06"	2010.08.20	18.0	個人住宅建築
台渡里官衛遺跡 (台渡里第 67 次)	渡里町字前原 2865	08201	276	36° 24' 27"	140° 26' 07"	2010.08.20	13.8	個人住宅建築
台渡里官衛遺跡 (台渡里第 71 次)	渡里町字前原 2880-1, 287703, 2879-2, 2881-2 の一部	08201	276	36° 24' 30"	140° 25' 59"	2010.09.21	3.75	物置及びカーポート建築
台渡里官衛遺跡 (台渡里第 74 次)	渡里町字前原 2867	08201	276	36° 24' 29"	140° 26' 03"	2010.11.30	27.0	宅地造成
台渡里官衛遺跡 (台渡里第 75 次)	渡里町字前原 2894-8, -2, -37 番地	08201	276	36° 24' 23"	140° 25' 59"	2010.12.1	10.2	個人住宅建築
台渡里官衛遺跡 (台渡里第 76 次)	渡里町字前原 2832-9	08201	276	36° 24' 22"	140° 26' 08"	2010.12.2	15.0	個人住宅建築
台渡里官衛遺跡 (台渡里第 78 次)	渡里町字前原 2898-1	08201	276	36° 24' 25"	140° 25' 57"	2010.12.17	45.0	賃貸住宅建替
台渡里官衛遺跡 (台渡里第 80 次)	渡里町字長者山 3070 地先~3082 地先 (市道常磐 223 号線)	08201	276	36° 23' 37"	140° 25' 50"	2011.1.5 ~ 1.6	15.9	道路拡幅及び公共下水道埋設
台渡里官衛遺跡 (台渡里第 82 次)	渡里町字宿屋敷 3013-5	08201	276	36° 24' 30"	140° 26' 03"	2011.3.2	19.5	個人住宅建築
谷田古墳群 (第 12 地点)	酒門町 590-1 番地	08201	069	36° 20' 58"	140° 29' 52"	2010.6.4	49.0	共同住宅建築
釜神町遺跡 (第 5 地点)	備前町 752 番地 8	08201	020	36° 22' 23"	140° 27' 52"	2010.6.4	44.0	個人住宅建築
釜神町遺跡 (第 24 地点)	備前町 808 番地 2	08201	020	36° 22' 31"	140° 27' 51"	2010.12.24	4.5	個人住宅建築

所収遺跡名	所在地	コード		北緯 ° ′ ″	東経 ° ′ ″	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
上平遺跡 (第1地点)	栗崎町字上平 2241-6	08201	193	36° 22′ 31″	140° 27′ 51″	2010.7.1	17.0	個人住宅建築
馬場尻遺跡 (第3地点)	田野町字馬場尻 168-1	08201	147	36° 25′ 17″	140° 24′ 54″	2010.7.6	35.0	店舗建築
馬場尻遺跡 (第4地点)	田野町 175, 176の一部, 177-2 番地	08201	147	36° 25′ 21″	140° 24′ 50″	2010.9.21	4.5	個人住宅建替
坪遺跡 (第13地点)	河和田 1丁目 1637-1, 1638	08201	015	36° 25′ 21″	140° 24′ 50″	2010.7.16	23.0	集合住宅建築
坪遺跡 (第14地点)	河和田 3丁目 2376-1, 2376-2	08201	015	36° 22′ 19″	140° 24′ 34″	2010.7.6 (第1次) 2010.10.29 (第2次)	36.0 (第1次) 42.0 (第2次)	個人住宅建築
坪遺跡 (第16地点)	河和田 2丁目 1713-10 外	08201	015	36° 22′ 28″	140° 24′ 34″	2011.2.4	60.0	宅地造成
薬王院東遺跡 (第2地点第3次区画 No.2)	元吉田町字東組 573 番 15	08201	128	36° 21′ 34″	140° 28′ 41″	2010.7.15 ~ 7.16	6.0	個人住宅建築
薬王院東遺跡 (第2地点第3次区画 No.3)	元吉田町字東組 573 番 16	08201	128	36° 21′ 34″	140° 28′ 41″	2010.7.15 ~ 7.16	6.0	個人住宅建築
薬王院東遺跡 (第2地点第3次区画 No.6)	元吉田町字東組 573 番 20	08201	128	36° 21′ 35″	140° 28′ 42″	2011.2.10	9.6	個人住宅建築
堀遺跡 (第3地点区画 No.1)	渡里町字高野台 3231 番 10	08201	064	36° 24′ 33″	140° 25′ 39″	2010.12.1	9.45	個人住宅建築
堀遺跡 (第22地点)	渡里町字高野台 3307 番 20	08201	064	36° 24′ 30″	140° 25′ 32″	2010.7.28	17.25	個人住宅建築
堀遺跡 (第24地点)	堀町字馬場東 307-2, 307-3	08201	064	36° 24′ 28″	140° 25′ 19″	2010.8.27	5.7	個人住宅建築
堀遺跡 (第25地点)	堀町字馬場東 297-3	08201	064	36° 24′ 29″	140° 25′ 14″	2010.9.15	10.0	個人住宅建築
堀遺跡 (第28地点)	堀町 382-1, 293-3	08201	064	36° 24′ 27″	140° 25′ 13″	2011.2.16	30.0	個人住宅建築
南台遺跡 (第3地点)	上国井町 3906 番地	08201	036	36° 26′ 46″	140° 26′ 13″	2010.8.18	18.6	個人住宅建築
アラヤ遺跡 (第3地点 (台 渡里第68次))	渡里町字金沢 3111, 字アラヤ 3090-3	08201	024	36° 24′ 39″	140° 25′ 43″	2010.9.1	8.0	個人住宅建築
大鋸町遺跡 (第12地点)	元吉田町 2311-7 番地	08201	011	36° 21′ 20″	140° 29′ 04″	2010.9.10	15.0	個人住宅建築
西原遺跡 (第2地点)	渡里町字野木 3387 番 132, 133	08201	026	36° 24′ 41″	140° 25′ 22″	2010.9.15	9.3	個人住宅建築
文京1丁目遺跡 (第1地点区画 No.1)	文京1丁目 1898-8 番地	08201	023	36° 23′ 57″	140° 26′ 57″	2010.10.14	9.0	個人住宅建築
文京1丁目遺跡 (第1地点区画 No.2)	文京1丁目 1898-7 番地	08201	023	36° 23′ 57″	140° 26′ 58″	2010.11.25	10.5	個人住宅建築
谷田遺跡 (第1地点第2次)	谷田町 630-1	08201	002	36° 21′ 17″	140° 30′ 18″	2010.11.4	64.5	共同住宅建築
茨城高等学校遺跡 (第1地点第4次)	八幡町 8-54	08201	062	36° 23′ 15″	140° 27′ 35″	2010.11.24	4.0	八幡宮拝殿及び 幣殿の保存修理 に伴う電気・水 道管理設
下遠田遺跡 (第2地点)	五平町字原屋敷 334-1	08305	179	36° 21′ 03″	140° 20′ 30″	2011.2.1	13.0	個人住宅建築
釜久保遺跡 (第5地点)	大塚町字釜久保 1612 番 2	08201	124	36° 23′ 13″	140° 23′ 55″	2011.2.8	36.0	寄宿舎建築
下畑遺跡 (第3地点)	元石川町 1749-1 番地	08201	006	36° 19′ 28″	140° 29′ 58″	2011.2.10	41.5	個人住宅・農業 用倉庫建築
新地遺跡 (第2地点)	六反田町 955 番の一部	08201	184	36° 19′ 28″	140° 29′ 58″	2011.2.21	10.1	個人住宅建築
下本郷遺跡 (第4地点)	千波町 24 番地 1 ほか	08201	012	36° 19′ 28″	140° 29′ 58″	2011.1.21	0.9	個人住宅建築
下本郷遺跡 (第5地点)	千波町 688-1, -2, 686	08201	012	36° 19′ 28″	140° 29′ 58″	2011.2.22	37.5	宅地造成
水戸城跡 (第7地点第25次)	三の丸 1-6-29 (旧弘道館)	08201	172	36° 22′ 31″	140° 28′ 38″	2010.10.4 ~ 10.8	2.0	史跡の既存に伴 う原状復旧
沓掛遺跡 (第4地点第2次)	見川町 2570 番 1, 4	08201	167	36° 21′ 32″	140° 26′ 41″	4月13日~6月11日	418.0	個人住宅建築

所収遺跡名	所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
一戦塚遺跡 (第1地点第2次)	牛伏町 181 番 1 ほか	08201	069	36° 23' 23"	140° 21' 44"	7月13日～8月13日	168.32	個人住宅建築
堀遺跡 (第22地点第2次)	渡里町字高野台 3307 番 20	08201	064	36° 24' 29"	140° 25' 32"	9月9日～10月2日	65.3	個人住宅建築
台渡里官衙遺跡 (第69次)	渡里町字前原 2865 番 6	08201	276	36° 24' 29"	140° 26' 5"	10月2日～10月7日	67.26	個人住宅建築
台渡里官衙遺跡 (第70次)	渡里町字前原 2865 番	08201	276	36° 24' 28"	140° 26' 6"	10月2日～10月15日	68.0	個人住宅建築
堀遺跡 (第22地点第2次)	渡里町字高野台 3307 番 20	08201	064	36° 24' 30"	140° 25' 32"	9月9日～10月2日	65.3	個人住宅建築
谷田遺跡 (第1地点第2次)	谷田町 630-1	08201	002	36° 21' 17"	140° 30' 18"	11月15日	120.5	共同住宅建築
水戸城跡 (第7地点第25次)	三の丸 1 丁目 6-29 (旧弘道館)	08201	172	36° 22' 33"	140° 28' 40"	1月12日	—	史跡整備
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
金剛寺遺跡 (第8地点)	包蔵地	近世	溝跡 2 (うち近世 1)・土坑 4		土師質土器 (近世)			
香掛遺跡 (第5地点)	集落跡	時期不明			土師器			
吉田古墳群 (第9地点)	集落跡	奈良・平安・中世			土師器・須恵器 (奈良・平安)・土師質土器 (中世)			
吉田古墳群 (第10地点)	集落跡	近世以降	井戸跡 (近世以降)		土師質土器			
大井古墳群 (第1地点第2次)	集落跡							
渡里町遺跡 (第11地点)	集落跡	奈良・平安・近代	地下式坑 1・土坑 2・硬化面 1		平瓦 (奈良・平安)・磁器・土師質土器・瓦質土器 (近代)			
渡里町遺跡 (第12地点)	集落跡	縄文・古墳・奈良・平安	竪穴建物跡 6 (古墳・奈良・平安)		敲磨具 (縄文カ)・須恵器・土師器 (奈良・平安)			
赤塚遺跡 (第5地点第4次)	集落跡	時期不明	井戸跡 2					
赤塚遺跡 (第6地点)	集落跡	近世	廃棄土坑 1 (近世)		陶磁器・土製品・軒平瓦・牡蠣殻 (近世)			
台渡里官衙遺跡 (台渡里第62次・第72次)	官衙跡	奈良・平安・近世・近代	竪穴建物跡 1 (奈良・平安)・溝跡 2 (奈良・平安)		須恵器・軒丸瓦・平瓦・丸瓦 (奈良・平安)・土師質土器・陶器 (近世)・ガラス製品 (近代)		台渡里官衙遺跡 (長者山地区) の正倉院を囲繞する内側と外側の区画溝跡を確認した。	
台渡里官衙遺跡 (台渡里第63次)	官衙跡	古墳	竪穴建物跡 2 (古墳)		土師器・須恵器 (古墳)			
台渡里官衙遺跡 (台渡里第65次)	官衙跡	奈良・平安			土師器・須恵器 (奈良・平安)			
台渡里官衙遺跡 (台渡里第66次)	官衙跡	奈良	竪穴建物跡 1		土師器・須恵器 (奈良)			
台渡里官衙遺跡 (台渡里第67次)	官衙跡	古墳	溝跡 1 (古墳)		縄文土器 (加曾利 E4 式)・須恵器 (古墳)			
台渡里官衙遺跡 (台渡里第71次)	官衙跡	平安			土師器 (平安)			
台渡里官衙遺跡 (台渡里第74次)	官衙跡	古墳・奈良・平安	竪穴建物跡 2・掘立柱建物跡 1・溝跡 1		須恵器 (古墳・奈良・平安)			
台渡里官衙遺跡 (台渡里第75次)	官衙跡	奈良・平安	溝跡 1 (奈良・平安)		土師器 (奈良・平安)			
台渡里官衙遺跡 (台渡里第76次)	官衙跡	平安	掘立柱建物跡 1 (平安)		土師器・須恵器 (平安)・鉄釘 (平安)			
台渡里官衙遺跡 (台渡里第78次)	官衙跡	奈良・平安	溝跡 2・土坑 1・竪穴状遺構 1		土師器 (平安)・平瓦 (奈良・平安)			
台渡里官衙遺跡 (台渡里第80次)	集落跡 / 官衙跡	縄文・奈良・平安	竪穴建物跡 1・掘立柱建物跡 1・溝跡 2 (うち近世以降 1)・土坑 1		縄文土器 (加曾利 B 式)・平瓦・丸瓦 (奈良・平安)			
台渡里官衙遺跡 (台渡里第82次)	官衙跡	古墳・奈良・平安	竪穴建物跡 1 (古墳時代終末期)・掘立柱建物跡 1 (奈良・平安)		土師器・須恵器			
谷田古墳群 (第12地点)	包蔵地	時期不明			土器			
釜神町遺跡 (第5地点)	集落跡	縄文・近世・近代			縄文土器 (中期後葉)・陶器・磁器 (近世～近代)・土製品 (近代)			
釜神町遺跡 (第24地点)	集落跡	近世・近代			陶器・磁器 (近世～近代)・ガラス製品 (近代)			
上平遺跡 (第1地点)	集落跡	近世	溝跡 1 (近世)		縄文土器・土師器 (奈良・平安)・陶器 (近世)			
馬場尻遺跡 (第3地点)	集落跡	古墳			土師器 (古墳時代前期)			
馬場尻遺跡 (第4地点)	集落跡	時期不明	竪穴建物跡 1					
環遺跡 (第13地点)	集落跡	時期不明	溝跡 1・土坑 3 (時期不明)					
環遺跡 (第14地点)	集落跡	縄文・奈良・平安・中世	溝跡 3 (中世以降)・土坑 2・竪穴建物跡 (奈良・平安)・ピット 1		縄文土器 (阿玉台 I b 式・加曾利 E2～E3 式・加曾利 E4 式・大木式)・磨製石斧 (縄文)・土師器・須恵器 (奈良・平安)・土師質土器 (中世)			



所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
坪遺跡 (第 16 地点)	集落跡	縄文・近世	溝跡 1 (近世)	縄文土器 (大木式・加曾利 E2 式)	
薬王院東遺跡 (第 2 地点第 3 次区画 No.2)	集落跡	弥生・古墳	竪穴建物跡 1 (弥生後期カ)	弥生土器 (十王台式)・土師器 (古墳時代後期以降)	
薬王院東遺跡 (第 2 地点第 3 次区画 No.3)	集落跡	奈良・平安	竪穴建物跡 1 (奈良・平安)	土師器 (奈良・平安)	
薬王院東遺跡 (第 2 地点第 3 次区画 No.6)	集落跡	平安	竪穴建物跡 2 (平安)・土坑 1	土師器・須恵器 (平安)	
堀遺跡 (第 3 地点区画 No.1)	集落跡	奈良・平安	竪穴建物跡 2 (奈良・平安)	土師器・須恵器 (奈良・平安)	
堀遺跡 (第 22 地点)	集落跡	古墳・奈良・平安	竪穴建物跡 1 (古墳)・溝跡 1 (平安)	土師器・須恵器 (古墳・奈良・平安)	
堀遺跡 (第 24 地点)	集落跡	奈良・平安	竪穴建物跡 1 (奈良・平安)	土師器・須恵器 (奈良・平安)	
堀遺跡 (第 25 地点)	集落跡	奈良・平安		土師器 (奈良・平安)	
堀遺跡 (第 28 地点)	集落跡	奈良・平安		土師器・須恵器 (奈良・平安)	
南台遺跡 (第 3 地点)	包蔵地	奈良・平安カ		土師器 (奈良・平安カ)	
アラヤ遺跡 (第 3 地点 (台渡里第 68 次))	集落跡	縄文・平安	土坑 1 (縄文カ)	縄文土器 (堀之内式・加曾利 B 式)・須恵器 (平安)	
大鋸町遺跡 (第 12 地点)	集落跡	縄文・弥生・奈良・平安	竪穴建物跡 2 (古墳時代中期以前?)	縄文土器 (綱取 2 式)・弥生土器 (十王台式)	
西原遺跡 (第 2 地点)	集落跡	奈良・平安・近代	竪穴建物跡 2 (奈良・平安)	土師器・須恵器 (奈良・平安)・陶器 (近代)	
文京 1 丁目遺跡 (第 1 地点区画 No.1)	集落跡	縄文	土坑 2 (縄文中期)	縄文土器 (大木 8b 式・加曾利 E2 式)	
文京 1 丁目遺跡 (第 1 地点区画 No.2)	集落跡 / 古墳	縄文・古墳	土坑 1 (縄文)・古墳周溝	土師器 (古墳時代中期)・埴輪 (古墳時代前期末～中期前葉)	前方後円墳の可能性のある上面幅 7.5～8.0m の古墳の周溝が確認された。
谷田遺跡 (第 1 地点)	集落跡	古墳	竪穴建物跡 3 (古墳時代中期)	土師器 (古墳時代中期)	
茨城高等学校遺跡 (第 1 地点第 4 次)	集落跡	縄文・平安・近世・近現代	土坑 4 (縄文)・硬化面	須恵器 (平安)・磁器 (近世・近代)・海老形土製品 (近現代)・ガラス製品 (現代)	
下遠田遺跡 (第 2 地点)	集落跡	古墳・奈良・平安		土師器・須恵器 (奈良・平安)	
釜久保遺跡 (第 5 地点)	集落跡	古墳・近世	竪穴建物跡 1 (古墳時代前期)	土師器 (古墳時代前期)・煙管 (近世)	
下畑遺跡 (第 3 地点)	集落跡	縄文・古墳	土坑 4 (縄文)	縄文土器 (早期終末・加曾利 E1 式・加曾利 E2 式・加曾利 E3 式・加曾利 E4 式・堀之内 1 式・堀之内 2 式・加曾利 B1 式・晩期)	
新地遺跡 (第 2 地点)	包蔵地	中世・近世		土師質土器 (中世～近世)	
下本郷遺跡 (第 4 地点)	包蔵地	時期不明		剥片 (淡泊石製)	
下本郷遺跡 (第 5 地点)	包蔵地	縄文・古墳		縄文土器 (加曾利 E 式・曾利式・連弧文系)・埴輪	筑波山周辺もしくは常陸太田市元太田山窯の製品と考えられる埴輪片が出土し、当遺跡内に未確認の古墳が存在する可能性が出てきた。
水戸城跡 (第 7 地点第 25 次)	城館跡	近世	大形円形土坑 1・溝状遺構 (近世)	陶器・磁器・土師質土器・軒丸瓦・平瓦 (近世)	正庁の諸役会所の床下から弘道館造営以前の井戸跡が検出され、石材・瓦・土器・陶磁器の他に多量の焼土や炭化粒子が出土し、焼成に関わる遺構もしくは焼損した建造物等の存在が想定された。
杵掛遺跡 (第 4 地点第 2 次)	集落跡	縄文・古墳・近世	土坑 15 (近世 1・時期不明 14)・ピット 10 (古墳時代 1・時期不明 9)	縄文土器 (加曾利 E 式・後期以降)・土師器 (古墳前期)・土師質土器・銭貨 (近世)	
一戦塚遺跡 (第 1 地点第 2 次)	集落跡	縄文・弥生・古墳・奈良・平安	竪穴建物跡 1 (古墳)・溝跡 1 (奈良・平安)	縄文土器 (浮島式)・打製石斧・弥生土器 (十王台式)・双孔円板 (古墳)・青銅製縄 (奈良・平安)・土師器 (古墳)・埴石 (古墳)・須恵器 (古墳・奈良・平安)・砥石 (古墳)	牛伏古墳群に近接する本地点からは、古墳時代前期の竪穴建物跡が検出されるとともに、古墳時代中期の石製模造品や古墳時代終末期の土器等も出土し、牛伏古墳群の造営に関わった集落遺跡である可能性が出てきた。また、断面が薬研状を呈する奈良・平安時代の溝跡も確認され、溝により囲繞する何らかの施設があったことが判明した。
台渡里官衙遺跡 (第 69 次)	官衙跡	古墳・奈良・平安・近世	柵列 1 (古墳)・井戸跡 (近世)	土師器 (古墳)・須恵器 (古墳・奈良・平安)・土師質土器・陶器 (近世)	斜め方位を採用する 7 世紀後半に造営された柵列が確認された。
台渡里官衙遺跡 (第 70 次)	官衙跡	古墳・奈良・平安	溝跡 1 (古墳)	土師器 (古墳・奈良)・須恵器 (古墳・奈良)	7 世紀後半に掘削され、8 世紀初頭に埋没した区画溝が確認された。
堀遺跡 (第 22 地点第 2 次)	集落跡	古墳・奈良・平安	竪穴建物跡 1 (古墳)・溝跡 1 (平安)・土坑 1 (時期不明)	土師器 (古墳・平安)・須恵器 (奈良・平安)・瓦 (平安)	7 世紀後半の竪穴建物跡と 9 世紀第 2 四半期に掘削されたと想定されていた官衙関連施設の区画溝が重複して確認され、区画溝の掘削年代が平安時代であることが確定した。

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
谷田遺跡 (第1地点第2次)	集落跡	縄文・古墳・平安	竪穴建物跡5(古墳3・平安2)	縄文土器(黒浜式・加曾利E式・堀之内式)・土師器(古墳)・須恵器(奈良・平安)・砥石(平安)・土製支脚(平安)	これまで縄文時代と古墳時代後期の集落遺跡と認識されていた当遺跡内において、古墳時代前期・後期・終末期・奈良時代・平安時代の竪穴建物が確認され、古墳時代前期・平安時代などこれまで知られていなかった土地利用が明らかとなった。
水戸城跡 (第7地点第27次)	城館跡	近世	—	磁器・小丸軒棧瓦・板状瓦・平瓦(近世)	

水戸市埋蔵文化財調査報告 第 126 集

## 平成 22 年度水戸市内遺跡発掘調査報告書

印刷 令和 4 年 3 月 29 日

発行 令和 4 年 3 月 29 日

編集 水戸市教育委員会

発行 水戸市教育委員会

印刷 佐藤印刷株式会社

〒 310-0043 水戸市松が丘 2 丁目 3 番 23 号

TEL 029-241-1212 (代)